

332.2221

A258A

上海經濟調查團報告書

愛知縣東亞輸出組合

国立国会図書館



0022274000

0022274-000

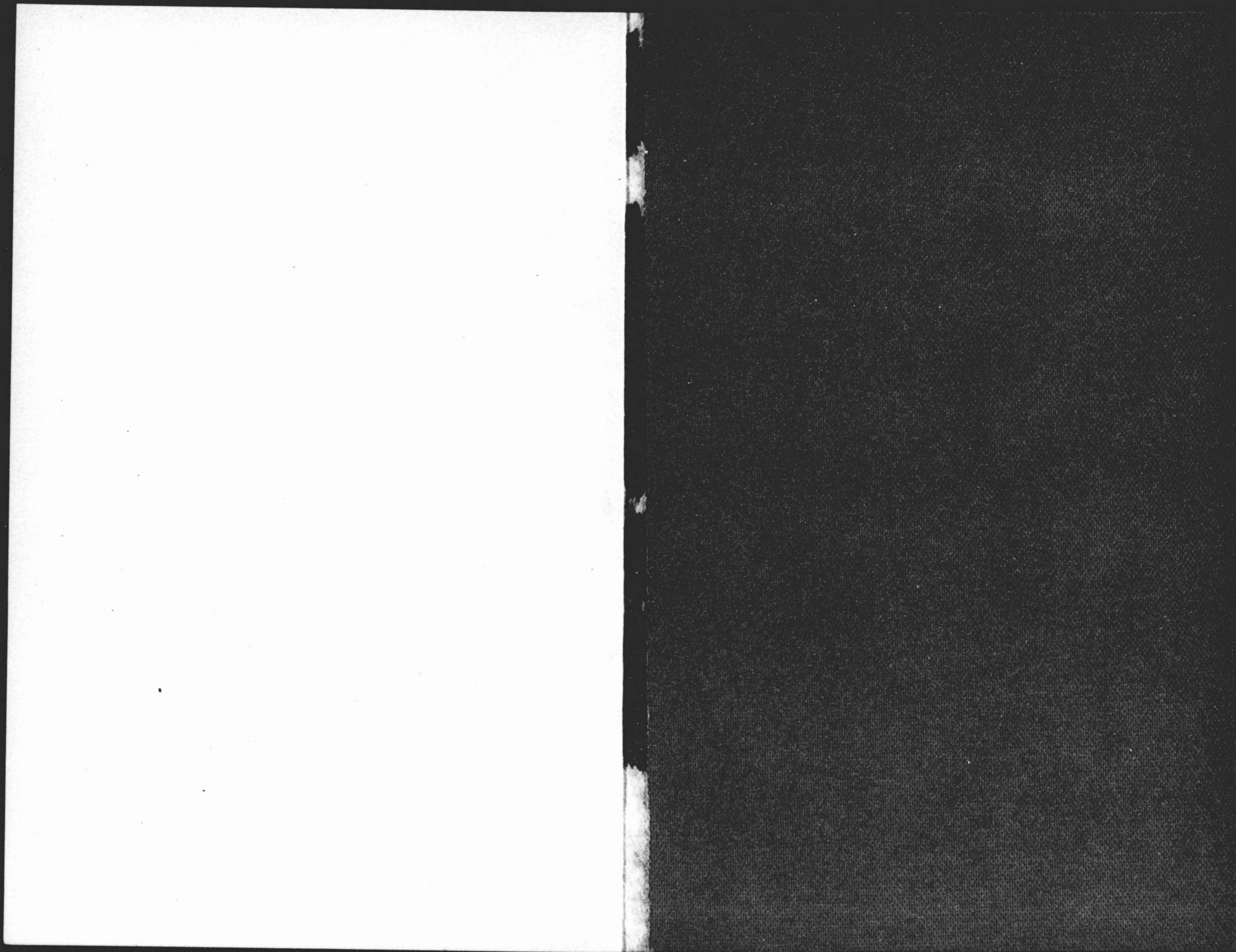
332.2221-A258s

上海經濟調查團報告書

愛知県東亞輸出組合

1938

ADC



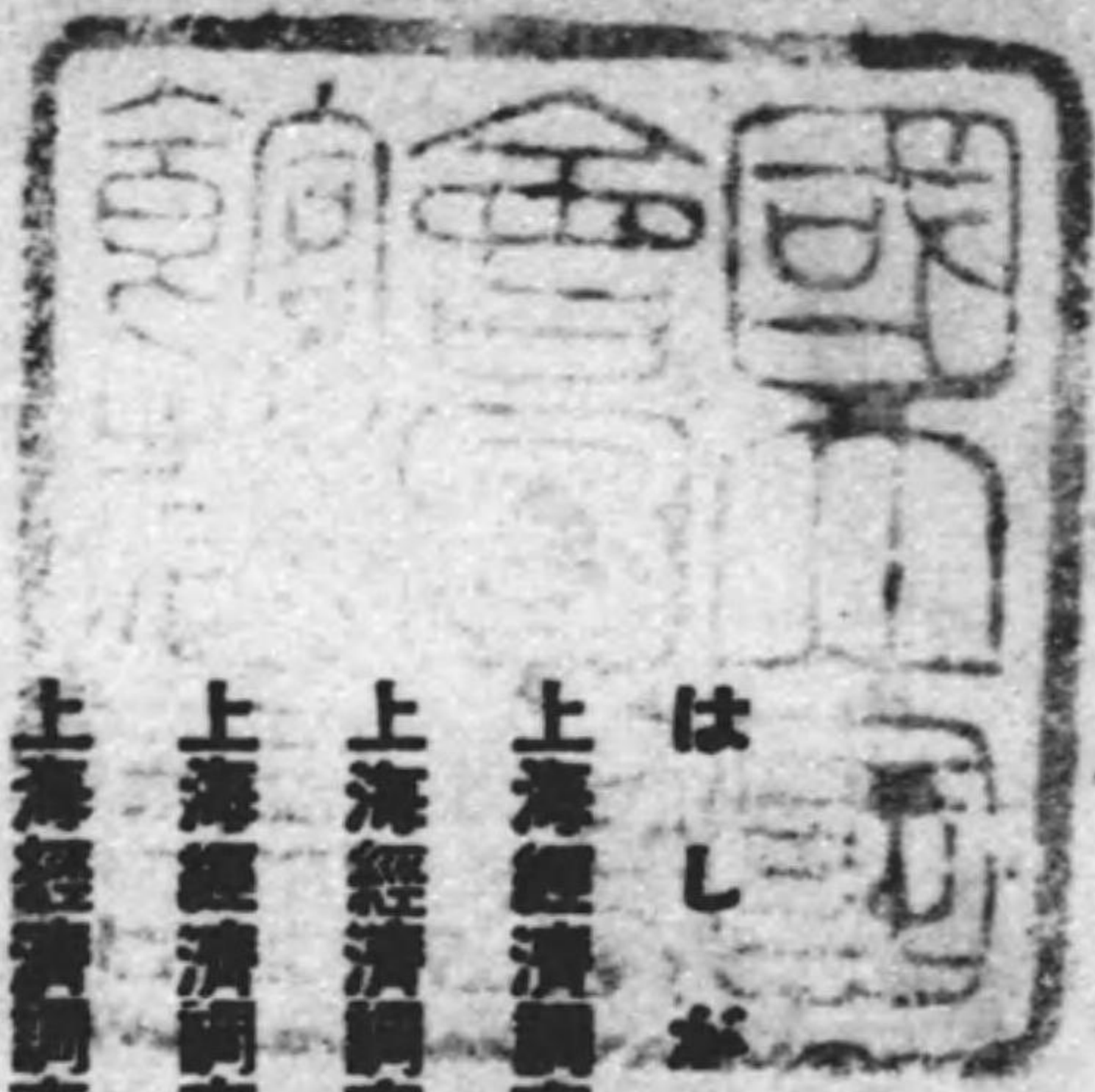
FM 99

昭和十三年四月

上海經濟調查團報告書

愛知縣東亞輸出組合

332.2221
A2582



目次

はしき.....

上海經濟調査團の計畫並に趣旨.....一

上海經濟調査團參加者.....四

上海經濟調査團日程.....六

上海經濟調査團時局經濟懇談會.....七

中支の治安状態.....一〇

中支の物價.....二

上海經濟事情.....三

一、行政地區の變革.....三

二、華商工場破産の程度と善後處置.....五

三、交通網の重要性.....二

四、上海市場異變事情.....六

中支に於ける列國の經濟活動.....三

一、概説.....三

二、上海の支那に於ける地位.....九

三、各國の經濟活動.....四

中支の資源.....五

一、概説.....五

二、農業.....六

三、林産.....六

四、牧畜.....六

五、水産.....六

六、鑛産.....七

結論.....七

交通状態.....七

一、鐵道.....九

二、公路.....八

三、市内交通狀況.....八

四、航空路.....八

五、航空運.....八

中支の金融状態……………一六八

金融安全辦法……………一六九

金融安全補充辦法……………一七〇

中支の生産工業と職綱……………一七三

概説……………一七三

一、事變前の生産工業……………一七五

二、工場の被害状態……………一七五

三、生産の壊滅と需給……………一七八

四、中支工業に對する我政策と希望……………一八二

五、新支那に活躍の目標は……………一八三

毛糸毛織關係について……………一八五

一、緒言……………一八五

二、輸入状態……………一八五

三、生活状態及事變による被害の程度……………一八五

四、關稅問題……………一八三

中支に於ける紡織業……………一八七

一、緒言……………一八七

二、棉花事情……………一七〇

三、綿業事情……………一七〇

四、綿布市場としての中支……………一七四

中支に於ける莫大小……………一七四

中支特に上海方面に於ける衛生陶器に就いて……………一七〇

中支に於ける掛置時計に就いて……………一七〇

一、序……………一七〇

二、事變前の狀況……………一七二

三、事變後の狀況と見透……………一七四

四、結び……………一七六

中支に於ける樂器の生産状態及び事變後の變化……………一七六

中支より北支滿洲への移輸出状態……………一七六

縣産品の販路擴張方策……………一七〇

今後の取引に就て……………一七三

中支の文具……………一七三

上海需給狀況……………一七三

輸入狀況……………一七三

競争狀況……………一七三

取扱商人の動靜……………一七三

上海戦後の漆器荒物の商況……………一七四

上海に於ける日本品の動きと要望……………一七五

南京の商況……………一七六

南京の將來……………一七六

上海に於ける子供乗物……………一七九

中支に於ける玩具……………一八三

上海に於ける玩具の製造状態……………一八三

輸入品の販賣狀況……………一八三

現實の上海……………一八五

中支の將來……………一八七

名古屋港と中支の貿易……………一八九

名古屋港對中支輸出品……………一九三

名古屋港中支より輸入品……………一九三

陶磁器……………一九五

自轉車同部分品……………一九七

電氣器具、電球、電線類……………一九六

上海に於ける綿毛布……………一九九

はしがき

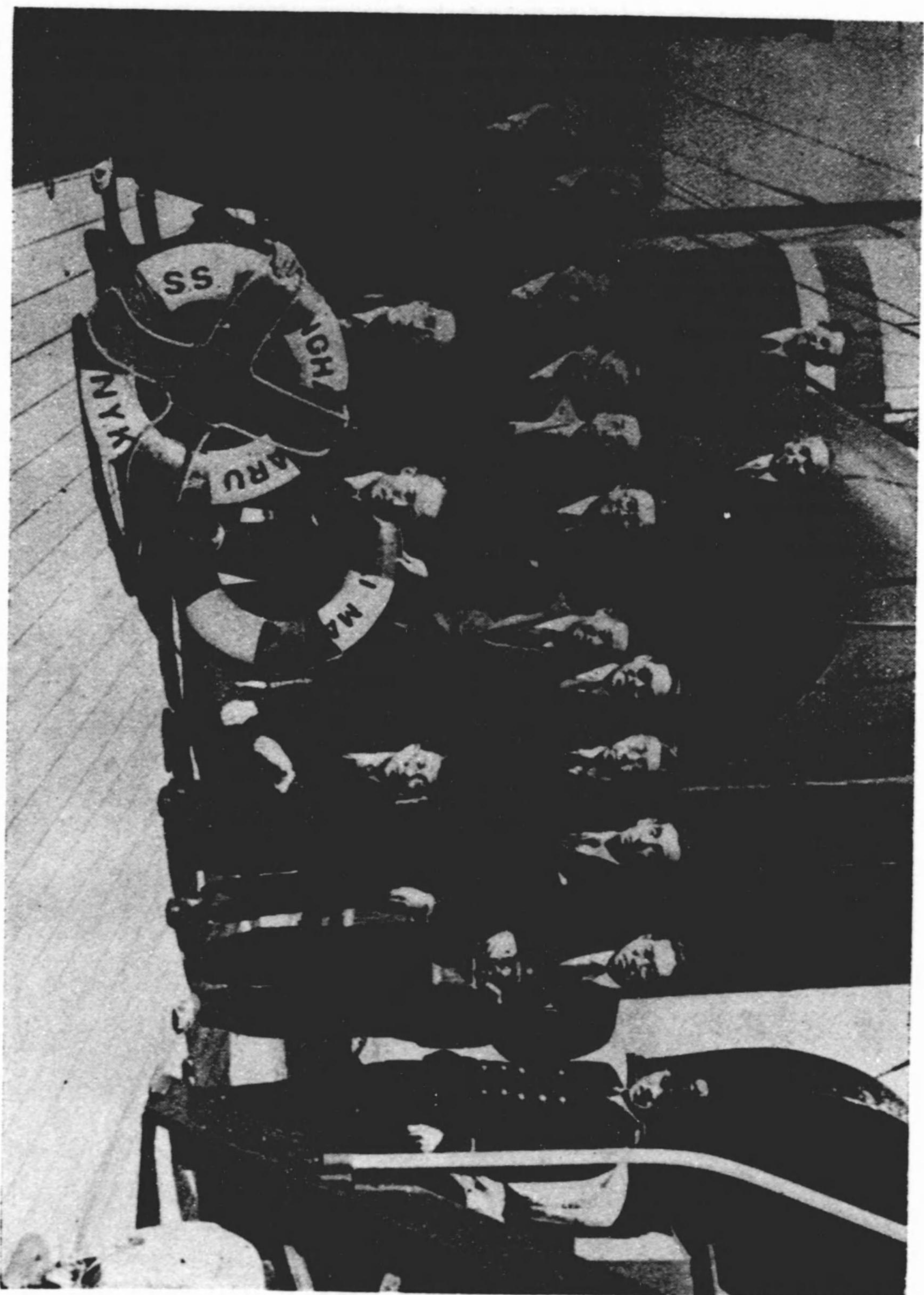
本書は曩に本組合主催愛知縣、名古屋市、名古屋商工會議所後援の下に上海經濟調查團を組織し去る三月七日名古屋發同二十二日歸任せる一行に對し夫々調査事項を區分、依囑せしも何分調査日數僅少と旅行中及歸任後も用務多忙を極め居る際而も一刻も早く本報告書を集録して業者の参考の一端にすべく原稿の提出方を急ぎし爲め内容に幾分の無理もあり不十分のも有り且つ刻一刻情勢の變化しつゝある爲に發行の頃に相當喰違ふものが出來た感が生じたるも、此點讀者の御諒察を仰ぎ度く猶報告者より熱意ある觀察等多々ありしも重複又は前後關係等にて掲載し不得りし箇所も多數ありて報告書の體形を傷け居る分生じ甚申譯なきも此點不惡諒承せられ度い。

本報告書には尙相當不備の點多々あるも御研究の方は擔任者又は本組合へ御照會の上御參考に供せられ度何かの御役にも立てば幸甚の至である。

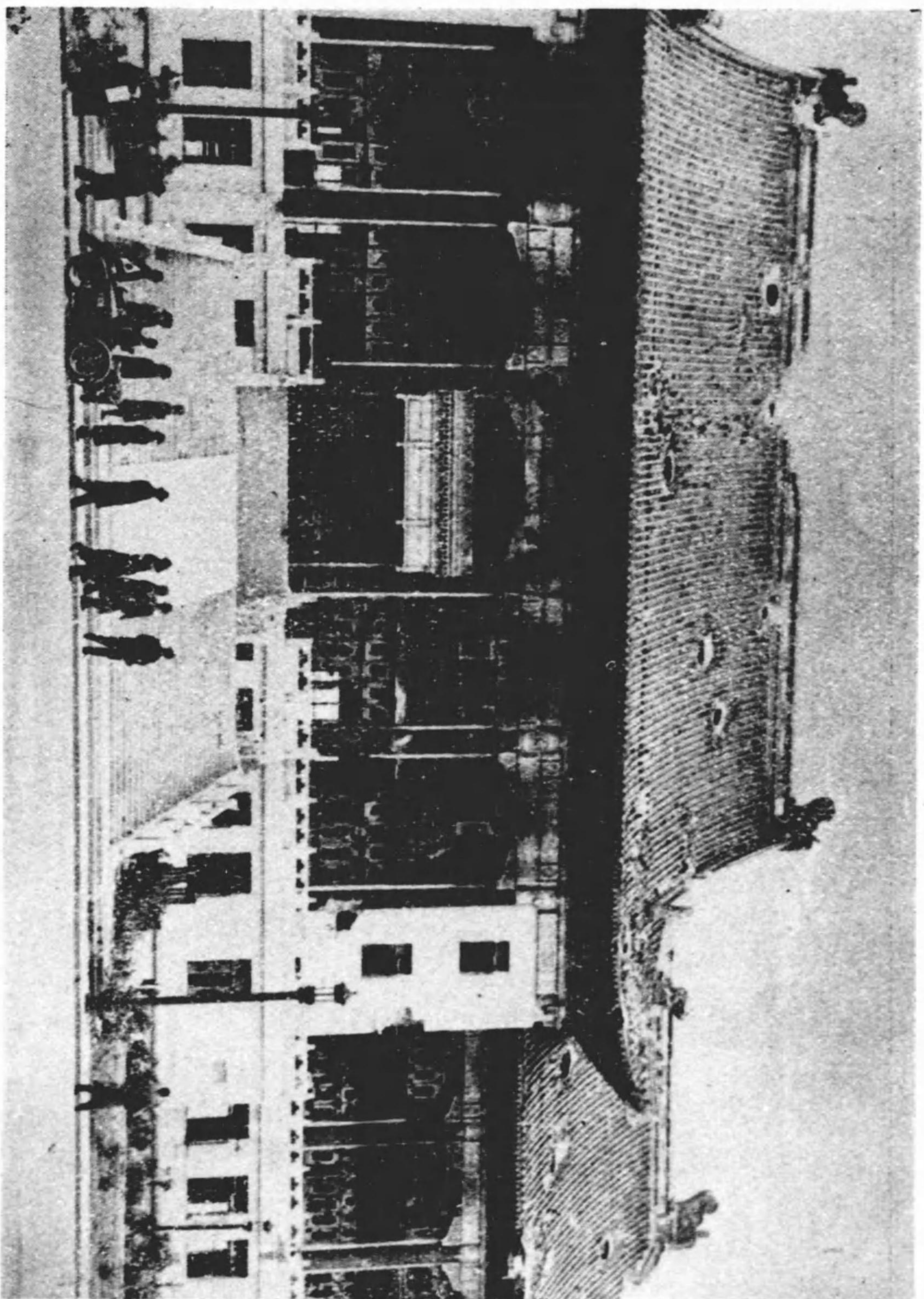
昭和十三年四月

編

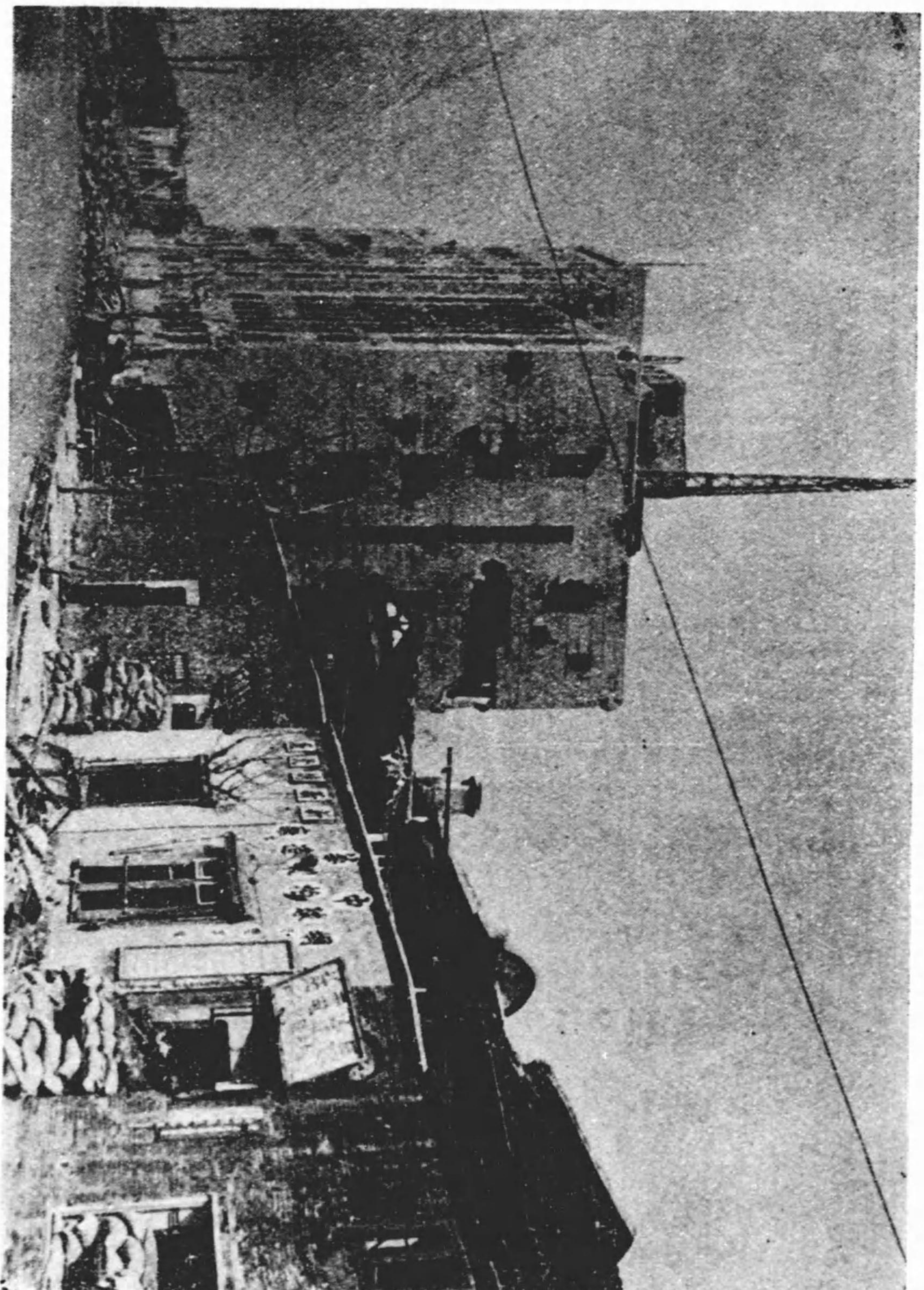
者



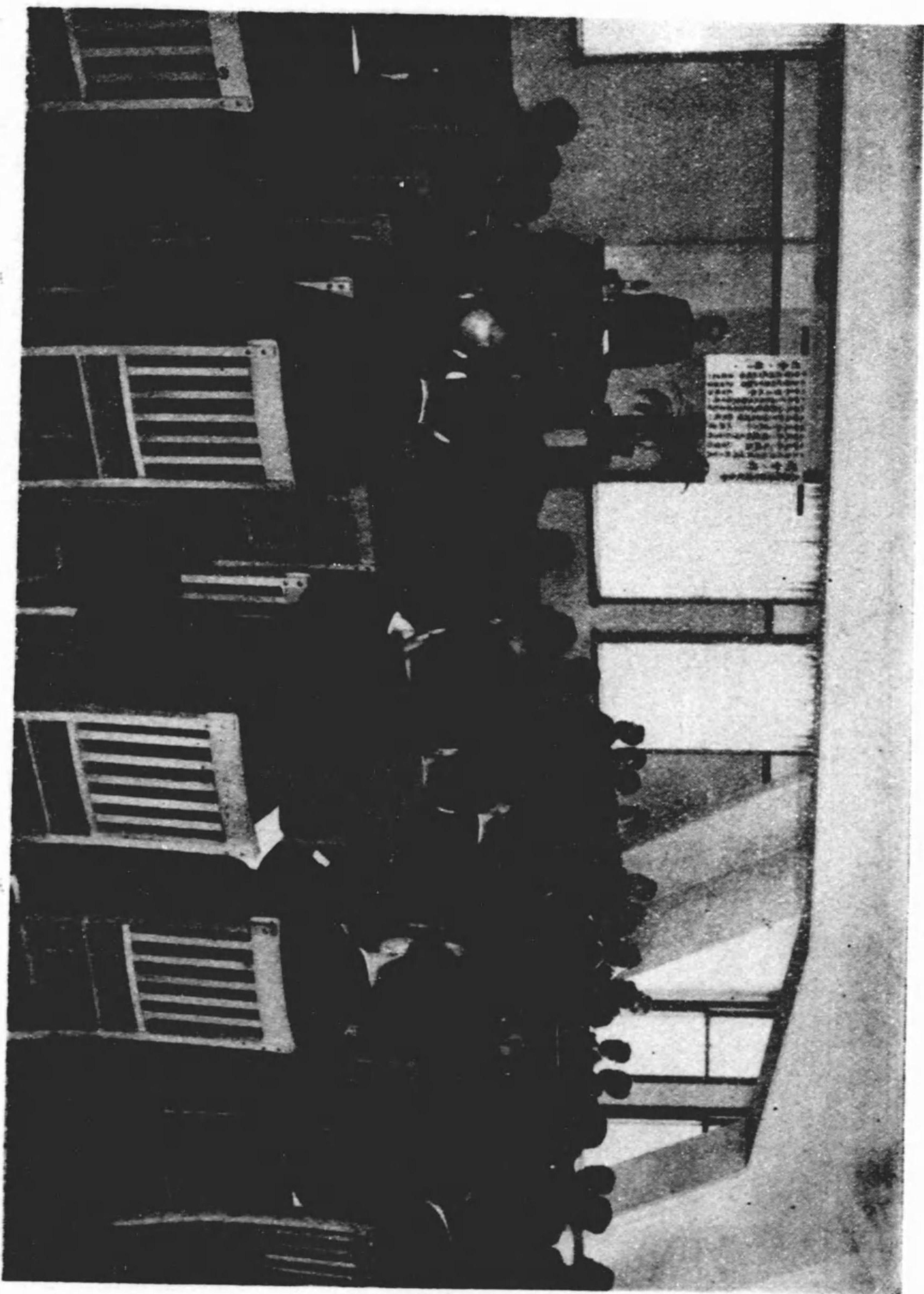
上海丸上に於ける視察團の一行



上海新市政府全景



上海鐵路總局と支那軍市街土築陣



上海經濟調查團報告會（於名古屋商工會議所）

上海經濟調查團の計畫並に趣旨

愛知縣東亞輸出組合
常務理事 野尻啓藏

野 尻 啓 藏

今回の支那事變は帝國の不擴大方針も暴虐支那の挑戰に不已得中支及び南支に迄擴大し勇猛果敢忠勇無比なる皇軍は疾風迅雷堅陣に寄る支那の最精銳軍を擊破し短時日の間に首都南京迄占領した乍然其戰勝の爲には幾多將士の生命と幾億の國帑を犠牲としたる等過去に類例なき深刻なるものである。

支那の軍略的最重要地であり、排日の根據地であり、國際經濟都市であり、あらゆる點に於て大支那の心臟とも云ふべき上海及中支に於て而も外國の煽動、援助強き支那軍を擊破したことは北支方面の事情とは格段の相違がある。

本組合は此大激變の中支經濟狀態調査の緊要急務なるを痛感し昨年末理事會に於て出來得る限り急速に其實行をなすべく協議し時機を待つたのである。

去一月下旬愈其機は熟し縣、市、商工會議所の後援を得て團員の募集を始めたるに熱意ある希望者にて忽豫定人員に充ち且縣、市、商工會議所よりも各一名宛指導者を派遣せらるゝことゝなつた。

(参加者氏名及日程は別記の通り)

調査團の主たる目的は上海方面の經濟に關する調査であるが僅か九日間の滞在である、而も大支那の心臓部たる中支の産業經濟の偉大なるものを事變眞最中に小日數の間に調査することは不可能であるが、新聞ラヂオ講演、或は映畫にて見聞するのと現地に親しく視察、調査するとは全く其會得する程度が異なるのである。

淺薄なる調査視察、見聞なりと雖も例へば「事變の動機」等に就ても支那側の惡宣傳は全世界に「日本の侵略的、計畫的なり」と稱され吾等は種々日本の正義を認識し居る積りながら兎角奇矯の言辭には耳を傾くる氣分多く、幾分でも其結果が侵略的に形作らるゝ時、惡宣傳に乗る恐なきにあらざるも現地を親しく視察せば

如何に支那政府が積極的に日本打倒の爲に戰備の充實をなし排日教育をなし排日經濟政策等をなし居たるか。

世界各國が夫々技術、財力、思想的に煽動援助をなし居たるか。

已に夫が支那自體實行に移り居たるを上海滞在數日にて強く感得するのである。

今次の機會を逸し今徹底的に根本手術を施さざれば日本の武力は第二としても政治的にも特に經濟

的には完全に中支より全滅的打撃を受くる關頭に押し進められ居たるを知り「よくやつた」「危かつた」と感激感謝の念溢れるのである。

中支の生産、工産、消費、貿易、其他激變の状態を視察調査し今後の方策に備へ軍或は居留官民各方面の意見を聞、其指導に基く經濟發展進出慾を現實と照合せて考査し得たことは餘りに廣汎にて筆紙に表し難き程なり、一方一行十九名中には家族關係者の中に出征將士のあるもあり、又知るも知らぬも皇軍に感謝慰問、護國の神靈に頼きて靈を慰め戰跡の見學、特に南京、蘇州、杭州へは各五名宛慰問班を組織して名古屋製の菓子を持参し心からの慰問に廻た。

本調査團は多忙の任務を終り歸名すると直に出征者よりの傳言を留守宅に報じ、或は各所に報告會を催し別記の如き調査資料を具に報告した、然るに其反響は頗る大にて一般に對して與へたる刺戟頗る大なるものありて即時進出或は調査團の計畫續々興り、殊に縣、市當局に於ても助成機關の大擴張を計畫に突進せらるゝ等多大なる効果を挙げ極めて有意義なりしを喜ぶ次第なり。

尙今後も参加者は益其眞髓に觸れたる計畫は勿論、同志を誘導して益効果を挙げんとするものなり、時局は内外俱に愈多端なり、どしどし専門的に調査進出を希望するものなり。

茲に出張先の官民各位の調査團に與へられたる御厚意御便宜を謝し後援に指導に盡力せられたる

縣、市、商工會議所、各位及特に上海名古屋商品紹介所長青木錦氏及書記福田義博氏が御多忙中連日諸般の便宜を與へられたるを厚く感謝する次第なり。

上海經濟調查團參加者

指導者	愛知縣商工主事	生田磯治
同	名古屋市主事補	增井修一
同	名古屋商工會議所書記	深澤光一郎
團長	愛知縣東亞輸出組合常務理事	野尻啓藏
調查員	毛織物 伏原毛織合資會社	伏原順四郎
同	清水商店	清水辰之助
同	松岡信次郎商店	松岡信次郎
後援	愛知縣東亞輸出組合	
名古屋	名古屋商工會議所	

調查員	綿織物 株式 服部商店	松井賢次郎
同	毛布 余語商店	余語善之助
同	雜貨 株式 蜂谷兄弟商會	齋藤幸
同	衛生陶器 日東貿易株式會社	鈴木英一
同	莫大小 岩田嘉七商店	岩田嘉七
同	同 水野潔商店	水野潔
同	時計 愛知時計電機株式會社	佐分清次
同	玩具 合名 岩田商店	小山文雄
同	樂器 帝國發明社	近藤榮
同	文具 舟橋商會	舟橋金造
同	漆器 岩田商店國產部	岩田銀重
同	小供乗物 合資 虫鹿商會	虫鹿芝一

上海經濟調查團日程

月日	日順	地名	發着	時間	摘要
三、七	第一日	名古屋	發	午後 八、三二	急行富士
八	二日	下關	着	午前 九、二五	
八	二日	門司	發	〃 一〇、一五	
九	二日	長崎	着	午後 三、〇五	一泊、池田屋旅館投宿 (水上警察(届出)) 長崎丸
〇	四日	上海	着	午後 三、五〇	上海滞在九泊(万歳館投宿) 挨拶廻、調査
一	五日	〃	〃		調査、視察
二	六日	〃	〃		〃
三	七日	〃	〃		調査、懇談會(於日本人俱樂部)
四	八日	〃	〃		南京 慰問班 五名
五	九日	〃	〃		杭州 〃 五名
六	十日	〃	〃		蘇州 〃 五名

上海經濟調查團 時局經濟懇談會

一七	十一日	上海	〃		調 查
一八	十二日	〃	〃		調 查
一九	十三日	〃	發	正午	上海丸
二〇	十四日	長崎	着	午後 一、〇〇	上陸一泊
二一	十五日	〃	發	午後 二、四五	急行
〃	十五日	門司	着	〃 七、四〇	
〃	十五日	下關	發	〃 八、三〇	急行富士
二三	十六日	名古屋	着	午前 九、五一	

一、會場 上海 日本人俱樂部

一、日時 昭和十三年三月十四日

午後三時半開會
午後六時半閉會

主催 愛知縣東亞輸出組合

砲聲なき戰場とも稱すべき上海に於ける官廳、團體、銀行、會社、商店の有力なる左記の方は不眠不休の御多忙中なるにも不拘、我々一行の御願に對し心より此懇談會に出席を賜り座長生田主事が次から次へと各位に上海の現状より經濟界の動向等の御意見發表を願はれたるに對し夫々懇切なる解説、名論を腹藏なく拜聽し得、尙縣產品に對する御批判或は御注意を承つて質問に入りて夫々御親切なる御答を得て極めて適切なる御指導と御啓發に預つた、團長より縣產品の解説書を來賓に呈し縣產品の販路開拓の御援助等を願つて懇談會を一先閉じ、別席にて小宴を催して各業者卓を圍みて専門的懇談に時の移るを知らず午後八時半散會した。此間五時間貴重なる時を一行に與へられたるを重ねて感謝するものなり。

當日の御出席者芳名左の通り。

- | | |
|----------|--------|
| 領事館 | 島田副領事殿 |
| 同 | 島津忠夫殿 |
| 日本商務官事務所 | 工藤幸劍殿 |
| 上海居留民國團長 | 甘濃益三郎殿 |
| 日本商工會議所 | 田邊書記長殿 |

- | | |
|----------|--------|
| 滿鐵事務所 | 米澤秀夫殿 |
| 臺灣物産陳列所長 | 高木秀熊殿 |
| 紡績聯合會 | 堤孝殿 |
| 橫濱正金銀行支店 | 石原榮次郎殿 |
| 三井銀行 | 佐藤支店長殿 |
| 三菱銀行 | 野崎支店長殿 |
| 大連汽船 | 山崎支店長殿 |
| 日本郵船支店 | 竹井毅殿 |
| 岡野建築事務所長 | 岡野重久殿 |
| 毛織物高綸洋行 | 高山正之殿 |
| 同 三井洋行 | 谷口幸次郎殿 |
| 毛織同業會 | 藤井辰之助殿 |
| 自轉車大輪洋行 | 清水喜太郎殿 |
| 綿織物阿部市洋行 | 古我辰吉殿 |

陶磁器	東華洋行	松原	增吉殿
莫大小	吉田號	田邊	雄二殿
時計	三菱商事	河野	清隆殿
雜貨	合同百貨店	早川	澄彦殿
同	實業百貨店	岩田	節雄殿
同	北田洋行	北田	宗治郎殿
同	日比野洋行	二川	芳殿
名古屋商品紹介所長		青木	錦殿
同	書記	福田	義博殿

中支の治安状態

皇軍の占領地區は大部分治安はよく維持せられ居るも今尙敗殘兵は時々出沒して皇軍を惱ますことあるも判明次第壊滅せられ追々減少し居ること當然なり、此間便衣隊は上海市中にも一萬に上り佛租界、舊英租界に時々殺人騒ぎや爆彈騒ぎが行はれ膽を冷し居る、是は大體は支那國民黨員或は

共產黨員にて政府の命により親日支那人を漢干と稱して暴力行爲により皇軍の宣撫工作を妨碍し居るものである、一般良民は政府の何系たるを不問、治安さへ保たれば敢て反抗するの意志なきは支那傳統の國民氣質なるも過去數年來國民政府は排日を以て一の國策として其強化には恐しき努力をなしたる爲に國民の頭には今回は今迄と異た浸透力が存して居る様である、殊に學生及インテリ階級に多い、政府も統制の取り易き方に力を入れたることと思はる。

商工業者は政府並に特殊層の排日強要に因り不得已得日貨不賣をなし居るものにて、其利害得失はよく承知の上なり、上海市内の果物商の如きは排日訓練相當行はれ居る由にて、日本産果物の不賣臺灣産バナ、等を取扱ふ者には暴力行使が相當あつたとのことである。

今や南京政府も一地方政權に墮し親日政權樹立せられたること、中支は勿論、南支の大部分も近く排日取締は嚴重となり親日政策は急速度に回復するものと察せらる。

大體右の状態なるを以て上海其他中支の都市では、日本人は少しの心配もなく外出も旅行も出来るのである、但地方では軍人軍族の服装をなし居る者は單獨に通交の節被害を受けること時にあるやに聞けり。

中支の物價

大體喰物は種類により非常に高い、物資の欠乏にも因るが大體輸送の不圓滑により運賃諸掛が高い點及復興氣分に充ち居る爲め、此際一儲の心裡により三割、五割と取ることは當然とせられ居る様である。一々物價を調ふことは到底困難且變動も激しき故茲には表はさぬが、例ば貨物自動車が一時間十五弗、乗用車が一時間五弗で夫にチップ一割を拂ふと云ふ有様であるから、凡が此調子である。

家賃等は虹口方面は空屋が非常に多い爲に高くはないとのこと、空屋の借入れも容易とのことである。

一方佛租界、舊英租界方面は喰物も平時と大差はない、特殊品丈は高いが普通品は虹口方面よりはうんと安價である、自動車も一時間三弗である、人力車も平時と變らぬが只皇軍の占領地へは支那人の交通は出來ぬ爲に自動車、人力車等は非常に不便である。

トラック等は軍用以外は租界方面も虹口方面も非常に少い、日本人運轉士も少い、自動車運轉士の給料は居住費主人負擔で一ヶ月百貳十弗から百五十弗位とのことである。

建築材料等は特に不圓滑である、遇々材料はあつても技術者がなく、内地より大工等が行つても言葉が不自由にて支那人労働者を使ひこなせぬとて單獨に働く程度となり、從て非常に高く取られる譯である。

る譯である。

日用品衣類等は贅澤品は實行悪しく、必需品は時々品不足となり高價を演ずるとのことである。装身具等一時は暴落せしも最近弗貨の不安に伴ひ金から物への風調にて暴落せりとの噂も聞いた、大體軍用雜貨等は突如注文が發せられる故、生産状態の激變、運輸の不圓滑等にて時々暴騰する故此邊を研究善所する必要がある。

旅館等は追々混雜を來した、吾々が出張せし時は大分擴張せられて居た、宿泊料も六、七弗より十二弗位(貳食付茶代なし)である、旅行者は十分打合せの上出掛ける必要あり。

上海經濟事情

愛知縣商工主事 生 田 磯 治

一、行政地區の變革

大上海は貿易に於て全支那の六割、工業に於ても全支那の半以上を占むる心臟部であることは云ふまでもない、此地が皇軍の占據以來、政治的に經濟的に非常な變革が行はれつゝあるは想像以上

である、從來の共同租界の内(1)蘇州河と虹口クリーク間は日本居留民の中心街たる關係上、始終皇軍の保護下に在り、各所に砲火の被害を蒙りながらも大體建物は原形を保存されてゐる、邦人復興の涙ぐましい活動の舞臺として一時五千人位に減じた邦人口も今は略事變前の三萬人近くにならうとしてゐる、而も其の内新渡來邦人が八千人以上に達してゐると云ふ、積極的な進出の魁を争ふ氣持ちが心強い極みである、此地區以東の揚樹浦、吳淞迄と北四川路、所謂エキステンション以北の江灣、開北一帶は従前華商工場及び日本或は諸外人工場最も多く、上海人口の相當部分を抱擁せし所なるが今次、日支双方の砲火に依り建設物の九割は灰燼に歸し一望見渡す限り焼野原と化し、斯くて蘇州河以東、上海の大地區一半は華外人の出入を檢證に依りて嚴重に取締り皇軍々政下に邦商現地勢力を培養しつゝある。(2)蘇州河以西の共同租界並佛租界(本邦銀行大會社の多くも此區域に在る)は事變當初より英、佛、米、伊、獨等の諸外國兵力に依りて守備され來つた關係上、今日では従前の通り國際的な繁華街で歐、米資本と殘存支那資本との寄合世帯で中立的存在として從來の商勢力を死守せんとしてゐる、勿論共同租界政府たる工部局に對しても、又は上海稅關に對しても日本の發言權が著しく強化されることは當然であるが列國との協調程度、今後の推移如何が極めて重大である。(3)舊城内支那街より南市、浦東一帶は大同市政府の新政權が親日政治を標榜して大

衆に詐へてゐる、如斯日本專管地區が中立地區の周圍に創定されたる現今に於ては全支の經濟心臟部に各般の日本權益を樹立すべき素地を確保せる重大事實に對し朝野の關心が集注されるのは當然であり、況してや大上海の郊外軍工路より眞如無電臺へ江灣を含む外廊を併せて諸種の設備を建營す可き準備に想到すれば、嘗て國民政府の計劃せる新上海の大建設計劃を採つて以て吾が經倫とするに足る。

二、華商工場破控の程度と善後措置

一九三二年工場法の規定に該當する全支工場數二千四百三十五の中、一千二百は上海所在で半分を占め而も工業十五部類、百五十業種に亘り多種多様である。就中主要な紡績工場數百三十六の内六十四、煙草工場六十の内四十六が上海で、製粉、製糸等近代化全國工場の内四〇%は上海に在る工業労働者は全國の四三%、工業年産額は全支の約五〇%を占む(The Growth and Industrialization of Shanghai 所載)、而して一九三六年上海年鑑所載に依る上海市工場分布狀況は左の如し。

地區別	工場數	百分比
共同租界	五五七	三三・〇一
佛租界	二五一	一四・八

美亞織綢廠第四廠	同益絲廠	普益經緯公司	大同紗廠	鴻豐紡廠	同裕絲廠	怡和糸廠
〃	〃	〃	〃	(支)	〃	(英)
昌平路 一〇〇號	海防路 一五一號	小沙渡路 四七一號	赫德路 一〇三二號	八〇九號	檳榔路 二二三號	成都路 一〇三七號
他ノ工場ヲ 含ミ二、八〇〇					(單位千弗) 一〇〇	
二五					二九八	二二〇
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
年産七、〇〇〇反 織機三〇〇臺			年取引額 七、八〇萬元		年營業高四萬兩	年取引額 七、八〇萬元
絹織物	〃	〃	生糸	〃	綿糸	〃

怡和紡織公司公益紡廠	鴻章紡織公司	統益紡織公司	永安紡織公司第三廠	新裕紡織公司第二廠	新裕紡織公司第一廠	申新第九紡織廠	申新第八紡織廠	申新第二紡織廠	申新第一紡織廠
(英)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(支)
勞勃生路 一五〇號	麥根路 三八一號	莫干山路 二五號	麥根路 四九一號	勞勃生路 八號	西蘇州路 三七號	澳門路 一四〇號	白利南路 一七七二號	宜昌路 九六號	白利南路 一七七二號
他ノ工場ト 同シ海關兩 五、九〇〇、〇〇〇			第一、第二、第 四各廠共計 (單位千弗) 二、〇〇〇	(海關兩) 一、三〇〇、〇〇〇					(單位千弗) 三、四〇〇
二、八六二	二、〇一七	二、〇一八	二、八六六	一、五三四	九〇四	四、五四〇	二、一三三	二、四九七	三、九〇二
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	五〇〇以上
燃四、〇九六錘 織機七六六臺	燃四、〇九六錘 織機七六六臺	燃三、一〇八錘	燃六、一八四錘 織機二〇〇臺	燃二、六四〇錘 織機五〇四臺	燃二、六〇〇錘	燃八、二三四錘 織機五〇六臺	燃七、九八〇錘	燃五、七七七錘	燃七、三三六錘 織機一、三八七臺
綿糸布	〃	綿糸	〃	綿糸布	綿糸	綿糸布	〃	綿糸	綿糸布

開北	五七四	三三〇・〇一
南市	一八	一一・四
浦東	二七	六・九四
合計	一、六七	一〇〇・〇〇

佛、並共同兩租界に約四七・九%、支那側行政地區に約五二・一%の割合で共同租界に於ても揚樹浦その他東部地區に工場が集中して居り、開北と共に九〇%以上灰燼に歸せる外、南市も大部分が破壊され浦東もかなりの損害を蒙つた事より推算して上海工業生産力の大約七六%は完全に再起不能の状態に在ると見らるゝに至つた。

南市陷落直前、上海市社會局が各工場の報告を集計せる統計に依れば今次事變前の工場數五千二百五十五軒の内、被害工場二千九百九十八軒（南市三〇%、開北一〇〇%、特一區七〇%、同郷五〇%、特二區零）、被害見積額五六四・五三萬餘元とあり、南市所在工場二千二百七十二軒の被害を一〇〇%とすれば上海工場被害見積額は八億元以上と云ふ巨額に達する。

支那の工業化は抗日經濟國策として尨大なる軍備と併行して最近急テンボの發達を遂げた事は近年本邦對支輸出貿易の内容に非常に異變を齎せる事實に徴しても明かだ、之が爲め綿糸布類の如きは數億圓の國內消費に對し本邦産輸入は九牛の一毛に過ぎず、毛織物の如き新進輸出品さへ最近三

ケ年間逐年其輸入額漸減の傾向に在り本邦中、小工業所産の雜貨は高關稅に惠まれた現地代用工業に對抗不能の悲況を呈し建設資、材、機械器具、工業原料等の資本財の輸入に偏向して來れるは統計を掲ぐる迄もなき歴然たる實情であつた、斯くして本邦工業製品、特に中、小、輕工業品に對する支那市場價值は著しく減殺されたるのみか極東又は南洋諸市場に於て邦品と競争關係に在りたるもの尠からず。加之上海の工場は總て商人の經營する所であり現地に於て競争關係に在る在留邦商の大部分は單なる仲介商人なる事實を検討せば勝敗の決自ら明かである、斯く觀じ來れば前掲工業破壊が齎す可き邦品雜貨の上海市場復活は可なり大い期待が持たるゝと同時に殘留支那側工場の邦商への移讓乃至合辦は上海に於ける邦人現地商權の確保發展上最も緊要事であることは申す迄もない。

十月末現在に於ける上海共同租界及び越界區域内に於ける操業工場は約七十工場中規模稍々大なるものは左記三十五工場に及んでゐる。

△上海共同租界及越界區域内操業工場 (昨年十月末現在)

工場名	國籍	所在地	資本金	工人數	規模	製品
				常時現在就職		

怡和糸廠	同裕絲廠	鴻豐紡廠	大同紗廠	普益經緯公司	同益絲廠			美亞織綢廠第四廠
(英)	〃	(支)	〃	〃	〃	〃	〃	〃
成都路 一〇三七號	阿拉白司脫路 一三〇號	〃	檳榔路 一二二三號	赫德路 一〇三二號	八〇九號	小沙渡路 四七一號	海防路 一五一號	膠州路 九四三號
			(單位千弗) 一六		二〇			他ノ工場ヲ 含ミ二八〇〇
二七	〃	〃	二九	〃	四〇	〃	〃	二八〇
二〇〇以上	〃	〃	〃	一〇〇以下	〃	〃	〃	五〇〇以上
六三釜	二四〇釜	二四〇釜	四、七三釜 撚一、六三釜	年取引額 七、八萬元	年營業高四萬兩 二八釜			年產一七、〇〇〇反 織機二〇臺
生糸	〃	〃	綿糸	生糸	〃	〃	〃	絹織物

申新第一紡織廠	申新第二紡織廠	申新第八紡織廠	申新第九紡織廠	新裕紡織公司第一廠	新裕紡織公司第二廠	永安紡織公司第三廠	統益紡織公司	鴻章紡織公司	怡和紡織公司公益紡廠
(支)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(英)
白利南路 一七七二號	宜昌路 九六號	白利南路 一七七二號	澳門路 一四〇號	西蘇州路 三七號	勞勃生路 八號	麥根路 四九一號	莫干山路 二五號	麥根路 三八一號	勞勃生路 一五〇號
(單位千弗) 三、四〇〇	三、二〇〇	二、六〇〇	五、〇〇〇	(海關兩) 一、五〇〇、〇〇〇	(〃) 一、三〇〇、〇〇〇	第一、第二、第 四各廠共計 (單位千弗) 二、〇〇〇	一、七〇〇	二、一〇〇	他ノ工場ト 同シ海關兩 五、九〇〇、〇〇〇
三、九〇二	二、四九七	二、一三一	四、五四〇	九〇四	一、五四	二、八六六	二、〇一八	二、〇一七	二、八六三
五〇〇以上	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
織機一、三六六釜 撚一、三八七釜	五、七九〇釜	五、〇〇〇釜	八、九、二、四釜 撚一、〇六〇釜 織機五、六六釜	二、五、六〇〇釜	二、四、九二〇釜 撚三、六四〇釜 織機五、四〇釜	六、三、一、八四釜 織機二、四〇釜	四、七、〇、二釜 撚三、二〇八釜	二、四、五、三六釜 撚六、四〇〇釜 織機四、〇〇釜	四、〇、九、七六釜 撚四、〇八〇釜 織機七、五六釜
綿糸布	綿糸	〃	綿糸布	綿糸	綿糸布	〃	綿糸	〃	綿糸布

寶華綢廠	(支)	億定盤路 三號	一七	一四	100以下	年産一七、二〇〇反 織機三臺	絹織物
晶明玻璃廠	ク	勞勃生路 四七一號			ク	織機三臺	
	ク	小沙渡路 五六一號	五〇	一六	ク	年産額100、000元	硝子器
	ク	小沙渡路 一〇〇號					硝子器
美錫皮廠	ク	梅白南路 一號			ク	以前華億路ニ アリシモノ	皮革
	ク	白利南路 一九號			五〇以下 100以上		ゴム製品
	ク	路 八三號			ク		シューパ ー
福新煙草公司	ク	澳門路 五二一號	五〇		五〇以上	機械三臺	卷煙草
阜豐麵廠	ク	莫干山路 一二六號	七、〇〇〇	五〇〇	ク	日産三、〇〇〇擔	麥粉
華豐麵粉廠	ク	小沙渡路 一八號	一四〇	一六	100以上	機械一五臺 日産五、〇〇〇袋	ク

鉅美洋行	(米)	白利南路 三二號			100以上		豚毛漂白
信成廠	(支)	西摩路 一六號	三		100以下		靴下
中法大藥房工廠	ク	大西路 一七九〇號	五〇〇	一八一	ク	營業高年 A〇〇、〇〇〇元	化粧品
上海酒公司	(英)	宜昌路 一三〇號	(海關兩) 二、〇〇〇	三〇〇	100以上	日産二、三〇〇箱	ビール
中華書局印刷工場	(支)	靜安寺路 一四八六號	(單位千弗) 二、〇〇〇			印刷機三〇臺以上	印刷製本

三、交通網の重要性

江南一帯の皇軍占據に依り上海を中心とする鐵道、公路、並水路は大體に於て皇軍管理下に在りて未だ一般貨客の交通は殆んど杜絶の状態である。(1)鐵道は京滬線、滬杭線及び蘇嘉線は平時約三百萬噸の輸送量を示せしが現今に於ては軍用以外の一般貨客を取扱ふに至らず。(2)近年に於ける支那の公路は全國的に驚く可き發展を見せた事は周知の事實であるが上海附近に於ける主要公路は次の如く是等は完全に皇軍の勢力範圍に在る。

- 一、京滬路 南京、鎮江、武進、江陰、常熟、大倉、嘉定、南翔

- 二、京閩路 南京、句容、溧陽、宜興
- 三、滬杭路 上海、閔行、杭州
- 四、蘇嘉路 蘇州、王江涇、嘉興
- 五、蘇證路 江陰、無錫、蘇州
- 六、宜常路 宜興、無錫、常熟
- 七、上寶路 上海、吳淞、寶山
- 八、滬大路 上海、大場鎮、羅店、劉河
- 九、杭松支路 松江、楓涇
- 一〇、嘉湖支路 平野、南潯
- 一一、蘇滬支路 蘇州、崑山、南翔
- 一二、崑太子路 崑山、大倉

是等は亦軍用以外に一般交通は未だ恢復されざるのみならず日、支兩軍に依りて甚しく破壊されてゐるので修理には可なりの年月を要する、支那の自動車臺數は一九三六年四月現在の統計は左の如くである。

地方別	普通自動車	乗合バス	トラツク	其他	合計
上海	二、八八三	四二四	三、五二三	八七八	一六、六八六
南京	一、四八〇	一九七	四〇八	—	二、〇八五
其他各省	八、三〇五	六、三〇三	三、三九七	九九一	一八、九九六
合計	二、六六七	六、九二四	七、三二七	一、八六九	三二、七六七

(3)長江の水運は主要會社の定期就航船のみにも十五萬噸に達し一ヶ年約二百萬噸の貨物を上下してゐる外、莫大なる民船の輸送量は更に大なるものがある、長江と共に江南の最重要水路たる黄浦江亦我軍の掌中に在るが上海を中心とする水路の重要なものは次の如くである。

- 一、蘇州河 蘇州—上海間
- 二、蘇州より武進、丹陽經由鎮江へ
- 三、蘇州より平望、嘉興經由杭州へ
- 四、平望より湖州に至るもの
- 五、丹陽より溧陽に至るもの
- 六、揚子江より常熟經由蘇州河へ
- 七、大倉、劉河より崑山經由蘇州河へ

- 八、常熟より大倉、嘉定、南翔經由同上
 - 九、黃浦江上流より松江、青浦經由同上
- 支那の内河及沿岸航路定期就航船、昭和十年五月現在(千噸)

航路別	日本	英國	其他外國	支那	合計
北支	三三	〇	〇	三	三六
南支	二四	七四	〇	四	九九
南北支	九	三六	〇	三	四八
長江	二四	六五	八	五	九八
合計	八二	三四	八	一六	一四〇

長江の封鎖は外洋との連絡を断つたが全面的に停頓したのではなく、支那船は事變以後も南京上流を航行し、九月二十三日以後は招商局其他の支那會社が相計つて長江航運共同事務所を設け、漢口、南京間には少くも毎日一隻を配航すべきことにす、又太古(英)、怡和(英)、義華(伊)、聚福(佛)の河用船は漢口附近より上流に従前通り就航してゐる、帝國海軍は支那船舶に對し中南支沿岸一部の交通を遮断せるが更に其區域を擴め第三國の租借地及び青島を除きたる殘餘の中華民國領域の全海岸に對して支那船舶の交通を遮断するの處置を執るに至れるも第三國の平和通商に干渉せざ

る方針を採り來れり、此對象たる支那船舶は次表の如く約四十萬噸で多くは香港に集中せるも其内該地の外商に賣却されたものも少くない、又河用船も長江下流就航船の一部は解體されたものと云ふ。

河用船	三〇、三三隻	二六、二八噸
海用船	五五隻	四〇八、五五噸
合計	三、五七隻	六二四、七三噸

日本が宣戰布告をせずして海面封鎖を断行してゐるに對し英・米當局に相當反對が強かつたが結局英國は「封鎖區域内に於ける外國船は日本軍艦に依り停船を命ぜられ、又積荷に疑ある場合はコースの變更を命ぜらるゝことあるべし」との合法性を認め之に依つて蒙りたる損害補償請求權を保留してゐる。而して東亞に於ける英國の海運は事變以來日本海軍が軍用にて競争力が著しく減殺されたるに乗じて海峡植民地―支那―日本海運同盟、又は歐洲―日本、印度―日本間の運賃を引上げ目下極めて有利に展開しつゝある。

由來主として長江以南の内河網に於ける小型汽船乃至民船の水運は支那交通經濟上、極めて重要な地位にあるは既に述べたる所なるが、日本の江南占據領域内に於ける是等水路網の航行權の獲得が最大急務であると共に上海を中心とする奥地との物貨出入を可及的速かに交易復活せしむること

が上海の市場性の増進上決定的要件である。

四、上海市場異変事情

上海が支那全輸出入貿易の六割以上を占むる最大市場であることは勿論であるが、昨年中の支那貿易は近年になき活況を呈し八月以降五ヶ月間の戦時恐慌期間があつたに不拘、輸入五億八百八十四萬餘元、輸出四億四百三十九萬餘元、計九億一千三百二十三萬餘元（差引入超一億四百四十四萬餘元）に達し一昨年に比し輸入は僅か八%の微減で輸出は一・八%の増加を示す、事變直前迄年初の七ヶ月間を其前年同期と比較して輸入に於ては三九%、輸出に於ては四八・五%の激増を示し特に九月以降十二月迄四ヶ月間に毎月巨額の輸出超過の奇現象を呈せり、一方事變後五ヶ月間の貿易総額は一億七千七十四萬餘元で其以前に比し約七割方激減したると同時に上海より内陸各地への一般貨物出入が全面的に杜絶するに至つた。

昨年十一月、十二月並全年度上海貿易額（單位元）

	（輸入）		（輸出）		（差引）	
	金額	單位	金額	單位	金額	單位
十一月	一〇、三九〇、九五		一八、〇七〇、一七三		出 七、六六、二六六	
十二月	一三、七六六、二四		一八、五六九、〇八四		出 四、八〇二、八七〇	
昨年度合計	五〇八、八四〇、一三		四〇四、三九五、四一八		入 一〇四、四八四、七二四	

事變後五ヶ月間に於ける上海對日貿易。

八月以降昨年末五ヶ月上海の對日貿易が不振を極めたのは當然であるが三月初發表された當地江海間の貿易統計に依て其推移を見るに開戦前七ヶ月間に於ては上海對日貿易總額の一%を占めてゐた對日貿易は十月には〇・三%（八萬七千元）に慘減せるを最底とし十一月に十萬二千元、十二月には三十萬九千元、と稍々増加せるも殆んど物の數に達せず、而も對日輸出の増加のみで輸入は僅五萬元に過ぎず。之を月別輸出入數字に示せば左の如し。（單位元）

月別	一昨年度合計		入		出		總計	
	金額	單位	金額	單位	金額	單位	金額	單位
七月	一一、〇三三、六三三		三、六〇二、〇六三		一四、六三四、七六			
八月	二、七二五、五〇五		二、五八、二九〇		五、三三三、八九五			
九月	三、八六四		一、二五、一六九		一、二六、八三三			
十月	七三、三九〇		一三、八二三		八七、三三三			
十一月	八七、九三三		一四、五三〇		一〇三、五〇三			
十二月	四九、六六		二五九、三四三		三〇八、九七〇			
總計	五三三、〇九四、九〇一		三六一、四〇〇、六三二		八一九、六九四、二六九			

上海對日貿易商品別内譯（單位—金單位）

△輸入	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
機械及器具	七〇、三三八	一七、六六八	四八九	二、二六三	一、三六二	一、七五四
毛及其製品	六六、五六〇	一六、六七四	五七	三、一六二	二、〇〇三	六二七
綿布	六六四、四九八	一六八、一七〇	二八九	五八四	五、九八四	三〇三
生糸、人絹其他製品	五九、四八八	二〇、四九七	一、〇八八	三、七〇七	一、九三七	一、二七三
雜貨	三三、四七二	八九、一〇三	四、〇〇一	一八、一〇七	九、六五三	一、九一八
金屬及礦石	二九〇、二三六	八四、四〇三	三九八	九一	六	八
藥材、香料	二三〇、四九二	七、八九五	七四二	九二	八〇七	四
書籍、地圖、木造紙	二〇五、六六六	五、九六六	八八〇	九六	一六六	四、〇三〇
雜類金屬製品	二〇〇、三五九	三、六九二	二、六〇五	六四二	二〇七	五三四
車輛、船舶	五八、二四二	一九、七五五	一、二九二	八	一	一六
砂糖	四九、〇八五	二四、六二五	三、〇〇〇			一六
木材	四三、六〇〇	六、三九二				一七
魚介海産物	一九九、八三三	五九、一三〇			三、一九三	九六三
棉花、綿糸、綿線	一七五、〇四九	二、三七二			三九	九六三
染料、顔料油	九一、一八一	四〇、六八三	一七三	三、三三六		九三三

雜糧、同粉	八四、〇〇二	一七、九九二				
麻、同製品	六、七六五	九、五二一				
木、竹、藤、棕、相	三五、八九五	一四、七〇五		六	六、五七三	
化學製品	三五、三三九	二、四四〇				
燃料、石炭、タール	二六、二二七	三、三八四				二、三三二
磁器、硝子	二六、〇三三	三、八三六	八九	一三三	六、八六八	五
石、泥、土、製品	三三、八四四	一四、〇八九		二四七		
動物性食料品	二〇、五〇八	一、二三九	四二	二八	一一〇	三五五
果實種子類	一八、一四四	二、九二四	九四			五二八
皮革製品	一〇、七三二	二、二八〇	一九四五	二八八		五二八
煙草	六、七八〇					五二八
酒、ビール、酒料飲料	四、五六七					
合計	四、九〇三、四〇六	一、三二一、三八〇	一七、一八四	三、六二八	三九、〇九九	三三、〇五七
元換算	二、〇三三、六三三	二、七五、六〇五	三八、六六四	七三、三九〇	八七、九三二	四九、六二七

△輸出(明細省略す)

以上は上海に於ける諸外國並日本貿易統計に依る分部なるが故、米諸國よりの輸入、支那側軍需

資材並武器、火藥類を含む雜貨は八月以降上海戰禍を避け多くは香港、新嘉坡、馬尼刺等途中に荷揚げせられたるもの夥しく何れも海岸倉庫充滿の奇觀せるは昨年香港貿易の激増に徴しても明かである、日支事變と之に依る上海向け貨物の香港での滞貨が香港の輸出貿易を激せしめた譯で軍需品を除きたる一般商品の香港輸入貿易額の一昨年に比し一億六千五百四十萬弗三割六分増に當り事變下に於ける支那對外貿易は五〇%以上の激減に比し香港が如何に漁夫の利を占めたるかを知らるに足る。

英國を始め米、獨等の第三貿易は八月以降の輸出入が上海に於て著しく困難なりしとは云へ蘇州河以西の共同租界並佛租界は始終日支交戰裡に中立を保障され、由來上海市中國際商取引中心街たりし爲め事變前迄に異常に輸入激増に依る在荷額は各品種に亘り相當豊富に存在せり、支那側に對する戰時相場にて八月乃至十月初頃迄外國商社が非常に活況に恵まれ巨利を博せるは顯著なる事實にして支那軍の上海撤退後は上海在荷輸入品の背後奧地市場へ出口は一齊に閉鎖されたるも他方其頃より此中立地帯に蝟集する奧地よりの避難民激増に依り一般商品の需要一段と旺盛に赴き市内の歐米商社の店頭を賑はしたるは虹口側に殘留せる邦商垂涎的であつたと云はれる。

他方支那側奧地物資の上海への搬出は長江及黃浦江の閉鎖と鐵道、公路共に軍事輸送で充滿して

る爲め杜絶せるは既に述べた通であるが、時恰も農作物の收穫期に入りたる九月下旬大公報所報「今年各地の棉産は約一千九百餘萬擔、價額八億元に達し、米は河南、湖北、江西、安徽、江蘇各地計八千萬擔、價額八億元以上に達する、是等の農産品は外運不能の爲め隨所に滞貨山積し又長江以南の各省米糧の北運も同様の運命に陥つてゐる」。上海附近浦東各縣に於ても棉花の主要産地たる浦東、奉南、金川等の農民は棉花の收穫を唯一の生命としてゐる、然るに上海郊外一帯は棉花、米等未採收の儘に立腐れとなり紗廠は閉鎖し販路は停滯し、市價も立たぬ際として換金を急ぐ農民は一擔僅々五、六元で處分賣してゐる。棉花商は賣却出來ない爲め資金に窮し斯くて農民は貧富を問はず金融停頓の爲め恐慌状態に在る。

外國貿易に従事する上海入港汽船數は七月に於て百五十五隻、出港船百四十六隻に對し八月には入港七十三隻、出港七十二隻に過ぎず、七月の七十萬噸に對し八月は三十二萬噸に半減した、沿岸貿易に至つては其減少は更に著しく即ち左表の如くである。

國別	七月	八月	國別	七月	八月
支那	二六四隻	七隻	日本	三隻	五〇隻
英國	二二隻	八隻	米	三隻	二隻

和蘭	丁抹	諸威	計	佛蘭西	其他
三隻	四隻	四隻	一隻	一隻	二隻
四隻	一隻	一隻	六三隻	二隻	四隻
					三六隻

日本側の對中支貿易

事變直前迄昨年一月乃至七月迄の支那輸入貿易上日本の地位は一億三千六百六十萬餘元に達し、一八・七九%に當り第一位の米國と比肩する進展を示せるが事變と共に完全に御破算となつた、支那紙に依れば事變後支那輸入商が日本との商約を破棄した額は四億七千萬以上に上ると云つてゐる、本邦側の調査概算に比し十倍以上に達するが其商取引契約の範圍内容は明瞭でない、如斯關係にて滞貨品の主なるものは毛織物、人絹、綿糸布、水産物、精糖、紡織機械、自轉車部分品、陶磁器等である、又在上海外國商社との既約又は新規に本邦品取引も未だ實行至難の状態に在る。

五、軍政下の邦人商工業

江南戰の實質的戰果を確保する爲め新政權に依る現地の政治的權益と共に經濟權益の確立強化を遂行する事を最大の急務とするは聊か北支と其趣を異にす、加之上海商業心臟街一帶の支那並歐米商社は此中立地區に立て籠りて從來の商權、金融其他の優越せる彼等地歩を死守せんとし、歐米列

強は陰に陽に強力なる援助を與へつゝありて邦人側の經濟進出に抵抗を續けてゐる現狀である。如斯情勢裡に本邦側の經濟的更始一新を圖る爲め在留邦商の助長を策し

- 一、食料品其他兵站部需要品の軍部買付けは本年一月頃より原則として現地仕入の建前に改訂されてゐる事。
- 二、軍管理中の上海より奥地への水陸交通機關に依り支那歸順良民大衆の經濟更生に必要な食料品、生活必需諸雜品を供給する軍宣撫班に於て行ふ外途なき現狀に於て是等諸商品の仕入も前項同様現地邦商をして納入せしめつゝある。
- 三、邦品の現地輸入を促進する爲め上海—日本間の軍需輸送に多少の緩和を見計ひ一般商品に對し船腹を割愛し得るに至り、之が利用に就き内地主要貿易港の當業者に内達（船會社を経て）せる事。
- 四、北支に於ける最近迄の冀東低稅貿易が邦品の進出に偉大な効果を擧げた過渡的便法たりしと同様、在留邦人宛の邦品輸入は滙山碼頭に總て揚荷役を爲し吾が海軍管理下に在る關係上、徵稅吏の立入を許さず自然關稅を徵收せずして陸上せられ今日に及び、之が爲め本年一月初より邦品の輸入を促進し三月中の入荷量は前年同期を超過するに至れり。

五、今次兵火に依る支那側土着工業大部分破壊の善後處置に關し（イ）華商紡績工場現存諸設備を邦商側への移管又は讓渡を手始めとし其他原料並原料用製品の特有諸工業を邦人の一般現地企業活動に利用せしむ。（ロ）本邦内地所産輸出品と拮抗せる競争品諸工業は復活を許さぬ。

“The Growth and Industrialization of Shanghai” by China Institute of Economic and Statistics.

に依れば昭和七年に於て上海華商工場總數約一千二百（現在は五千五百餘）に過ぎざりし當時に於ても同年上海輸入總額に略匹敵すべき生産額五五七、六九〇、七五四元を算せる所にして就中織物、機械器具、飲食料品煙草製造、化學製品、其他産業抗日經濟陣の完成に可驚進歩を達成せるは頗る注目に値するが其約七六%、工場被害見積八億元以上と云ふ、本邦製雜貨類の上海市場確保が上海土着工業の再起程度如何に依り複雑且至大の影響を蒙るは想像に餘りあり、然れ共近き將來本邦に有利なる可き關稅が改正せらるゝに於ては外國製品の勢力は大體に於て驅逐せらる可きは自然の勢である。

上海港の全支貿易に占むる地位は従前に比し當分は幾分低下するものと見ねばならぬ、夫れは奥地に對する北支諸港及び香港の經濟的支配力は前者は主として日本の意志に依り、後者は英支兩國の意思により強化されるに違ひないと思はれるからである。

中支に於ける列國の經濟活動

名古屋市主事補 増井修 一

一、概 説

支那に於ける列國の經濟活動は今を距る九十五年前、英清南京條約の結果、上海、寧波、福州、厦門、廣州の五港が開港せられて以來の事であつて其後各地に租界、租借地が協定せられ開港場が設けられ、又支那自體より開放の開市場もあつた。

中支に於ける租界、開港場、開市場

租界	上海	共同租界と佛租界
	寧波	共同租界
	杭州	日本租界
	蘇州	日本租界
	蕪湖	共同租界
	漢口	日、佛租界

沙市 日本租界
 長沙 共同租界
 重慶 日、英租界

開港場及開市場

江蘇州 上海、吳淞、鎮江、無錫、南京、蘇州、浦口、海州、徐州
 浙江省 杭州、寧波、溫州
 安徽省 蕪湖、蚌埠
 江西省 九江
 湖北省 漢口、沙市、宜昌
 湖南省 長沙、岳州
 四川省 重慶、萬縣

而して其の活動の基礎を爲すものは對支貿易と對支投資であつて直接、間接の事業、投資又は借款によつて各々自國の資力を投じ經濟力の扶植が爲された。今次事變に際しても各種の經濟的支援が列國によつて引續き行はれてゐる事は紙上でよく知る處であるが其の裏面に諸種の利權獲得を對

照としてゐる事は言を俟たない。

中華維新政權も三月十八日愈々成立し北京に於ける臨時政府と相呼應し日滿支一體の經濟プロツクが愈々緊度を加ふるに至つた。過去に於て列國が如何なる活動を爲し來つたか東亞經濟調査局の支那滿洲經濟研究によれば對支事業投資は次の如くである。

國 別	一九三一年		一九三七年	
	百万米幣	%	百万元	%
英 國	九三、四	五、一	三、四二、四	五、〇
日 本	三三、七	二、二	一、三〇八、七	二、五
北米合衆國	一五、一	九、一	五、七、〇	九、三
佛 國	九五、〇	五、五	三、六、七	五、三
獨 乙 國	七五、〇	四、四	二、〇、〇	四、四
白 耳 義	四一、〇	二、四	一、四一、七	二、三
和 蘭	一〇、〇	〇、六	三、四、四	〇、六
ソ 聯 邦	六、一	〇、四	二、〇、六	〇、四
イ タ リ ー	四、四	〇、二	一、四、七	〇、二
其 他	二、〇	〇、一	八、七	〇、一
計	一、七、七、七	一〇〇、〇	六、一〇、〇	一〇〇、〇

即ち英、日、米の三ヶ國に於て其の總額の八割強を占めてゐる。中でも日英兩國の占むる割合は極めて大きい。今之を主要國に就き事業部門の推定分類を掲ぐれば次の如くである。

一九三〇年對支投資事業分類別 (單位百万米弗)

事業別	英國	日本	米國
運輸業	一四七、九	一〇、〇	一〇、八
公益業	四八、二	—	三五、二
鑛業	一九、三	四、六	〇、一
製造業	一七三、四	二一六、二	二〇、五
銀行及金融	二五、六	三、五	二五、三
不動産	二〇三、三	七三、〇	八、五
輸出入業	二四〇、八	二四、一	四七、七

(最新支那要覽三八三頁に依る)

即ち之を概観するに英國は貿易業最も多く不動産、製造業、運輸業、金融及銀行の順であつて、我國は貿易業、製造業、不動産、銀行及金融の順であり、米國は貿易業、公益業、銀行及金融業、製造業の順となつてゐる。

之等事業が如何なる地方に分布されてゐるか地理的状況を観るに

地域	英國	日本	米國
上海	百萬元弗 七三、四%	百萬元弗 二五、〇%	百萬元弗 九七、五%
其他地域(含香港)	三三、〇	一〇八、六	三三、七
計	九六、四	三三、六	一五〇、一

(支那經濟年報昭和十三年報)

即ち上海の商工業が列國活動の中心となつてゐる事が判然とする。

二、上海の支那に於ける地位

然らば上海の支那に於ける地位如何と云ふに、上海は人口約三百五十萬を有し支那の寶庫と云はれる揚子江流域の咽喉を扼し交通上の要衝に當るのみならず貿易上に於ても其の大半を占め商工業より觀るも支那第一の大都會である。

人口

主要都市人口 (五十萬以上)

江蘇	上海	二、八八千人(一九三〇年調)
無錫		九〇(夕)
南京		五二(一九二九年調)

廣東	廣東	八三九千人(ク)	
河北	北京	一、三六九(ク)	
四川	天津	一、三九二(ク)	
四川	成都	七〇〇	(一九二六年調)
重慶	重慶	六〇〇	(一九二八年調)
湖北	武漢	一、五三三	(一九二七年調)
湖南	長沙	五五五	(一九二八年調)

(上海日報編、中國年鑑に依る)

上海の人口

支那人街	一、八五〇千人
共同租界	一、一〇〇
佛租界	五〇〇
計	三、四五〇

(上海市特別公安局調査一九三三年)

本表と前表とは相當の開あるも大體に支那の統計が確實とは云ひ得ないが只概數を知る爲に掲げたのであつて何れにしても上海は支那最大の人口を有すと云ひ得る。

支那に於ける主要國外人數

國籍	居留民(1)	居留民(2)
----	--------	--------

日本	四六、〇四二人
英國	一五、〇一九
佛國	四、九四四
米國	三、〇三五
獨乙國	二、七三一
露國	一四、二〇二
其他	六、五七五
不明	一九、九八四
計	一二二、七四九

※五、一〇六人

(1) リーマー著、列國の對支投資による一九三一年
 (2) Chinese Year Book 1934—1935
 ※外務省發表昭和十年十月

上海に於ける外人數 (上海一覽による)

國籍	人數	國籍	人數
日本	二四、〇〇〇	英國	一、〇〇〇

獨乙	葡國	露國	米國
1,000	3,100	8,000	4,000
計		佛國	其他
5,000		1,800	1,000

貿易

右統計調査年度古く最近邦人數三萬を超ゆと云はれてゐるが各國別の概況を知る爲に掲げたものである。

對外貿易主要國別 (全支那分)

國別	輸 入		輸 出		合 計	
	一九三五年	一九三六年	一九三五年	一九三六年	一九三五年	一九三六年
濠洲	百萬元 三七	百萬元 一五	百萬元 二	百萬元 六	百萬元 三九	百萬元 二二
ベルギー	八	二六	五	六	三	三
英領印度	三五	二四	二〇	一八	一五	四
カナダ	八	九	四	五	三	三
佛領印度支那	三	八	二	三〇	四	四
佛領印度支那	五	八	五	九	六	二七

計	獨乙	英本	香港	伊太	日本	朝鮮	關東	モロツコ	和蘭	蘭領印度	シヤム	海峽殖民地	米國	其他
九三	一〇三	九八	二〇	三三	二九	二二	九	一	四	五八	二二	二〇	一四	九二
九四	一五〇	一〇〇	一七	三三	二二	二二	二	一	四	七四	一八	〇	一五	八七
五七	二八	四九	七	七	二	二	〇	〇	一	四	三	三	一	七
七六	三九	六四	一〇	三	九	九	一	二	一	四	四	一	一	五
一五〇	一三	一七	一	一	三	三	三	〇	九	三	三	三	三	一
一五〇	一八	一七	一	一	三	三	三	〇	二	七	三	三	三	一

(中國銀行總管理處經濟研究室調査に依る)

即ち右表によつて米國、日本、獨乙、英國、蘭領印度、佛蘭西の順となつてゐるが其の屬領を包

含するときには日英がよき競争者である。

(本稿は貿易の概況を調査するのが本旨でなく其の各國の占むる割合を知るに止めた)
従つて事變によつて激變した事情は關係方面の調査に譲る

對外貿易主要品別

品別	輸		出	
	一九三五年 (總額に對する割合)	一九三六年 (總額に對する割合)	一九三五年 (總額に對する割合)	一九三六年 (總額に對する割合)
桐油	四、五八二	七三、三八八	九三、三三三	二六、八七〇
生糸	三、〇六九	三六、七三二	七四、〇六五	九三、四三〇
卵製品	三、〇六九	四一、八〇二	四四、九七三	四〇、九七八
茶葉	二九、六四四	三〇、六六一	四二、七八八	三六、一八〇
棉花	二二、七三三	二八、一九七	三八、三九三	三六、三三五
刺繡製品 (レース等)	二〇、四九九	三三、三八三	三七、七三六	三九、七五三
アンチモニー	二〇、三八一	二六、七六八	三七、四〇七	四一、一五三
落花生	一九、六〇一	一八、五五〇	三六、三三七	二一、八七〇
綿糸	一九、二二三	二二、三九七	三四、八三九	二六、九六八
皮革	一八、二九八	二八、六四四	三四、五三六	四六、七三三
鋼鐵	7.2%	10.4%	8.0	2.8%
半鐵	7.2%	10.4%	10.5	2.8%
機械器具	6.2	5.2	4.8	9.8
紙	5.1	4.3	4.5	3.8
揮發油	3.7	4.0	4.1	4.0
染料及顏料	3.5	4.5	4.1	4.2
小麥	3.4	3.7	4.0	4.3
木材	3.3	1.7	3.9	1.2
金屬製品	3.1	4.7	3.7	3.8

即ち輸出品の主要なものは原始産物であつて、輸入品の主なるものは工業製品及食料品である。
食料品の不足は近年續いた天災の結果である。

上海港の貿易上の地位

港別輸出入額 (單位百萬元)

港別	一九三五年		一九三六年	
	輸	入	輸	出
上海	五〇七	五五五	二八八	三六三
天津	八五	七三	九二	一七
九龍	七〇	五七	五	一七
膠州(青島)	五二	五四	四	六
漢口	三三	三三	四八	五
廣州	三三	三三	三	五
汕頭	二六	三〇	三	三
廈門	一四	二八	七	二
南京	三	一七	三	四

其他	九二	六	七三	八七
總額	九四	九四	五七六	七〇六

以上によつて上海が全支貿易の過半を占め各港中如何に重要な地位にあるかがわかる。
尚各港出入船舶より見れば上海、廣東、汕頭、青島、九龍、天津の順序である。

上海港出入船舶 (一九三四年)

國別	對外國港		對支那各港		合計	噸數	比率
	入港	出港	入港	出港			
日本	六〇二 <small>千噸</small>	五五五 <small>千噸</small>	五三四 <small>千噸</small>	九〇〇 <small>千噸</small>	二、二九三 <small>千噸</small>	五、八〇一 <small>千噸</small>	一六・三%
米國	二八〇	二四八	三八九	九〇	一、二九九	三、五四三	九・九%
英國	五五四	五四九	二、五四四	三、三三七	六、〇九六	二、三四五	三四・八%
佛國	六三	六四	一六	一六	一五八	一、〇一一	二・八%
獨乙威	一〇〇	九二	一〇九	三三	二四七	一、一三三	三・一%
諾威	一〇四	一〇九	三三七	五三八	六六六	一、七六二	四・九%
支那	六四	二七	三、一六四	三、七七三	六、三三五	七、五五三	二一・三%
其他	一六八	一七九	四一九	一五三	六六四	二、二二三	六・四%
總計	一、九三三	一、七九三	九、二二八	七、〇四一	一七、七九七	三五、四五八	一〇〇%

以上主要國のみを掲げたが支那船舶は沿岸乃至内河航路を主とする事本表によつて明かであつて英國の航運に對する勢力が窺はれる。

上海工業資本の割合

業種	支那資本	外國資本
綿紡業	三七、三三〇千元	一五一、三五〇千元
綿織業	二、二四四	—
絲織業	二、四三六	六
絹織業	一、二一九	—
毛織業	三三三	—
針織業	一、三三五	二五〇
其他紡織業	三六九	—
化學工業	七、二四六	二、二六六
印刷業	一〇、四七一	六二六
機械製造業	一、七六五	—

鐵砂業	110	
電機業	517	
造船業	26	
製粉業	5,836	
煙草製造業	17,390	3,350
其他食料品業	2,677	473
器具業	1,097	30
日用品費	1,232	
電力業	8,930	10,000
其他	2,036	
計	107,532	25,233

支那工業の中心地上海に於て外國資本が其の過半を占めてゐる。支那の工業は未だ家内工業、手工業の域にあるもの多く近年經濟建設運動に基き興された國營による重工業を除いては主として輕工業に屬するものが多い。其の工業資本總額に於て外資によるものは支那資本の約三倍となり支那工業の中最も進歩した紡績工業に於ては約四倍強となつてゐる。

以上の如く列國對支活動の中心は上海に集中され列國中主要地位にあるものは英、米、日の三ヶ

國である。

當初は鐵道敷設、鑛山開發等の利權が投資の目標であつたが、更に商工業への資本放出に進展した。而して商工業は各々自國金融機關を通じ行はれる爲經濟活動の旺盛な國は銀行其他金融機關の活動が活潑となつて来る。以下金融業を中心として各國の活動を略述する。

三、各國の經濟活動

一、英國

英國の事業投資は前述の如く一般貿易業、不動産業、製造業、運輸業及銀行業の順となつてゐて殆んど何れの國の資本よりも勢力を持つてゐる、主要投資機關としては次のものがある。

滙豐銀行 (Hongkong and Shanghai Banking Corporation)

主要事業は爲替業務であるが投資事業にも活躍してゐる、最も代表的を銀行である。

麥加利銀行 (Chartered Bank of India and Australia)

貿易金融を主とする。

印度商業銀行 (Mercantile Bank of India)

右に同じ

其他の銀行としては大英銀行 (The Paul O Banking Corp., Ltd.) 沙孫銀行 (E. D. Sassoon Bank
ing Corp.) 莫斯科國民銀行 (Moscow Narodny Bank Ltd.) 等がある。
怡和洋行 (Jardine Matheson & Co.)

英國の代表的貿易商社で更に次の諸會社を傘下に支配してゐる。

Ewo Silk Filature, Ewo Press Packing Co.,

〳 Cold Storage Co, 〳 Brewery Co.,

〳 Cotton Mills, Ltd., Indo-china Steam Navigation Co, Ltd.,

Shanghai and Hongkong Wharf Co, Ltd.,

The Tardine Engineering Corp.

太古洋行 (Butterfield and Swire)

之も代表的商社で航運に大勢力を持つてゐる。

英米煙草公司 (The British and American Tobacco Co.)

子會社大英煙草と共に各地に工場を有し貿易も行つてゐる。

亞細亞火油公司 (Asiatic Petroleum Co.)

蘭印より支那向石油の輸出を扱ひ支那沿岸の航運も行つてゐる。

上海共同租界内の瓦斯 (Shanghai Gas Co.) 水道 (Shanghai Water Works Co.) 電車 (Shanghai
Electric Construction Co.) 乗合自動車 (China General Omnibus Co.) の經營、廣業公司 (Shanghai
Land Investment Co.) の土地投資及香港上海大酒店公司 (Hongkong Shanghai Hotel Co.) のホテル
經營等特色あるものである。尙製造業ではセメント、豆油、製粉、製氷、石鹼、ロソク等の製造
皮革、毛皮、剛毛等の加工業があり各方面に亘つて活躍してゐる。

二、日本

我國の在上海金融業者は横濱正金、朝鮮、臺灣、三井、三菱、住友、漢口、上海の諸銀行があり
之等銀行を中心に貿易に航運に活躍してゐる、製造業では紡績業最も著はれ他の製造業と異り英系
紡績を壓へて支那紡績をリードし萬丈の氣を吐いてゐる、此の外各種商工業が夫々活躍してゐる事
は申す迄もないが輸出入業が第一に挙げられ、製造業、金融業、運輸業の順となつてゐる。今後の
産業振興方針に就ては國策上重要産業部門の統制を爲し其の他の一般企業は自由進出が申請により
許される由であるから今後の躍進は期して俟つべきものがあらう。

三、米 國

金融方面では花旗銀行 (The National City Bank of New York.) 大通銀行 (Equitable Banking Co.-
P.) 美國信齊銀行 (Trustee's Bank) 美國通運銀行 (American Express Co.) 等が主なるものであつて、花旗銀行は貿易金融に活躍する傍ら投資機關としても有力である。製造方面では電氣器具、木製品、船舶附屬品、煙草、桐油の製造を營むでゐる。又美孚江行は石油配給權を持ち自動車による道路交通に於て壓倒的勢力を有してゐる。尙共同租界内の上海電力公司 (Shanghai Power Co.) 上海電話會社 (Shanghai Telephone Co.) 等は此の國の資本からなり公益業に支配權を持つてゐるのは此の國の特色である、最近支那側は軍費の代償に招商局を此の國に讓渡し米國は海運に舊勢力を回復せんとしつゝ、ある事が新聞紙上に報道されてゐる。

以上の外、佛、獨、伊、白、和等の諸國は夫々自國金融機關を中心に活動してゐるが、以下主なる金融機關を列記すれば次の通りである。

四、佛 國

東方滙理銀行 (Banque de l'Indo-Chine) 香上銀行に亞ぐ勢力を持つてゐる、爲替業務を主とす。
中法工商銀行 (Banque Franco-Chinoise Pour le Commerce et l'Industrie) 爲替業務を主とし傍ら投資も行ふ。

五、白 國

華比銀行 (Banque Belge pour l'Etanger) 貿易並に投資を行ふ。

白耳義銀公司 (Belgian Group) 名義上佛支合辦で實際は佛白合辦のもので鐵道投資を主とす。

六、獨 乙

華德銀行 (Deutsche Asiatische Bank) 普通銀行業務。

七、和 蘭

荷蘭銀行 (Netherlands Trading Society) 普通銀行業務。

安達銀行 (Nederlandische Indische Handels Bank) 〃

八、伊 太 利

華義銀行 (The Italian Bank for China) 普通爲替業務。

金融方面を主とする列國の直接事業活動は以上の通りであるが政治的の借款、鐵道借款等があり國民政府の中に喰入つて各國權益を構成してゐる事を附言して置く。

左表は一九三七年七月現在額である。

支那政府に對する列國の貸付額

國別	一般的ナ借款	鐵道借款	合計	合計ノ割合	以上ノ外擔保不確實 外債見積額
英國	百萬元 三五、八	百萬元 三三、四	百萬元 六九、二	四〇、九%	百萬元 五八、四
佛國	二二八、七	六五、三	二八四、〇	一七、三	二六、四
白耳義國	二二、四	一七三、〇	一九六、四	一二、九	八、八
日本	八三、七	九九、〇	一八二、七	一一、一	三三九、七
合衆國	二二、五	三三、五	五七、〇	九、四	四八、七
獨逸	九七、七	—	九七、七	五、九	〇、三
和蘭	—	五七、九	五七、九	三、五	一、七
伊太利	—	—	—	—	二二〇、七
其他	—	—	—	—	三〇、〇
計	八九九、八	七五〇、一	一、六四八、九	一〇〇、〇	六〇七、八

(東亞經濟調査局編、支那滿洲經濟研究による)

中支の資源

名古屋市主事補 増井修一

一、概説

地理的に中支と謂へば従來江蘇、浙江、安徽、江西、湖南、湖北、四川の七省を指す事が多いが本調査では上海を中心として便宜上揚子江流域の江蘇、安徽、湖北及浙江の四省を主として取扱つた。

農産

由來此の地方は揚子江流域に肥沃なる沖積層の大平野を形成し地勢、氣候、雨量の關係上水田多く旱地が北支其他に比し少い事を特色とする。加ふるに人口稠密にして勞働資源にも恵まれ支那に於ける最大の農産資源と消費市場とを構成して居る。

主要農産物は米を始め麥類、高粱、豆類等の普通農産物を産する外、棉花、麻、茶、繭等工業原料の産額も少くない。

耕地面積

省別	總面積	耕地面積	同上割合
江蘇	111,101 <small>千畝</small>	91,669 <small>千畝</small>	53%
浙江	156,939	41,209	26%
安徽	235,559	53,511	23%
湖北	323,483	61,010	19%
支那各省計	7,301,643	1,061,338	14%

水田及早地

省別	水田	耕地面積ニ對スル割合	旱地	耕地面積ニ對スル割合
江蘇	35,574 <small>千畝</small>	31%	56,095 <small>千畝</small>	61%
浙江	29,806	73%	11,403	22%
安徽	20,830	36%	33,681	61%
湖北	26,274	31%	34,736	57%
支那各省計	318,159	36%	741,179	70%

林産

地勢の關係上安徽、湖北省に於て相當大なる林地を有するも窮民の濫伐と林政の弛緩により中支の林産資源は大と云ふを得ざるも、浙江省に於ては樟樹より樟腦を産し又竹より竹細工を産する。

牧畜

牛、豚を主とし水牛、馬等之に亞ぐ。安徽、湖北の兩省に於ては家禽の飼育相當盛である。

水産

海岸線は漁族豊富なる漁場を有し、省内亦湖水沼澤各地に散在し、鹹水、淡水の水産資源豊富なのみならず江蘇、浙江の海岸線は所謂兩淮兩浙鹽區として天日による製鹽業が盛である。

鑛産

支那に於ける鑛産資源の主要なるものは石炭、鐵鑛、タンクステン、アンチモニー、錫等である。中支に於ては湖北、安徽地方に相當豊富な鐵鑛を産するが石炭は各地に産するも餘り良質と云ふを得ず、勿論將來の調査開拓に俟つべきもの多々有り未發見の鑛物もあるであらうが中支の鑛産資源は概して貧弱であると云はれてゐる。

石炭及鐵鑛埋藏量及産額 (一九三四年)

省別	石		炭		鐵	
	埋藏量	產出高	埋藏量	主要產出額	土法による產出額見込	
江蘇	百萬噸 二二七	千噸 二六七	千噸 七、四七	噸	噸	
浙江	100	二五〇	七、一五四		三〇〇	
安徽	三六〇	六三三	一九、六八四	四八〇、〇〇〇	五、〇〇〇	
湖北	四四四	四五八	三九、六四〇	四五二、〇〇〇	二、八〇〇	
全支合計	三三三、五五九	二〇、一九七	三三三、九二六	九五〇、〇〇〇	四九、五八二	

以下項を分つて資源の状況を見ようと思ふ。

二、農 産

普通農作物

前に述べたる如く此の地方は揚子江流域の沃野がある支那各省中農産物の最も豊富な地方とされ米、麥、豆類、高粱、菜種等普通作物を主要産物とする、然し安徽省の如きは相續く天災人禍により充分の收穫を得る能はず他地方よりの移入に俟つものが少くない有様である。

普通作物作付及産額

(單位千市畝、千市擔)

種類	江蘇		浙江		安徽		湖北	
	作付面積	産額	作付面積	産額	作付面積	産額	作付面積	産額
米	二〇、六五五	六二、二九五	二二、四五四	四七、七三五	一九、一〇五	七〇、二〇四	二二、五七五	四三、九四七
小麥	三〇、二一一	五六、三三六	四、八九一	七、八六六	一九、六二五	三二、七〇一	一〇、六七三	一五、二二三
大麥	一七、九二五	三七、一八五	四、三九六	六、八五一	六、五八〇	二、五九二	一四、〇九〇	一九、九三四
高粱	五、七八九	一二、七八六	一五一	二二	四、六五六	八、二〇〇	二、五六〇	四、三三三
粟	一、三五五	三、三八一	二五四	二九二	三九五	七〇五	二、二九	三、七九五
玉蜀黍	四、六〇九	九、〇九六	七九	八五	四七六	一、〇四九	三、七五二	六、〇一九
甘薯	一、六六五	一八、〇〇六	七九五	四、四〇八	四七八	六、二九四	一、〇〇二	七、五六七
糯米	三、七二五	八、八四六	二、八七五	五、九四〇	二、二九六	七、五五八		
大豆	一三、五一〇	一八、二六八	五、四五五	二、七二二	八、一五〇	一四、一五三	四、四二二	五、四二〇
菜種	三、六八四	三、三二九	五、一七三	四、九〇四	八〇八	一、六〇二	七、五三〇	五、五五二

(民國二十三年)

(平均額最近減ノ傾向アリ)

(二十三年)

特殊農作物

棉花

江蘇省は支那第一の棉産地とされ特に通州を中心とする江口一帯著名であつて(イ)長江北岸の通州、海門、崇明、(ロ)長江南岸の常熟、太倉、嘉定、江陰、寶山、上海、川沙、南匯、奉賢、松江、金山、青浦、閔行等を主産地とする。湖北省にては漢口以北揚子江流域及漢水流域を主産地とし本省亦河北、江蘇と共に産棉地である。然し此の地方の産棉は纖維短かく純白なる光澤に乏しき爲紡績用としては太番手混綿用となるも細ものには適せず脱脂綿、中入綿等に適すとされ、産地は餘姚、蕭山、紹興、上虞、滋溪、平湖を主とす。浙江省に於ても最近普及したるも未だ産額大ならず。

棉花作付面積及産額

省別	作付面積	一九三六年夏期産額
江蘇	11,012千畝	3,644千擔
浙江	1,802	842
安徽	2,228	785
湖北	8,644	2,777

茶

茶の主要産地は主として揚子江流域以南で湖南、廣東、安徽、浙江の順である。此の地方では浙江省にては蕭山、遂安、淳安、紹興、新昌等主産地にして杭州西湖の龍井茶、紹興平水鎮の綠茶は著名である。安徽省に於ても皖北の六安、霍山、皖南の秋浦祁門の綠茶共に著はる。

葉茶産高

省別	(中國統計提要一九三三年) 産高	(申報三二年)
江蘇	1千擔	?
浙江	191	566
安徽	503	600千市擔
湖北	367	430
全市計	4,066	?

支那産棉地計

支那産棉地計	61,962	20,399
--------	--------	--------

(河北、山東、山西、河南、陝西、江蘇、安徽、江西、湖北、湖南、浙江、各省計)

葉煙草

湖北、安徽、浙江の各省には相當量の葉煙草の産あり。

省別	一九三六年夏期 收穫高 千擔
江蘇	八〇
浙江	三八四
安徽	四八〇
湖北	六四〇
全支計	二、六四四

(農情報告第四卷第十二期による主要産地は四川、河南、山東、湖北、廣西等である)

落花生

落花生は支那全土に栽培せらるる嗜好品たると共に製油原料として重要なものである。産地は北支地方に多く山東を第一とし江蘇省は河北、河南、四川、廣東に亞いで多量産出する。

省別	栽培面積 千市畝	産額 千市擔
江蘇	一、九五	六、三六
浙江	四五六	五二

胡麻

江蘇、湖北、安徽に相當量の産あり工業原料として重要である。その他の産物

省別	栽培面積 千市畝	産額 千市擔
安徽	一、〇九七	一、九五六
湖北	一、〇五五	二、三三三
全支計	二、一五二	六、二九九

以上挙げたる外向工業原料としては浙江省の藍、甘蔗等著はれ、又氣候温暖、地味肥沃なるを以て浙江、江蘇、安徽の各省にては蔬菜頗る多く江蘇、浙江の兩省に於ては蜜柑、葡萄、枇杷、梨、桃其他各種の果實を多く産する。

養蠶

養蠶は支那各地到る處で廣く行はれてゐるのであるが、産繭高より見れば浙江、廣東を最多とし之等兩省の産額は總生産高の過半を占め之に亞ぐは江蘇、四川である。

主要産繭地並に産額

省名	一九三三年産高	産地
江蘇省	三、八三五 _底	蘇州、常州、鎮江、江寧、松江(長江沿岸)
浙江省	六、〇三七	杭州、湖州、嘉興、海寧、新昌嶽等
安徽省	五、九六八	汚陽、天門、潛江、(以上淡水流域)
湖北省	七、三四一	監利、嘉魚、蒲折、新堤、蕭家澁、沙市、河溶、安陸
各省計	三〇、八三四	黃州、(以上長江流域)

三、林産

前述の如く中支の林業は見るべきものが多くない。森林面積次の如くである。

省別	森林地 (千市畝)	總面積に對する割合	森林適地 (千市畝)	總面積に對する割合	合計	總面積に對する割合
江蘇	四、二一九	二、六%	二、五六三	一七、四%	三、六八二	二〇、〇%
浙江	二二、二二二	八、〇%	三、八三四	二二、〇%	四、九六二	二九、〇%
安徽	一〇、七〇一	五、〇%	五三、五〇八	二五、〇%	六四、二〇九	三〇、〇%
湖北	二五、五二二	一三、〇%	七三、七五五	二二、〇%	一〇九、二六七	四〇、〇%
全支計	七八、九三四	八、四%	一、八八、五八四	三二、〇%	二、五六七、五二八	三九、〇%

(中國實業年鑑による)

林業として挙げらるべきものは浙江省の漆、樟腦、竹、木炭及浙江、安徽兩省の桐油等である。

漆 産額から多ざるも金華、嚴州、處州等は古來良品を産すと稱さる。

樟腦 錢塘江、甌江、飛雲江流域には樟樹多く之より樟腦を製せらる。

竹 錢塘江上流地方に豊富にして杭州、富陽、紹興、餘杭の諸縣は竹細工、竹製人形著名である。

名である。

木炭 浙江省は支那第一の木炭産地にして温州炭、杭州炭等著名である。

桐油 桐油は支那の重要輸出品であるが桐樹は植林されたもの天然のものあり、主として

四川、湖南等に産するも浙江、安徽の兩省に於ても相當量之を見る。

四、牧畜

役畜としては牛を最多とし、水牛は此の地方一帯に多く飼育され食用に供される。豚は支那各地に多數産するが、就中江蘇省は湖南省と共に四川省に次いで多く産する。豚毛は重要輸出品の一つである。家禽としては鶏が最も多く飼育されてゐるが中支地方の揚子江流域に特に多い。

家畜及家禽數 (單位千頭及千羽 (一九三五年農情報告による))

省別	水牛	黄牛	馬	騾	驢	山羊	綿羊	豚	鶏	家鴨	鶩
江蘇	七九九	一、三三五	一九〇	二六五	八八七	一、四一五	六四一	五、五五四	一九、三九四	八、二八九	一、一〇四
浙江	三四〇	六九三	二二	四	二	四八一	四一五	二、四七八	一三、二六	二、三六	九二
安徽	一、〇一一	一、〇五六	二六九	一五二	七六〇	六〇五	八六	二、八六三	一三、三〇	二、二三五	一、二一五
湖北	七七三	二、〇七一	二二	一一〇	三八四	三四五	一三九	三、八八八	二四、四〇四	二、〇六〇	二〇二
全支計	一、六〇三	三、五九〇	四、〇四〇	四、六八	一〇、四八五	三、六七三	二〇、六〇三	六、五六八	二四、三〇九	五、七二四	一〇、五三八

五、水産

一、水産

潮流は南部より暖流北部より寒流ありて江蘇、浙江兩省は海産魚族極めて豊富なるのみならず揚子江始め多くの大河貫流する爲、淡水漁も多く河川漁業も一つの産業部門を構成してゐる。

水産漁獲物及動植物數量表 (中國年鑑二十三年)

種類	浙江省		江蘇省		安徽省	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
小黃魚	四一、三七七	二、一五一	二五、九六六	一、七二八		
大黃魚	二五〇、〇〇〇	四、五〇〇				
勒魚(ペラ)	八、一五五	九四六				
鮫	五、四四四	三〇五				
海鰻	五〇、五〇一	二、〇一五				
赤鯿	一七、五八〇	一、〇五〇				
マナガツオ	一五、〇五〇	一、〇五〇				
鯖	七三	七				
鱒	一八〇	七二				
魴	三三〇	一六				

浙江省

仁和場	許村場	黃灣場	鮑郎場	海沙場	蘆瀝場	錢清場
三江場	東江場	金山場	餘姚場	清泉場	穿長場	大嵩場
岱山場	定海場	玉泉場	長亭場	杜瀆場		
黃巖場	長林場	北監場	雙穗場	上望場	南監場	兩浦場
袁浦場	青村場	崇明場	鳴鶴場	衢山場		

六、鑛産

鐵

鐵埋藏量は從來知られた範圍では相當豊富であつたが滿洲國獨立によつて其の過半を失ふに至り現在の埋藏量は極めて貧弱となつた、而して中支に於ける鑛産資源の中最も大なるものにして湖北省埋藏量は察哈爾省に次ぎ全國第二位を占め採鑛中のものは中支に於て其の大半を占め其の鑛石は日本に輸出せられ居る事は人のよく知る處である。

鐵鑛分布狀況 (第四次中國鑛業紀要による)

湖北省	大冶	17,300千噸 (漢冶萍公司)	靈鄉	6,300千噸 (靈鄉鐵鑛)
	鄂城西山雷山	10,100 (鄂城西山雷山鐵鑛)	象鼻山	8,536 (象鼻山鐵鑛)
	宣都	4,231		

浙江省 長興(長程鐵鑛公司)、臨安、建德、平陽、餘杭、遂昌、杭縣、淳安、寧海等にして長興尤も著はる尙麗水、松陽、遂昌、雲和、瑞安の諸縣には砂鐵を産す。

安徽省	繁昌縣長龍山	4,650千噸 (裕繁鐵鑛公司)
	當塗縣大四山南山	6,173 (福利民鐵公司、益華鐵鑛公司、振治鐵鑛公司、寶興鐵鑛公司)
	銅陵縣銅官山	5,000
	鷄冠山	4,000 (涇銅鐵鑛公司)

江蘇省	銅山縣、利國驛袁家山、東馬山、西馬山
	江寧縣、銅山島勵家灣山
	鳳凰山(林稜公司)
	(招孤内は採鑛業者なり)

石炭

石炭埋藏量は北支の山西、陝西地方に極めて多く藏されてゐると觀られてゐるが中支地方では極めて少い。埋藏量及産額次の通りである。

石炭埋藏量 (第四次鐵業紀要 單位百萬噸)

省別	有煙炭	無煙炭	計
江蘇	一九三	二五	二七
浙江	八二	二〇	一〇一
安徽	二七	〇	二七
湖北	二八〇	一〇	四四〇
全支計	一八〇、九六	四四、三〇〇	三二七、三三三

著名炭鑛並ニ產額

省別	炭鑛	一九三三年額	炭田
江蘇	華東煤鑛公司 其他	三〇〇 三二〇	白土寨、賈汪、寧鎮、祠山、諸張鎮、洞庭、西山
浙江	長興煤鑛 其他	一九七 五三	長興、餘杭、臨安、富陽、嘉興、諸暨、寧海、天臺、東陽、湯溪、龍游、江山、常山、衢縣、桐廬、分水、建德、淳安

其の他の鑛產

以上の外少量乍ら各種鑛產物あり。其の所在場所次の如し。

全支計	湖北	安徽	計
一九、三〇五	各炭鑛計 四〇〇	淮南煤鑛局 烈山煤鑛 大通煤鑛公司 其他 計	二五〇 壽昌
	崇陽、蒲折、宜都、遠安、當陽、長陽、大冶、湯新、通山、神山、仙人山、洩灘巴東、大峽口——興山——香溪、密灣	烈山、雷家溝、舜耕山、蜀山、荊橋嶺、新倉來、子廟、搖頭嶺、晏公堂、古樓鋪、壽眉嶺、施揚村、湖村鋪、水東、孫家堡、貴池、繁昌	

品名	省名	所在地
金	江蘇省	開化、淳安

明礬	流紋岩	瑪瑙	水晶	陶土	雲母	黒鉛	石膏	硫黃
安徽省	浙江省	浙江省	浙江省	浙江省	浙江省	浙江省	浙江省	安徽省
<p>民國十九年 二十年 二十一年 二十二年</p> <p>一七、〇〇〇噸 六、〇〇〇噸 七、〇〇〇噸 一〇、八〇〇噸</p> <p>盧江縣(古來明礬の産地として有名なり)</p> <p>縣城東南約三十餘里の缺口鎮附近一帶に亘り廣大なる明礬石ありと云はれ往時精製は盛なりしも舊式方法による事と規模小なる爲漸次衰微し現在斯業に従事する者二十餘家、産額二萬七千五百噸約十一萬餘元なり。</p> <p>(各種石板材料となる)</p> <p>寧海縣東郷長街鎮東南(瀾東山石鑛)</p> <p>杭州府</p> <p>吳興、東陽、江山、遂安、雲和</p>	<p>浙江省</p> <p>東陽</p> <p>東陽</p> <p>東陽</p> <p>錢塘</p> <p>應城</p>	<p>貴池縣(埋藏量約一九、八〇〇噸、硫黃年産約一〇八噸にして安慶等にて消費さる)</p>						

銀	水銀	銅	錫	アンチモニー	砒	モリブデン	アルミニウム	マンガン	鉛
江蘇省	江蘇省	江蘇省	江蘇省	江蘇省	江蘇省	江蘇省	江蘇省	江蘇省	江蘇省
<p>富陽、天臺、仙居、象山、寧海、鎮海、奉化、紹興、諸暨、東陽、義烏、常山、開化、淳安、松陽、平陽</p> <p>餘姚</p>	<p>海鹽、寧海、象山、臨海、桐廬、淳安</p>	<p>長康、武康、安吉、餘姚、松陽</p>	<p>淳安、遂安、開化、昌化</p>	<p>麗水</p>	<p>青田、諸暨</p>	<p>平陽</p>	<p>東海縣錦屏山胞山(錦屏公司經營毎年約八萬噸の産額ありて日本に輸出し居りたるも其量最近不明)</p> <p>諸暨、餘杭、昌化、平陽、泰順、臨海、杭縣、樂清、義烏(銀豐鑛)</p> <p>公司—杭縣、餘杭縣の境界たる尤門坑沙泥塢山日産約五六噸)</p> <p>江寧縣西姜家圩姜公廟に有豊恒鉛鑛あり、資本十二元</p> <p>諸暨、温州、臨海、東溪、寧海、遂安、青田、壽昌</p>	<p>平陽</p> <p>産額次の如し</p>	

湖北省	通山(陽硫磺鑛、建始硫磺等の各鑛あり、約年三十噸産す) 臨安、金華、武義、浦江、江山、諸暨、嵊縣、象山、吳興、義烏、永康、常山、龍游、新昌、寧波(全國中最も豊富なり) 著名公司
浙江省	一、璋華弗石鑛公司(何紹韓) 所在地 武義南區 資本金 三〇、〇〇〇元 埋藏量 一五、〇〇〇噸 設 備 露天堀 年 産 二十一年 一、〇〇〇噸
安徽省	二、璋華弗石鑛公司(范雙喜) 所在地 武義北區 資本金 五、〇〇〇元 設 備 露天堀 年 産 二十年 八、〇〇〇噸
湖北省	祁門縣東三十五支里張岑脚上下陳吳坑口一帶 (年産額四千噸にして大部分は江西省日京德鎮に搬出せられ一部は現地にて煉瓦の原料となす)
湖北省	大冶、廣濟(江蘇、河北兩省に次ぐ)

食 鹽	湖北省	應城(年約一萬擔を産す)
-----	-----	--------------

結 論

上述の通り中支に於ける資源状態を一應概観したが其の中農産、水産資源は非常に豊富であるが鑛産、林産、牧畜は他地方に比し劣勢であると云はれてゐる。以上の中、農産資源は國民の主要食料品並に工業原料等に、種類から觀るも數量から見ても最も重要性を持ち、鑛産品は近代産業の基礎資源として之亦緊要缺くべからざるものである。勿論資源の豊富なると否とは地理的環境に支配せらるゝ事多きは言を俟たざるも之が開發に際しては周到緻密なる調査と慎重なる計劃に基きて爲すべきで、人的物的資力を多量に要するであらう、今次事變によつて蒙つた被害は都鄙共に甚大であるが上海、南京始め大都市の繁榮は其の背後地の産業に依存するものであるから地方住民の經濟力復興並に啓發を先づ第一に行はねばならない。

彼等農民の生活状態は如何と云ふに、支那全人口の約八割近く迄が農民であつて其の又大部分が貧農であり、貧富の差が極めて甚しい。而して近年は連年打續いた水害、旱害、風蟲害等の天災と政府並に地方軍閥のあく處を知らざる苛斂誅求、邊境地方の匪賊の跳梁等の人禍に災されて全く塗

炭の苦しみをなめ、或者は飢餓に瀕し慘狀目を蔽ふ有様であつた。其の後一昨年には氣候雨量等比較的順調なりし爲、農産物は全體より見て近年になき増收を見、一方幣制改革によつて爲替安定し、農産物輸出の増進、輸入の減少によつて一般商工業も繁榮を取戻し、農村の購買力回復の曙光が見られたので景氣來を謳歌しつゝも、尙且地方によつては水害、旱害等あり、國內に餘剩米あるも運輸の便を欠き米の輸入を爲す處もあつた、昨年には於ても奥地に旱害、下流地域に水災を蒙り國民政府は救農公債發行によつて民衆の救済方法を講じた由である。戰區地域では秋の收穫を前にして事變擴大した爲、收穫は望み得ざりしのみならず恒産少き彼等に資力のあらう筈はない、農村の復興に就ては軍特務部の宣撫班によつて各種の施設、例へば窮民の救済、生活必需品、農具種苗の配給等の計劃が實行されつゝある。

鑛業の開発に就ても先づ鐵鑛の開発會社が創立の運びに至つた事は新聞紙上に報ずる處である。何れにせよ中支振興會社によつて其の基礎産業が開發振興の緒に就かんとしてゐるが、戰區地域に於ては、從來の産業が殆んど根本的に兵火に破壊されたのであるから、之を機會に進歩した作業技術を妥當な方法を以て指導すれば其の復興に幾多の利益を齎すは必定であつて、維新政府の財政的基礎確立に貢献を爲し、北支資源の開発と相俟つてやがて合同さるべく見られてゐる北支臨時政

府と共に北支中支を一帶とする政權の經濟力の培養素となるものと思料せらる。斯くて長期抗日の悪夢を醒し、やがては支那四億の民の安住の地に返して有無相通じ日滿支經濟の進展に寄與する基礎たらしめたいと思ふ。

交 通 状 態

名古屋商工會議所書記

深 澤 光 一 郎

一、鐵 道

支那の鐵道は大部分外國が借款して支那に對する發展を期せんがために産業、鑛業等の利權を必然的に伴ふ鐵道利權に投資した結果である。上海附近の鐵道、京滬鐵道、滬杭甬鐵道も其例にもれず兩方共英國の借款に依つて敷設せられた。京滬鐵道は南京——上海間一九三哩、上海——吳淞間約九哩で一九〇八年開通せられた。滬杭甬鐵道は上海北站——杭州間一二三哩にして一九〇七年開通せられた。事變以來兩鐵道共我軍の爆破を受け運輸機能は攪亂され現在では勿論我軍の管理下に有り、上海北停車場から南京、杭州へそれぐ一日一往復のみ軍用として運轉してゐるに過ぎぬ。此の兩鐵道の運轉延長は他線に較べ短いが、上海、南京、杭州の三大都市を結び、しかも

地味肥沃なる江蘇、浙江の中心を走る故、其の經濟的價値は頗る大である。左に兩鐵道の運輸噸數を掲げる。

	礦産品	農産品	林産品	畜産品	工業品
京滬	三三一	五五四	四三	九	四三
滬杭甬	一〇九	一七三	九五	四一	二四
合計	四四〇	七二七	一三二	一〇〇	六八
	政府用品	他線用品	自線用品	合計	
京滬	一四〇	四	一三〇	一、八四九	
滬杭甬	五五	三三	七	八三五	
合計	一九五	六七	一三〇	二、六八四	

備考 單位千噸 (一九三五年度)

Statistics of Chinese National Railways For the 24th Fiscal Year

二、公路

公路は軍事上、産業上實に重要な役割をなす爲、國民政府は銳意公路の建設に近年努力し來つたのであるが、現在は江浙兩省の主要公路たる京滬路(南京、鎮江、江陰、常熟、太倉、嘉定、南翔、真茹、上海)、京閩路(南京、句容、溧陽、宜興)、京杭路(南京、長興、杭州)、蘇嘉路(蘇州、

王江涇、嘉興)、滬大路(上海、大場鎮、羅店、劉河)等の各公路は總て全く我軍の手に落ち軍事上産業上重要な價値を我に提供してゐるのである。然し現在ではトラックの不足甚だしく料金も一時間拾五圓以上を要する状態である。従來の上海附近のバス運轉は滬太長途汽車公司(上海—劉河、上海—嘉定、吳淞—月浦等)、錫滬長途汽車公司(無錫—上海、蘇州—常熟)、及び上松長途汽車公司(松江—上海、松江—泗涇)の三バス會社にして事變以來運轉は勿論中止してゐる。参考の爲め支那の自動車數を掲げる。

支那自動車數 (一九三六年四月)

地方別	普通自動車	乗合バス	トラック	其他	合計
上海	二、八八三	四四	三、五二五	八七八	一六、六六六
南京	一、四八〇	一九七	四〇八	—	二、〇八五
其他各省市	八、三〇五	六、三〇三	三、三九七	九二	一八、九六六
合計	三、六六七	六、九四	七、三二七	一、〇九二	三七、七六七

備考 China Year Book 1936

三、市内交通狀況

虹口側の市内交通状態は興中公司が二十五、六臺のバスを以て五、六の運轉系統を續けて居留民

や兵隊の便に供してゐるが、楊樹浦、北四路の二線のみが最近乗客が増加し採算がとれる様である。事變前の黄包車の姿は虹口側にては全く見ることが出来ず、タクシーも其數は少く料金も一時間五圓である。然しガーデン、ブリツヂを渡ると相變らず黄包車は有るし、電車、バスも平常通り運轉してゐる。

四、航空路

支那の航空事業は一九二九年中國航空公司設立され續いて歐亞航空公司、西南航空公司の設立を見、今日定期航空路十四線、一萬六千三百二十軒に達し主要都市は勿論遠く四川、雲南の地迄も上海から飛ぶことが出来る状態だつた。

中國航空公司 (米國資本)

- 上海—南京—九江—漢口—宜昌—重慶—成都
- 南京—徐州—濟南—天津—北京
- 上海—寧波—溫州—福州—廈門—汕頭—廣東
- 上海—北京
- 上海—廣州

○上海—マニラ

歐亞航空公司 (獨逸資本)

- 上海—南京—鄭州—西安—蘭州—肅州
- 哈密—迪化—塔城
- 蘭州—包頭
- 北京—鄭州—漢口—長沙—廣東
- 西安—成都

西南航空公司 (佛支合辦)

- 廣東—梧州—南寧—龍州
- 廣東—茂名—瓊州—北海—南寧
- 南寧—柳州—桂林

以上の三會社に依り行はれてゐるが現在は江蘇、浙江兩省内に於ける航空交通の杜絶せるは勿論である。此の原稿を書く頃内地の新聞に依れば日本空輸會社に依つて今秋頃より日本—上海—南京間の定期航空路が開かれる如き記事をみたが將來少くとも日本の手により上海—南京杭州、及び上

海—天津—北京と内地—上海間位の定期航空路は開拓せらるべきである。

五、航 運

上海は揚子江の咽喉に位し支那海岸線の中心に位し出入船舶の多きこと神戸に次ぐ世界第四位の
大貿易港である。

日本航路は事變以來日本よりの上海輸入荷物は就航船の減少に加へて軍需品や生活必需品に制限
せられた故激減したが我が軍の進出と居留民が秩序回復につれ復歸者の増加するに従ひ左記の如く
増加した。

八月十三日以降	一、三三噸
九月	三、三六噸
十月	五、六三噸
十一月	二、九三噸
十二月	一四、三二噸
一月	一六、四〇噸
二月	二六、六二噸
三月二十三日迄	三〇、六五噸

(金曜會パンフレット)

右の如く逐月増加し十月頃迄は軍需品と生活必需品に限定されてゐたが十一月以來復興材料の増
加が目立つ様になつた。平時の日本よりの平均輸入荷物は約三萬五千噸より四萬噸との事故ほど回
復して來た次第である。次に上海より日本へ輸出された荷物は左の如し。

八月十三日以降	三、四噸
九月	一四、八噸
十月	八、三噸
十一月	一、四六噸
十二月	三、二噸
一月	一、七八噸
二月	七、二〇噸
三月二十三日迄	四、五〇噸

(金曜會パンフレット)

尙日本郵船始め邦人船會社は現在では遠洋航路、沿岸航路共ほど事變前の配船状態に復し船腹も
充分ある模様だが、倉庫の状態は軍用に供せられてゐるもの多き上、荷捌き状態悪く滞貨増加の爲
目下は船腹渡しが條件となつてゐる模様である。外國船會社にても大體舊に復し、特に沿岸航路に
於いては支那汽船を買取り相當活潑に活動してゐる。

長江航路についても一時支那側が通州附近に於て長江を遮断したが皇軍の進出と相伴つて日清汽船が一月元日蕪湖向第一船を上航せしめしより徐々に回復しつゝあるが、上航は軍需品以外の荷物なし、下航は二月二十二日沅江丸にて鎮江より胡麻一千俵、葉蓆二百俵積出され内地に向つた由である。

内河航路は中支に於いては南船北馬の文字通り最も重要な交通機關にして現在日清汽船を主體として江浙輪船公司なる會社を設立し現在七十五隻の船を以て上海——蘇州、常熟、無錫、杭州や鎮江——揚州、青江浦等の中支地區内の内河航路を經營してゐる。

支那の航運業は外國の支配下に有り、國內及對外貿易の大半は外國船舶に依存してゐる。左に内外航運統計を示す。

項目	出入隻數		噸數		噸數百分比
	隻	噸	噸	噸	
外國汽船	七、三二	九、三二、五三六	七〇、七一		
支那汽船	九五、七三	四、一五、三九七	二、元		
合計	一〇三、〇五	一四、四七、九三三	一〇〇、〇〇		

(一九三四年 海關統計に依る)

即ち支那船は二九%二九に過ぎぬのである。然も支那船は老朽船や小汽船が多い。日本は世界大

戰中列國が支那を顧みる餘裕のなかつた際大いに進出し現在は英國、日本、米國の順序である。

一九三三年度上海入出港船舶隻數噸數表

國別	對外國		對支那		合計	比率
	入港	出港	入港	出港		
日本	六〇二隻 一、九七、七三五噸	五二五隻 一、八五、三七五噸	五四二隻 九二〇、四〇三噸	六四四隻 一、〇六八、一五三噸	一一四六隻 二、〇三八、五五八噸	二六、三六%
英國	二八〇隻 一、六五、九四〇噸	二四八隻 一、五三七、八四七噸	三八九隻 九〇、一四四噸	三八二隻 二九、八九九噸	六六〇隻 一、〇五〇、〇三三噸	九、九九%
米國	五五四隻 二、八五、二四七噸	五四九隻 二、八五、三三三噸	二、五〇四隻 三、三三七、五四九噸	二、四八九隻 三、三四七、五二二噸	五、〇一三隻 八、二〇四、七六九噸	三六、八一%
支那	六四隻 九六、六三五噸	二〇隻 三六、八六三噸	三、六四四隻 三、七七三、〇三三噸	三、二二〇隻 三、六七四、五八五噸	六、八六四隻 一、一四七、六一八噸	二、三八%

右の如く支那汽船會社は小規模で支那航業の中心地上海に於いても資本金百萬元以上の會社は六社に過ぎず外洋に出づるものは皆無と云つてもよい。

近き將來日本に於いては中支に四通八達してゐる水運を利用し、支那民衆に物資の供給をなし日支の經濟關係を一層親密にすべき國策海運會社を設立し支那船の停船航路には速かに日本船舶を就航せしめ上海其他に於いて占據せる碼頭其他の諸設備は日本海運の對支進出に大いに利用すべきは勿論のこと、信ずる、從來此の方面に地盤を有する英國、米國などの苦情は（此の原稿を書く時新聞報導によれば招商局の所有船舶其他諸設備を米國の某財閥に賣却成立の報を見る）相當強硬に覺悟せねばならぬが兎に角此際思ひ切つた態度が望ましい次第である。

中支の金融狀態

名古屋商工會議所書記

深澤光一郎

八月十三日戰禍が上海に及ぶや、國民政府は上海に於ける市場通貨の缺亡、預金引出増加、外國への資本の逃避等を防止するため十三、十四の兩日銀行を休業せしめ種々の對策を考究し、後述の「金融安全辦法」を十五日公布し翌日より實施せしめた。外國銀行は猶開業を續け日本側銀行の休業主張にも拘らず英國系銀行は反對し、休業支那銀行に代り爲替操作を行ひ金融方面にも極力支那側を援助したのである。

金融安全辦法

- (一) 銀行錢莊に於ける各種當座預金の拂戻を受けんとするものは、各預金者は毎週其の預金殘額の百分の五を限度とし、毎戸毎週の引出總額は百五十元を越ゆることを得ず。
- (二) 八月十六日以降法幣を以て預金し又は新規に預金を開始するものは隨時其の預金額に應じ法幣を以て拂戻を受けることを得、制限は加へず。
- (三) 定期預金の期限未到來のものは拂戻を受けるを得ず、期限到來後繼續を欲せざるものは當座預金となし本辦法第一條を受くるものとする。
- (四) 定期預金期限到來前にして、預金者が銀行錢莊の同意を得て、抵當貸付を受けんとするときは毎預金者一戸につき法幣一千元を以て最高限度とす、但し二千元以下の定期預金者に對しては其の半額を以て擔保貸付の限度とす。
- (五) 工場、會社、商店各機關の預金者にして俸給、賃銀及び軍事に關係ある支拂のため法幣の必要あるときは適宜拂戻しを受くることを得。
- (六) 同業者又は取引先の送金爲替は一律に法幣を以て之を受拂す。
- (七) 本辦法は軍事終結のとき停止す。

續いて銀錢業公會は通貨の不足を救済する爲め同業手形を支那側銀行間のみに通用せしむる金融安全補充辦法を公布した。これが所謂匯割制度である。

金融安全補充辦法

- (一) 銀行錢莊同業者振出本票(同業手形)は同業匯割の印をおす、此手形は上海に於ける同業者間の振替に用ひ法幣の支給又は外國爲替の買入に使用し得ず。
 - (二) 預金者取立は八月十二日以前銀行錢莊振出本票及び小切手は同業振替手形に準ず。
 - (三) 銀行錢莊各種當座預金は財政部規定辦法により法幣を支給する外商業部當座預金殘高は商業上の需要により同業振替手形を以て支拂ふことを得。
 - (四) 預金繼續又は新規預金開始に對しては銀行、錢莊は法幣によるか同業振替手形によるかを明記し、引出す時に之に應じ法幣及び同業振替手形を以て支拂ふ。
- 匯割票は紙幣不足のため金融機關は匯割票に三%位のディスカウントをつけても紙幣に代へんとする傾向が大いに有るので上海市商會は十二月四日銀行、錢莊等に其の取締を要求したがなかなか防ぎ難かつた。

かくの如きデフレーション政策によつて爲替の維持に對して努力し來つたが、十二月に到ると現

物は中央銀行の賣値一シル二ペンス四分一は維持されてるが先物は二ペンス臺を割り法幣價值の安性は早くもくづれかけ全面的崩落の萌が見え始めた。

三月十日北支に中國聯合準備銀行の誕生を見、法幣の回収を行ひ始めるや、我々滯在中の十四日漢口政府は遂に通貨政策の變更を聲明した。即ち

- 一、三月十四日以降外貨の賣却は漢口の中央銀行を通じて行ふ、便宜上中央銀行の辦事處を香港に置く。
- 二、思惑的ならざる需要のため外貨を購入せんとする銀行は中央銀行又は香港の辦事處を通じ申込むこと。
- 三、中央銀行は申込みを審議し現在の爲替の水準にて外貨を供給する。

これより上海の中央銀行の爲替統制賣りは中止せられた。第一回賣却は三月十八日に行はれ、申込額約百二十萬磅に對して約四十五萬磅の賣却を發表した。斯くして上海の金融界は混亂状態になつた。

上海に於ける爲替統制賣中止は何が原因かと考へると、國民政府の政治的敗北、手持外貨の極度の減少による財政的破綻は勿論の原因であらうが直接的原因是は前述の北支の中國聯合準備銀行の業

務開始により回収された法幣を南方に於いて外貨買ひを行はれるのに備へんとするがためである。北支方面に流通せられてゐる中央、中國、交通各銀行の通貨流通量は約二億弗と稱せられてゐる故たとへそれを全部南方に持つて來たとしても支那の手持外貨が（一昨年二億五千萬弗、昨年四億弗と稱せられるが確實なる總額は不明）今猶相當残つてゐるとすれば上海に於ける爲替の統制を放棄しなくてもよい筈である。

上海方面の敵の全面的の退却に伴つて圓貨の流通は漸次擴大した、虹口方面にては圓、元バーにて流通してゐたが、これはたゞ虹口側の話にて一步橋を渡り租界に入れば通用しなかつたのであるしかるに最近の新聞紙の報ずる處に依ると從來でも法幣をきらつてゐた日本人間では十四日以來益益法幣を忌避し、邦人銀行にては法幣、圓札の兩替を中止したと云はれる。日本紙幣の流通性は日を追ふて歓迎され外人商店も支那商店にても受取る向きが多くなり、上海附近一帶の法幣は約五億元と推定されてあるに反し圓貨はまだ三千萬圓位しか持込まれてゐないと云はれる。爲替の動搖は法幣の退却を伴ひ圓貨が法幣の流通領域を浸蝕するのは、いづれ近き將來に於いて上海方面にも流通せらるべきと考へられる、圓にリンクした中國聯合準備銀行のために甚だ喜ぶべき現象である。

香港、漢口を結ぶ通貨戦線を持ち長期抵抗を計畫する國民政府に對し列國の利害關係の複雑微妙

な國際都市上海の通貨問題を日本の手に收める事が今後の我々に課せられた銃後の重大な義務の一つであると考へられる。

中支の生産工業と戦禍

愛知縣東亞輸出組合常務理事

野 尻 啓 藏

概 説

數千年來綿々として續く支那の手工業は今尙四億の需要に對して大部分の供給力を有する其底力には感嘆せざるを得ない。

世界各國の貿易政策が百餘年前より常に此大市場を目標とすること當然であり國際上問題の絶えざること亦已を得次第なり、世界各國の貿易進出は勿論工業進出、經濟進出に波瀾萬丈幾多の障害も寄せては返す怒濤の如く急がず撓まず邁進した、然るに我對支貿易に於ては過去幾次の排日に對し約十年位前よりは排日支那市場に依存するは危険なりとの見地により敬遠方針を取り來たつた爲め工業進出も紡績業以外は餘り見るべきもの少く此方針が是か非か研究の餘地多いものと思考さる、但商工たると何たるを不問、成功の前には犠牲なくてはならぬこと一信條なり、何人も將來一

層此眞理に立却すべきである。

手工業と工場工業とを不問、支那の全生産の半數以上は中支、殊に上海に集中され到底其詳細を知ることは困難であるが大體を示せば、綿糸紡績、紡織、製糸、毛織物、染色、製粉、製糖、製菓、煙草、調味、蛋粉、搾油、マツチ、セメント、造船車、電気機械器具、瑛瑛鐵器、塗料顔料、化粧品、藥品、ゴム製品、服飾品等が最主なるもので、何れも三百萬弗以上の生産力を有するものである。

民國政府は今より八年前關稅自主權を回復したる後は數回に亘て關稅率を引上げ工業の興隆を計つた。殊に過去四五年来（前上海事變後）は所謂排日關稅とも稱する高率關稅を課し一方近代工業の獎勵には全力を傾注した、其手段としては專賣制度、國資の投下、或は補助金の交附等をなし極力發展策を講じた、乍然支那國民は教養の不足、財力の不足等の爲に急速の發展は出來ず茲に英米其他の外國資本及技術を取入れ漸く其目的たる國貨増産の實現を見るに至つた、此間に最近二ケ年位は農産物の豐作又は世界的物價高に惠まれ昭和十一二年度は支那政府の軍需インフレとなり軍需品の大注文を發して國內生産は好景氣を呈した。

外資で作た工業施設であろうが、外國人の工場であろうが、國內にあり上海にあれば民衆は驚喜

高潮に達し政府を信じ、抗日毎日政策、排日教育に共鳴贊辭を送り自制も判斷も付け不得に至り今事變爆發の要因の一となつた。

然るに帝國の事變不擴大聲明を見るに及び、日本が力足らずして稱ふるものと慢心せる官民は益益暴慢となり、一時兵火の巷となるとも支那強し必勝疑なしの宣傳を信じ戰線は擴大せられた、支那經濟界の心臟都市上海は勿論、鎧袖一觸首都南京迄も占領せられ其經濟狀態は如何に變化せしや以下概略其説明をなすものなり。

一、事變前の生産工業

中支の工業と云へば其廣汎なる到底調ぶる材料もなく局部的のもののみが判明し居る、因て茲に上海に於ける諸工業の内工場設備を有する工業を示せば左表の通りである。

上海工業統計（一九三三—四年）（中國年鑑一九三六—七年抜萃）

木材製造業

業別	廠數	資本額	工人數			原動力（馬力）		生産品總額（弗）	
			男工	女工	童工	自備動力	租用電力		
製材	五	三九、六一	三八三	—	二	一〇〇	四一五・〇	五二五・〇	二、七六、八九〇

業別	廠數	資本額	工人數			原動力(馬力)		生産品總額(弗)
			男工	女工	童工	自備動力	租用電力	
木製品	六	三三八、七五四	三六六	一七	二八	一〇五	六二・五	九八八、六一四
竹製品	一	四、〇〇〇	三三	一五	七	—	一〇・〇	一九、一〇〇
計	七	五六一、九三二	三七九	三二	三五	一〇五	四八七・五	一、〇〇〇

家具製造業

業別	廠數	資本額	工人數			原動力(馬力)		生産品總額(弗)
			男工	女工	童工	自備動力	租用電力	
鐵製家具	六	三六八、五〇〇	四〇三	—	一四二	—	二〇五・〇	一、三六、六三〇
ジュエタン	一	一〇、〇〇〇	七五	三〇〇	七五	—	五・五	九〇、〇〇〇
計	七	三七八、五〇〇	四七八	三〇〇	二一七	—	二一〇・五	一、三六、六三〇

金屬

業別	廠數	資本額	工人數			原動力(馬力)		生産品總額(弗)
			男工	女工	童工	自備動力	租用電力	
鑄物	一九	一九一、〇〇〇	四一五	—	二四〇	—	二〇三・五	六〇八、五三〇
精煉	一	一〇〇、〇〇〇	三三	—	二	—	一三〇・〇	四一、〇〇〇
計	二〇	三九一、〇〇〇	四四八	—	二四二	—	二六〇・五	六四九、五三〇

機械金物

業別	廠數	資本額	工人數			原動力(馬力)		生産品總額(弗)
			男工	女工	童工	自備動力	租用電力	
機械及修理	七五	二、〇〇二、四八九	二、八二八	七六	一、四五一	六二・五	九一〇・〇	五、〇一三、二六六
金物	三三	一、〇六七、八六〇	一、八九二	二八一	三五四	—	一、八〇〇・五	八、二二三、二〇六
電気機械具	三六	三、八五三、〇七六	二、二二六	六四	五九	二五・〇	一、〇三三・〇	一、〇八〇・五
鑄物	五	六四、〇〇〇	一一〇	—	一〇九	—	六二・〇	一、〇八〇・〇
計	一四七	七、五二七、四二五	七、〇四六	九八一	二、四三三	八七・五	三、八〇五・五	三、八九三・〇

交通用具

業別	廠數	資本額	工人數			原動力(馬力)		生産品總額(弗)
			男工	女工	童工	自備動力	租用電力	
造船	二	三四七、〇〇〇	二、一九九	—	二六六	一、一〇四	一、四二九	六、三五八、〇三二
造車	二	五〇、〇〇〇	九九四	—	四二	四〇〇	九	一、〇八九、三六六
計	四	三九七、〇〇〇	三、一九三	—	三〇八	一、五〇四	一、四三八	七、四四七、四〇八

窯業

業別	廠數	資本額	工人數			自備動力租用電力	原動力(馬力)	生産品總額(弗)
			男工	女工	童工			
ダイヤル	三	四〇〇,〇〇〇	五二四	二三八	二五	二〇五・〇	一,五〇九,四九九	
硝子	一九	三三二,五〇〇	九一四	二	六六二	〇・五	一,六四三,四五四	
洋灰	一	一,六八八,六〇〇	三三〇			二,〇六〇・〇	二,二八三,七五八	
石粉石灰	五	三三六,〇〇〇	一七四			三五五・〇	五五九,六七五	
坩堝	四	三五〇,〇〇〇	三七八			二〇九・〇	七五四,〇〇〇	
煉炭(煤球)	六	三九〇,〇〇〇	三六六			二六六・〇	二,七四二,二〇〇	
計	三八	三,四〇七,一〇〇	二,五八六	二四八	六九七	二,五二二・五	九,四九九,五八六	

建築材料

業別	廠數	資本額	工人數			自備動力租用電力	原動力(馬力)	生産品總額(弗)
			男工	女工	童工			
木料	一	五,五五五	九〇			五〇	三〇五,五五五	
鋼料	三	五五,〇〇〇	一四六		七三	三六	五七五,〇〇〇	
計	四	六〇,五五五	二三六		七三	八六	八八〇,五五五	

電力水力

業別	廠數	資本額	工人數			自備動力租用電力	原動力(馬力)	生産品總額(弗)
			男工	女工	童工			
水力	一	一,六一〇,〇〇〇	一〇一			二,一〇〇	七八四,七三三	
電力	一	一五,六四〇,〇〇〇	一五〇			一,五二二,八九一	二,八四二,五六八	
計	二	二七,二五〇,〇〇〇	二五二			二,一〇〇	三,六二七,三〇一	

化學工業

業別	廠數	資本額	工人數			自備動力租用電力	原動力(馬力)	生産品總額(弗)
			男工	女工	童工			
磷寸	八	四,三七〇,〇〇〇	九二二	一,六一	三三二	二,八九四	二四三	
石鹼臘燭	五	一五五,〇〇〇	八七	八七	三	一七七	二四八・〇	
珫瑯	一九	一,三二一,五〇〇	一,七八四	三八五	二六六	二,四二五	四七〇・〇	
塗料顏料	六	八二〇,〇〇〇	四三八	一六	二〇	四九四	八七〇・〇	
化粧品	九	五,二二三,九一六	五九三	九四四	一〇	一,五九七	四七〇・〇	
人造脂	六	一,五二〇,〇〇〇	四六七	三六一	二二	八三九	一,一三三・〇	
(セルロイド)	九	五九九,〇〇〇	六一〇	一六三	六三	八三四	一,一三三・〇	
計								

業別	廠數	資本額	男工	女工	童工	計	自備動力	租用電力	計	生産品總額
曹達酸	二	九五〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一〇,一五、一四九
其他化工	四	六六〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	七九一、三六四
計	六	一,六一〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一〇,一五、一四九

紡織工業

業別	廠數	資本額	男工	女工	童工	計	自備動力	租用電力	計	生産品總額
棉紡織	一〇〇	五二、五三、二六二	一四、六五七	四、四九	—	一、四八六	八、九二〇	—	八、九二〇	六五、四七、六五
絹糸紡織	一五	四、四七、〇一〇	五、五八〇	二、四六五	—	八、〇四〇	—	—	—	三、九四、〇〇〇
毛紡織	三三	一、九七、六七五	一、二一〇	一、〇九八	—	二、三〇八	—	—	—	一、〇九、二五〇
棉毛屑紡織	三	一、四〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	六七〇,〇〇〇
染色	四二	一、五二、七七八	—	—	—	—	—	—	—	一、二〇、〇〇〇
捺染	四	三九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
綫	一〇	一〇三、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
飾りボン	八	三、四〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
毛綿整理	三	四一、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
計	三〇八	一、三六、七四二	二四、七三六	三、七七一	—	二、一一三	一〇、八九五	—	一〇、八九五	七二、九六、二六二

服用品製造業

業別	廠數	資本額	男工	女工	童工	計	自備動力	租用電力	計	生産品總額
メリヤス	四八	四、三九、一四一	—	—	—	—	—	—	—	—
帽子	七	二、三八、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
洋傘	二	六、一、五〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
手巾	六	一〇八、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
襪	一三	八、五二、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	五	一、二二、三三三	—	—	—	—	—	—	—	—
計	八〇	五、七二、九七四	—	—	—	—	—	—	—	—

皮革ゴム製造業

業別	廠數	資本額	男工	女工	童工	計	自備動力	租用電力	計	生産品總額
皮革製品	八	九、五五、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
ゴム製品	四三	四、〇三、八八八	—	—	—	—	—	—	—	—
製膠	一	六〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
計	五二	一四、五八、八八八	—	—	—	—	—	—	—	—

飲食品製造業

業別	廠數	資本額	工人數			自備動力租用電力	生產品總額(弗)
			男工	女工	童工		
計	五三	五,〇三八,八八八	四,九三三	六,六六八	一五二,一七四	五,七六,七九六,一七七,三五,一七	三,七三四,〇五四
精米	四	五二,七七八	一八〇			三四〇〇	一,三三七,七二〇
製粉	一四	六,〇八九,八六〇	二,五二六			二,三五〇〇	七四,一七三,一四〇
製糖	四	二五,〇〇〇	一〇四			三六・五	六,一八八,八二〇
製菜	九	一,三三,六〇〇	四九二		一〇〇	一九三・〇	四,一〇二,六八〇
製油	一〇	一,一七五,〇五六	二,〇〇〇		六	八八二	一三,二〇九,八七七
製茶	一〇	四一,三三三	二〇八			四七・〇	四三三,七五九
煙草	四	一,〇四二,六六七	三,〇二二,七三三		三二二,七〇五	二,九一九・五	一〇三,七四四,三五四
酒精	一	七〇,〇〇〇	三〇			七	一〇八,〇〇〇
清涼飲料	二	三五〇,〇〇〇	二二〇		一〇	二二・〇	五〇四,〇〇〇
調味品	四	八三〇,〇〇〇	二二二		三	八八・〇	三,九一七,七二〇
澱粉	一	一〇〇,〇〇〇	六〇			九〇・〇	三九三,六〇〇
精鹽	一	二四〇,〇〇〇	一〇〇			一五・〇	六三〇,〇〇〇

製紙印刷

業別	廠數	資本額	工人數			自備動力租用電力	生產品總額(弗)
			男工	女工	童工		
計	一〇八	四,四九,二九四	九,四三二	四,七〇〇	四四〇,二四,五八三	一,〇〇六,二七,六〇三	二〇九,六九六,四六六
製蜜	一	五〇〇,〇〇〇	一五〇	二〇〇			二,八八八,〇二六
製冰冷藏	二	四二四,〇〇〇	八〇			八〇・〇	八一,八〇〇
製紙	九	九二,七二三,九八九	九六二	五五一	一	二,一〇二,〇六五	五,五五一,八二八
印刷	八	二,八六五,五〇〇	五,三八九	二八	一,三六〇	二,七九六,六二二	三三,二九三,〇二二
紙製品	二	二〇六,四〇〇	三七九	二二五	四九	九二・〇〇	一,四五四,八〇〇
計	一〇二	二,七八五,八八九	六,七三〇	九五四	一,四一〇	二,一〇二,四九三	二九,二九九,七二〇

飾物儀器製造業

業別	廠數	資本額	工人數			自備動力租用電力	生產品總額(弗)
			男工	女工	童工		
樂器	二	一〇五,〇〇〇	五一				一五八,三〇〇
教育用品	五	二五〇,〇〇〇	一四八	六	四八	四二・〇〇	三九七,八二二

業別	廠數	資本額	男工	女工	童工	計	自備動力 租用電力	原動力 (馬力)	計	生産品總額 (弗)
儀器	五	一四八、五〇〇	三二	一九	七	三二	—	—	—	四、五〇〇
時計	一	五〇、〇〇〇	一六〇	—	—	一六〇	—	—	—	一五、〇〇〇
玩具	五	九〇、〇〇〇	一八三	—	五	一八八	—	—	—	三〇、七〇〇
計	一八	六三三、五〇〇	七六九	一四三	一八五	一、〇九七	—	—	—	一、四三四、〇九三

其他工業

業別	廠數	資本額	男工	女工	童工	計	自備動力 租用電力	原動力 (馬力)	計	生産品總額 (弗)
齒刷子	六	一〇〇、〇〇〇	二五九	三六九	七	六三五	—	—	—	一、四一九、三九九
鏡	四	五四、〇〇〇	一六四	—	七三	二三七	—	—	—	二九、一〇〇
魔法瓶	九	三六一、〇〇〇	四六一	三三	一八〇	六六三	—	—	—	一、六七三、三六〇
計	一九	五七五、〇〇〇	八八四	三九一	二六〇	一、五三五	—	—	—	三、三八八、九元
總計	一、〇三八	一、〇五六、〇六二	七、一四一	一、〇一〇	五九八	二、八四九	一〇六、五八	二二八、四三〇	—	六〇五、九〇、五一一

本表には支那工場法適用者のみを記載す

右表は一九三三—四年の調査なるも事變迄三ヶ年間の發達増加は少くとも倍加し居るものと思は

れ上海附近の工場的發展及手工業、家庭工業の大なるを加ふれば其生産額は驚くべき數字に上るものと思はる。

二、工場被害状態

中支に於ける今事變の破壊状態は北支等とは問題にならぬ程大、且慘である、前上海事變當時の戦禍とは其破壊の程度及範圍に於ても幾十倍か今の處判明せぬ、到底短日月の内には調査も不可能であり特に今尙第一線では進行中である。

一説には支那の某學者の調べによれば全支の損害五十億弗以上とのことなり、又上海支の損害は前事變の總損一億四千餘萬弗とのことなるも今回は上海市中工場の損でも五億以上と稱さる、市外及江浙兩省の有名無名の市町村皆兵火に罹らざるなく殊に今回は焦土抗戦法なる無謀極る支那軍の戦法に因り敗軍退却に際しては必ず掠奪、破壊、焼却をなし皇軍の糧道を斷ち以てゲリラ戦に備へんとする爲め上海市内は勿論、支那軍隊の駐屯の部落は皆此運命に陥入たる譯なり、勿論皇軍の勇猛果敢なる陸海空軍の大進撃には大工場大建設物が皆彼等の要塞であつたにも不拘、大鐵槌に撃破せられ居るを以て、前の上海事變復舊の如く三五年間の短日月にては到底修理も不可能である。廢墟の取片付のみでも容易ならざる仕事にて焼土に埋もれる古鐵材、古機械丈でも數百萬噸に上ると

言はれて居る。

國民政府の本年一月調べに依ると、大中工場數五千五百工場の外小工場を合せば一萬五六千工場あり、此内被害工場は輕工業部門が最も多く、蘇州河東北から閘北、楊樹浦方面は最甚しく九〇%以上に達し、西部地區は五〇%以上である。

尙上海工部局發表の一部に左記の如く報導して居る。即ち

上海共同租界の東部並に北部に於ける完全に烏有に歸した九百工場（大部分小工場）再開不能程度の被害を蒙りたるものは支那人工場約一千に達し、日本人工場（大規模）と外人經營の瑞寶洋行が全損せる外大部分は砲彈を受け修理を要する。

業種別工場損害數左の如し。

業種別	工場數	従業員數
木工業	三	七九人
家具工業	二	四
金屬工業	七三	一、三三二
機械金屬製品工業	四〇	六、三九
車輛製造工業	三	三

煉瓦硝子製造工業	八	四〇五
藥品工業	四	五六四
紡織工業	一三六	四、六八七
毛織工業	四	三、四三六
皮革ゴム工業	九	五五六
飲食料、煙草工業	四〇	一〇、二二八
印刷製紙工業	七五	一、六四九
科學器械樂器工業	三	一四〇
其他	三	七八四
計	九〇五	三〇、八六八

事變前右當地域労働者一三五〇〇〇名、被害を免れたる工場及公共事業會社に従前通り労働者を使用するとしても尙約四萬人は失業せる見込にして其内新に就業せるものは二月一日現在三千名を出でざるべし以上（此三千名は邦人紡績位にて他は上海市内は勿論市外も殆皆停業状態なり）

兎に角今尙南市、浦東等の工場被害數は判明せざる有様にて正式の發表なきも工場關係丈にて五億弗以上の損害なりと稱せらる。

三、生産の増減と需給

中支否上海附近の生産品は前述の如く中支一帯の需要を充したる上、尙北支、滿洲、南支、南洋に迄販路を有し邦品と競争をなし居たること一般の知れる所なるも、主なる商品及其額を示せば左の如し。

一、上海より國內移出の主なるもの。

品名	金額
靴 下	三、八四〇、三九九
綿 糸	九八、〇〇五、七八三
綿 布 (細綾)	三二、六八五、四五一
同 (粗布)	五九、一四四、〇三三
同 (土布)	四、一四四、三三三
同 (ビスグーズ)	五〇、三六〇、五九七
絹 布	二、二六六、八五一
麻 袋	三、二七三、五六九
タ オ ル	一、五九〇、六七九
靴	二、二五五、五一四

衣 類	二、四六七、五九〇
鐵 製 品	五四六、九〇六
セ メ ン ト	九二〇、一八六
陶磁器 (上海、九江ヨリ)	九五七、六〇〇
磁 器	一、三五〇、〇八四
石 鹼	四五二、四三二
菓 子	五二一、三三八
扇 子 (上海、廣州)	八二二、一四二
構 寸	九二六、三三三
電 燈	六八八、〇五八
電 氣 器 具	一、八四六、九八三
蓄 音 器	三三〇、一四九
機 械 類	六二〇、一三三
化 粧 品	一、〇九九、三五六
ゴ ム 製 品	二八六、二〇七

(民國二十五年國內轉口土貨類編より重要なるもののみ記載す)

(右金額には多少輸入品も含まれ居るも上海に於て製産さるるもの大部分なり)

二、上海より輸出品の主なるもの。

品名	昭和十二年度(弗)	昭和十一年度(弗)
動物及其製品	三、六四一、九三三	五〇、六四八、八三四
雜穀及其製品	二、三六九、九三二	一六、八九二、二七一
植物性染料	一、三二四、一〇五	一、〇五六、一九六
油	八六、二六七、七八三	七二、九一九、七九
茶	三、三六七、五三〇	二四、九〇三、四二七
煙草	三、四四六、八三八	二、三五二、三四五
紙	一、五三八、〇二一	九六〇、一八〇
紡績纖維	五、八七六、二二五	四八、三三三、三九九
メリヤス	二五、〇三三、八六三	三九、一五〇、六三八
綿布	一六、四六八、五六一	一八、七七〇、五七七
其他紡績品	三、七〇四、〇八〇	三、八七〇、六二〇
礦砂金屬製品	三、九六五、二〇二	一八、〇六〇、七九六
硝子及製品	二、三五、八四四	一、五四、三六三
石、泥土砂及製品	一、九六六、九七	二、二四四、〇八九
印刷品	二、一六四、三六七	一、九八三、〇四七

雜貨

一三、五六五、一九三

一〇、五四〇、〇八二

(右の内昨年度輸出額には事變の爲め送還せられたるを含むと思はる)

兎に角支那が大輸入國大消費地には相違なきも、前記上海を中心とする輸出及移出品の額を検討せば實に恐るべきものにて、今事變なかりせば本邦品が過去數年來世界の隅々迄進出せり安價なりとて値段引上の統制迄して日本品の優位を誇りたる自己陶醉者は戰慄を覺ゆる次第なり。

目下上海乃至中支は混亂の爲め背後地狭く購買力も薄く、當分日本品進出は見込薄と主張する向あるも、一應は是とするも前記の如き工産品の生産額が今後一、二年間は從來の七八割減と見れば中支方面への輸出の見込は有望なるは勿論、過去に於て上海製品と競争せる香港、南洋、天津市場の明朗化は至大と云ふべく此點特に關係者の注意を促すものなり。

四、中支工業に對する我政策と希望

本邦商工業者の今後對支政策の内最も重要な點は新支那政府の關稅政策なり。

今次の聖戰の趣旨よりするも當然排日關稅を是正し兩國有無相通する共存共榮の理想の實現せらるゝこと一點疑の餘地なしと雖、一部の現地業者には若干利害を異にする人なきにしもあらざれども國民の總意を遂行せんには多少の犠牲は免れざるべく日支政府の熟慮斷行を幾願ひ、且關稅の改

正の如きは事業經營の根本骨子となる問題なれば、一日遅れば夫れ支不利困難となるべきに付急速に決定せられんことを希望し尙本邦業界も夫々希望を至急具體的に陳述善所すべきなり。

五、新支那に活躍の目標は

甦生の友邦、日滿支ブロックの旗幟も明朗に東亞の平和の光を放つに至つた支那大陸には尙皇軍が不眠不休、而も肉弾の貴き犠牲を物とせす聖戰に火花を散しつゝあり、最後の止めを刺迄には今後相當の日子を要するものと思はれる折柄なるも、中支經濟市場は東亞第一の國際都市にて各國が兵火の巷に於ても商權維持に大奮闘を開始し居るを見る時、吾等商工貿易關係者は眼前の利益は兎も角、將來中支市場の制覇に後るゝことあらんか、皇威を傷つけ、世界の嘲笑を受け、皇軍努力も水泡に歸せん恐れ多々あり、此際幾何の犠牲を拂ふとも我商權の擁護擴張に突進し今次聖戰の成果を全うするに身命を賭するの覺悟を要するものなり。幾十億の犠牲を拂ひ幾萬の貴き英靈に對しても此責務を遂行せざるべからず。

而して其目標に向ては十分の調査と方針に向ては倦まざる努力を續くべく、決して眼前の利權探り又は短兵急なる利慾に走らざることを切に希望す。吾等調査團が歸來各方面へ實情を報告し現地官民各位の懇切なる御注意或は熱意ある進出意態を傳言するも、皆此根本精神に立脚するものであ

る。

今後一刻毎に變る情勢に對し餘り大膽なる指針も表示し不得も、進出の緩急其他左記短見を記すとせば。

第一、貿易進出は吾等の最も必要とする所なり、今後尙當分は軍用雜品又は日用品が主たること勿論にして、高價品は見込薄なるも佛租界、舊英租界に密集せる三百萬人の消費する物資は大欠乏を來たす商品及其時季が特に注意を要する點にて、此重點を無視する努力には大した効果はなかるべし。

現在一部の商品には市内滯貨或は事變突發前の契約品が今以て香港馬尼刺に多量に積載され居る等十分研究すべき事項である、従つて中支生産品にして生産不能にある商品を十分研究すべきである、是が爲には支店、出張所、出張員をして専門的に調査の必要あり。

奥地向と雖も交通の不自由と金融の不圓滑等は今後相當の日月は續くものと思はるゝに付、目下宣撫班の組織せらるゝ際、此機關の指定商と十分打合取引することが本筋である、是等も情勢の變化には極力注意を要する。

第二、工業進出は將來原料の供給を考慮せば、此際逸早く調査し外人、支那人が四圍の事情によ

り經營困難の爲め邦人へ譲渡し或は合辨を希望する者も相當ある趣に付十分研究する必要あり、支那生産品にして有名なる商標を有する者等を手に入ることは興味ある問題なるべし。

第三、建築の修繕又大事業なり、宜敷建築材料の進出の外特に建築業者、技術者の進出を必要とする。

其他廣大なる上海新市街の建設或は奥地も同様土建事業等有望にて今後五年十年も續く大復興に參畫雄飛することこそ想像するだに血湧き肉躍るの思多々あり。

第四、支那政府所有財産の處分、利用等今後日を追て公表せらるべし、投資開發に今より心して時季を待べきである。

要之出先當局は内地より堅實なる經濟進出を促進せしめよとのことに付、此點を十分各位へ傳へん爲め粗雑ながら調査を筆記し參考の一端にせんとするものなり。

最後に從來滿洲進出等に際し日本人の競争意識は餘りに激しく、爲に不覺の損をなしたる人多く而も現地の人も夫が爲に攪亂せられ怨嗟の聲を聞くに至れり、今後北支に中支に邁進するにも此前轍を踏まざる様政府當局の指導及助長機關等と謀り統制ある進出をすべく切望して報告の結とする次第なり。

毛糸、毛織關係について

伏原毛織合資會社

伏原順四郎

清水辰之助商店

清水辰之助

松岡信次郎商店

松岡信次郎

一、緒言

近年支那人はシャツに衣服に、毛製品を相當用ひ出し、又洋服を着る者も漸次多くなつて、毛織物の需要は年々増加しつゝあつたのであるが、日支事變前迄茲數年間、上海中心として支那の羊毛工業は目覺しき發展をなし、從來毛糸、毛織物等製品として輸入せられ居たるものが、逐年其の數を減じ、之に代つて原料（主としてトップ）の輸入は著しく増加してゐるのである。既に手編糸、辨髮糸、薄サージ類の毛織物は自給自足の域に達せんとし居り此の傾向は尙將來相當顯著となるべき段階にあつたのである。

殊に梳毛工場の設定期待せらるゝもの多く（事變により或程度は一頓挫を來せり）その曉は濠洲羊毛の輸入及支那羊の利用等一層重要となり原料輸入系統にも變化を來すものと思はれる。

二、輸入状態

海關發表の一九三三—一九三七年、原毛及トップ毛糸、毛織物の上海に於ける輸入統計夫々左の通りである。

Wool carded or combed and waste wool (原毛及トップ) (G.U.トハ海關金單位ノヤト)

	1933		1934		1935		1936		1937		
	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	
澳洲 Australia	—	—	—	10,020	10,850	85,170	119,210	544,810	944,650		
奧地利 Austria	—	—	—	—	—	178,980	101,810	419,680	330,590		
獨乙 Germany	—	—	—	—	9,970	17,930	10	10	9,430	19,200	
英吉利 Great Britain	—	—	—	—	1,999,740	2,149,920	4,196,900	5,173,000	5,025,440	6,563,680	
日本 Japan	—	—	—	—	479,340	430,010	852,010	859,950	299,920	408,200	
新西蘭 New Zealand	—	—	—	—	—	—	37,750	31,480	102,140	123,580	
其他 Other Countries	—	—	—	—	1,410	1,870	20,130	28,240	113,100	171,590	
Re-exported Abroad	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—1,170	—2,220
計 Total	484,300	458,980	1,922,420	1,933,330	2,500,480	2,610,550	5,371,010	6,313,700	6,513,350	8,558,270	

Woollen Yarn & Cord (毛糸)

	1933		1934		1935		1936		1937		
	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	
白耳義 Belgium	43,770	194,140	4,000	20,730	680	3,200	—	—	450	2,010	
佛蘭西 France	60,570	273,860	59,400	298,560	25,280	117,030	2,810	11,810	16,700	76,180	
獨乙 Germany	251,420	720,770	117,700	244,880	36,510	65,840	2,760	6,200	1,040	7,610	
英吉利 Great Britain	2,008,610	3,517,190	1,942,830	3,550,180	382,190	587,420	131,920	234,940	31,050	100,460	
日本 Japan	179,430	377,970	456,700	1,072,910	168,370	355,960	372,000	899,300	444,940	1,320,130	
其他 Other Countries	21,280	69,580	78,700	151,710	2,340	4,070	330	2,340	60	310	
Re-export Abroad	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—2,630	—4,910
計 Total	2,565,080	5,153,510	2,659,300	5,338,970	615,370	1,134,120	509,820	1,154,650	491,610	1,501,790	

Woollen Piece goods (毛織物)

	1933		1934		1935		1936		1937	
	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.	Kg.	G.U.
白耳義 Belgium	—	—	40,820	11,880	—	—	—	—	—	—
佛蘭西 France	—	—	217,710	104,180	71,660	14,610	—	—	—	—
獨乙 Germany	—	—	455,370	341,150	169,770	100,930	—	—	—	—
英吉利 Great Britain	—	—	4,257,380	3,263,920	2,307,800	906,190	—	—	—	—

伊 太 利 Italy	417,883	626,220	322,810	114,570	241,890
日 本 Japan	531,870	1,156,940	1,217,880	1,414,230	1,978,180
ポーランド Poland	256,200	458,793	285,460	289,140	111,392
其 他 Other Countries	160,893	93,623	66,050	116,430	82,210
Re-export Abroad	—	—	—	—	4,720
計 Total	6,338,120	6,053,500	4,456,980	2,964,010	2,919,220

右の表に示す如く英國を始めその他全體的に輸入は毛糸、毛織物共減少して居るが、こゝに注目すべきは日本丈はあまり減つてゐないのみならず、毛糸、毛織物の王座を占めてゐた。英國を數量金額共一昨年すでに追越し第一位を確保したのである。

昨年の數字は事變のため正確なる數字とは云へませんが毛糸も毛織物も斷然英國を凌駕したのである。

然し乍らトップ（ウエーストールを含む）の輸入に到つては一九三五年に英國からの二〇〇萬キログラムに對し日本は四八萬キロ、一九三六年四二〇萬キロに對し八五萬キロ、一九三七年（昨年）五〇二萬キロに對し約三〇萬キロとまだ遠く及ばないのである。

然し乍ら今後は吾内地に於いてはステープル、ファイバー入毛糸及びステープル、ファイバー入

毛織物殆んど大部分を占める事になり、純毛トップの製造は相當過剩餘力が出来るのと幸ひに羊毛製品輸出に對し原毛輸入のリンク案發令實施された事であり、内地からトップは相當進出力を見せるものと確信して居るのである。

次に一九三四年—一九三六年三ヶ年の支那全體二十七港（秦王島、天津、龍口、威海衛、膠州、重慶、漢口、九江、上海、杭州、温州、三都澳、福州、厦門、汕頭、廣州、九龍、拱北、江門、三水、梧州、瓊州、北海、龍州、蒙白、思茅、蒙越）と上海丈とに對比し毛織物の各品名別の統計を示せば次の如く、上海丈にて支那全體の八十パーセント以上を占め、上海が支那に於ける如何に有力なる地位にあるかと判る。

單位、G. U. (支那全體數字ヨリ上海丈ノ數字ノ多クハ Re-export ヲ含ム)

	1934		1935		1936	
	支那	上海83%	支那	上海86%	支那	上海88%
Plushes, Velvets, and all other Pile Cloths	39,201	30,632	56,131	49,358	133,070	124,037
Alpaca, Lustre, Orlean, Sicilian, and Florentine	58,867	49,203	32,135	27,998	8,709	7,993
Woolen Serge	780,357	576,459	646,824	524,952	303,605	260,623
Twills and Imperials	137,397	134,163	83,343	81,733	15,570	16,946

Galardines	392,056	344,632	205,625	171,315	78,252	71,513
Venetians	1,484,010	1,061,673	1,091,148	799,829	270,168	199,606
Overcoatings, Tweeds, and Homespuns	1,191,787	915,060	684,720	573,916	828,503	723,286
Woollen Waterproof cloth	31,080	32,048	49,175	49,301	8,167	8,400
Worsted Suiting	146,036	125,809	85,823	78,484	69,056	64,052
Bunting Camlets Lasting	55,428	49,080	51,828	41,600	25,475	24,792
Woollen Piece good Pure or mixed n.o.r.	3,092,333	2,797,415	2,236,445	2,058,494	1,605,620	1,467,127
	7,408,552	6,116,174	5,203,198	4,456,980	3,346,195	2,968,375

次に一九三七年の上海に於ける各國別品種別の毛織物の輸入統計を示せば次の通りである。

Plushes, Velvets, and all other Pile cloth

	ineters	G.U.
Germany	1,286	4,909
Great Britain	34,191	99,594
Japan	3,061	4,033
Other Countries	3,819	11,334
	42,357	119,870
		(\$270,851)

Alpacas Lustres, Orleans, Sicilians, and Florentines

	Kg.	G.U.
Great Britain	1,907	8,730
Japan	94	367
Other Countries	91	785
	2,092	9,882
		(\$22,589)

Woollen Serges

	Kg.	G.U.
France	1,445	6,821
Germany	10,761	46,076
Great Britain	10,778	43,814
Japan	88,813	314,466
Other countries	830	3,341
Re-exported Abroad	—136	—669
	112,464	413,843
		(\$913,322)

Twills and Imperials

Germany	0,494	29,439
Great Britain	2,092	12,657
Other Countries	3	11
	8,589	42,107
		(\$96,253)

Gabarlines

	Kg.	G.U.
Germany	3,649	14,299
Great Britain	5,411	27,299
Japan	6,422	22,044
Other Countries	75	273
	<u>15,557</u>	<u>63,915</u>
		(\$146,055)

Venetians

Great Britain	5,478	30,195
Japan	37,008	133,478
Other Countries	1	4
	<u>42,487</u>	<u>163,677</u>
		(\$393,399)

Overcoatings Tweels and Homespuns

	Kg.	G.U.
Germany	3,619	8,020
Great Britain	58,578	172,565
Hungary	5,464	5,111
Italy	112,314	130,825

Japan	22,331	31,538
Poland	101,599	108,998
Other Countries	6,293	20,861
Re-exported Abroad	—800	—2,726
	<u>309,398</u>	<u>475,192</u>
		(\$1,077,618)

Waterproof cloth, Rubbere l

	Meters	G.U.
Great Britain	10,972	20,027
Japan	181	251
	<u>11,153</u>	<u>20,278</u>
		(\$46,137)

Worste l Suitings

	Kg.	G.U.
Great Britain	11,285	77,988
Italy	2,019	10,436
Japan	2,119	9,612
Other Countries	817	3,844
	<u>16,240</u>	<u>101,880</u>
		(\$232,103)

Bunting, Camlets, Lasting, Long Fills, Spanish Stripes and Knit ted Tissue

	Value G.U.
Germany	199
Great Britain	21,795
Japan	465
Other Countries	14
Re-exported Abroad	—326
	22,147
	(¥50,250)

Woollen Piece goods, pure or mixed. n.o. r.

	Kg.	G.U.
Austria	1,421	7,145
Belgium	1,927	8,779
Czechoslovakia	3,881	25,979
France	1,497	7,426
Germany	11,199	33,615
Great Britain	103,557	535,093
Italy	22,842	100,629
Japan	199,664	761,929
Poland	1,201	2,393
Other Countries	639	3,809
	347,828	1,486,495
		(¥3,391,407)

右の表によつてオーバ地、スコッチ等の厚地羅紗はイタリー、イギリス、ポーランド品非常に多く背廣地を初め特殊品はイギリスに比し日本からは、まだ僅かな數量より輸入されてゐない事が判断できる。

三、生活状態及事變による被害の程度

然らば上海及び上海附近の毛糸、毛織物工場はどの位あつて事變による被害程度はどうか、大略次の通りで、上海丈にてめほしい工場は十四五ヶ所、織機は上海丈にて約六百臺、無錫、武昌、太原、廣東に各一ヶ所、天津の二工場を合算して約八百五十臺。精紡機は上海丈にて約三萬鍾、各地を合算して約四萬貳千鍾と推定し得る。

怡和紗廠 (Iwo Cotton Mills Ltd)

英國ジャーデンマデソン會社經營租界内にあり。

フライヤー 一三八〇鍾 キャップ 二八〇〇鍾 織機 一〇〇臺

紡毛、梳毛糸紡績、製織整理

被害僅少、操業は休止中

上海紗廠 (上海紡織株式會社) Shanghai CottonMfg Co., Ltd 日本人經營

三井物産と密接なる關係あり。

リング 一九六〇鍾 ミュール 五臺 織機 四十八臺

紡毛、梳毛糸紡績、製織整理

被害輕微、一部操業

章華毛絨紡織股份有限公司 (China Woolfig Co.)

(Chang-hwa-mao-nynon-fong-tsch-ku-feu-yeu-shen-kung-sze.) (浦東に工場あり)

支那人經營 代表者 劉鴻生

リング 四〇〇〇鍾 ミュール 五臺 織機 一六〇臺

紡毛、梳毛糸紡績、製織整理

戰禍による被害輕微、操業は休止中

蜜蜂絨綜廠 (Patous & Baldvines Ltd) (Mi-feng-yung-hsien-chang)

英國人經營

フライヤー 二〇〇〇鍾 キャップ 六〇〇〇鍾

メリヤス糸、手編糸、被害輕微、操業休止中

中國毛絨紡織廠 (China Warsted Spinning & Weaving Mill)

支那人經營

リング 一九五二鍾 皇后牌及紅梅牌、手編糸及メリヤス糸

同社は租界内上海紡の附近にあり、多少砲彈の被害を蒙りたる程度。

上海臨時支那兵俘虜收容所になつて居り。勿論操業中止

上海毛絨紡織股份有限公司 (Shanghai Warsted Mill Ltd.)

支那人經營

フラハヤー 六〇〇鍾 手編糸

租界内にあり、被害殆んどなかりしも操業中止中。

安樂紡織廠 (Aloud Spinning & Weaving Mill)

支那人經營

フライヤー 六〇〇鍾 美雄牌及双洋牌

租界内にあり被害なし。操業繼續中

上海製造絹糸株式會社 (Shanghai Silk Spinning Co., Ltd.)

公大第三廠

鐘紡の經營

ミユール 六臺 織機(毛織)三十六臺

紡毛糸紡績製織整理、被害輕微、操業開始す

其の他、紡績の設備はなく製織整理丈の工場として次の各工場を擧げることが出来る。

大上海毛織廠 支那人經營 被害なし

達隆登記毛織股份有限公司 〃

上海毛織株式會社(永興毛織廠)

大阪辻久商店、上海吉田綿共同經營、燒失す。目下復興準備中

宏康毛織廠

大阪市田商店經營 被害輕微 織機五十臺

次に上海以外各地に左記工場あり。

無錫

協新毛紡織染公司

キャップ 二八三二鍾 織機 百二十二臺

自家用梳毛糸、三割程度破壊。操業休止中

武昌

Wuchang Woollen and Warsted Mill

支那人經營

フライヤー 四〇〇鍾 キャップ 八〇〇鍾 織機 二十臺

被害程度不明、操業狀態不明

山西太原

North Western Woollen Mill

リング 一〇〇〇鍾 織機 三十臺

被害、操業狀態不明

廣東

Kuantung Provincial Spinning & Weaving Mill

リング 一〇〇〇鍾 織機 四十二臺

被害、操業状態は不明

天津

東亞毛呢紡織股份有限公司 (Oriental Wool Mfg. Ltd.)

支那人系

フライヤー 一五〇〇鍾 キャップ 二五〇〇鍾

被害、操業状態不明

天津

仁立公司 (Jen Li Woollen Mill)

リング 二〇〇〇鍾

被害、操業状態不明

常州

大成紡織染廠

支那人系、製織整理不明

大略以上の通りで上海にある内、事變による被害は想像して居たよりは何れも輕微であつて、中

には殆んど焼失したものもあるが、平均すれば三割五分位の破壊ぢやないかと思ふ。

しかし操業は休止中のものが大部分で、たとへ操業して居つても事變前の如く深夜業は勿論やつては居ない、晝間丈の一部である。

上海の毛織工業は大體に水が悪く硬度が高いため羊毛工業の發達は可能性がないと云はれてゐたが、だしかに水は悪く相當深掘りの井戸でも硬度は十度以上にて（上海の水道の水は四度乃至六度といふ事である）然し相當大規模な水の軟化法によつて鐘紡系の公大何廠の如きは硬度二度迄にする設備は充分したとの事であつて全然可能性がない譯ではない、設備さへすれば漸次工夫される事と思ふ。

四、關稅問題

右の如く著しく上海に於いて羊毛工業も近年發達したる理由は何であるかと云ふに、毛製品の需要が年々増加したのと一九三四年以來の高率關稅のため非常なる産業保護を受けたからである、故に今回の事變を契機として愈々中支政權も確立したる中、關稅政策はどうなるかといふ事は各方面とも重視さるゝ問題である、上海に於ける羊毛工業、引いて内地より中支向けの毛糸、毛織物についても重大關心事でなければならぬ。

今左に輸入貿易と輸入關稅率を對照して記載す。

昭和十一年年中支那輸入貿易ト關稅率

品名	全支那		天津		輸入關稅	國民政府現行 (1934年7月)	同稅率 (1931年1月)	中國臨時政府 (1938年1月)
	數量	金額	數量	金額				
Wool carded or combed wool & waste wool	對日	1,065,480	1,048,560	213,270	188,540	Waste 5%	7½%	
全體	6,203,120	7,159,320	785,350	812,770	Wool 10.G.U. per 100kg.	10.74 G.U.		
Woollen	全體	612,880	1,336,400	10,570	25,440	甲 100kg 180G.U.以上ノモ ノ 6.5 G.U. per 100kg.	(1) 57.75G.U. allwool	
Yarn & cord	對日	407,790	959,050	9,450	20,720	乙 100kg 180G.U.以下ノモ ノ 4.5 G.U. per 100kg.	(2) 12½% (其他)	
Woollen	全體	—	3,346,200	—	159,740	甲 Pm 200gm以下 200G.U. per 100kg.	35—35%	
Piece goods	對日	—	2,491,050	—	30,870	乙 Pm 200 ¹ / ₄ of gm 190G.U. per 100kg.	甲 110 GU Kg 乙 105 GU	
						丙 Pm 400カラ以上ノモ Knitted Tissue 40% Velvets plush water- proofノ別	丙 30%	

(註) 1、現行國民政府輸入稅ノ同稅ノ10%ノ附加稅ヲ課ス
2、中國臨時政府輸入稅ノ同稅ノ5%

3、別表中 GU ハ海關金單位 (Custom Gold unit) ノ畧ニテ昭和十二年十二月中ノ平均相場ハ
GU 1.00 = \$2.250 S\$1.00 = ¥1.015

尙、此の際參考ニ滿洲國ノ羊毛・毛糸・毛織物ニ關する現行輸入關稅率を左に掲ぐ。

羊毛		舊數率		備考
甲	乙	甲	乙	
脂付ノモノ	洗滌漂白又ハ染色シタルモノ	19.30	19.98	三分下
乙	カート又ハユームシタルモノ	37.40	37.40	八割強上
丙	其他	43.50	43.50	十一割上
丁	一、原毛	14.70	14.70	二割強下
	二、其他	10%	10%	三割弱上
毛糸	手編毛糸 (他纖維ヲ交ヘタルモノヲ含ム) 三捻又ハ三捻ヲ超エタルモノ		7.8%	
甲	毛製ノモノ	100kg	110.10	
	其他	縱經	22.5%	
	一、絹入ノモノ	100kg	54.40	
	二、其他			

毛織糸及毛糸 (他纖維ヲ交ヘタルモノヲ含ム) 別號ニ掲ゲタルモノ

甲、毛製のもの

(一) 梳毛ノモノ

100kg

112.40

舊率稅

(一) 梳毛ノモノ	100kg	54.60	縦經	四分強下
(二) 其他	縦經	17.5%	縦經	一分強下
パイル布綿毛製ノモノ	〃	27.5%	31.5%	一分強下

毛織物 (パイルハ別) 毛織物及毛ト他纖維トノ交織物

甲、經糸又は緯糸に綿のみを用ひたるもの

(一) 十種平方ノ重量二瓦ヲ超エサルモノ (アルパカ其他)	每百疋	189.50	縦經 26.2%	四分強下
(二) 十種平方ノ重量五瓦ヲ超エサルモノ (サージ、メルトン、其他)	每百疋	74.50	縦經 26.2%	一分強下
(三) 其他 (メルトン其他)	〃	42.40	〃	〃

乙、其他

(一) 十種平方ノ重量三瓦ヲ超エサルモノ モスリン、セル、ボグリン、ボアラ、サージ キヤバチン、グエネツアソフランセル、其他	〃	151.40		六分強下
--	---	--------	--	------

(二) 其他 サージ、キヤルチン、グエネツアソフ ランセル、メルトン、二重織カール、其他	每百疋	94.90		五分弱下
--	-----	-------	--	------

(註) 二種以上ノ纖維ヲ超マルトキノ全重量ノ百分ノ十ヲ超エサル纖維ハ之レヲ交ヘサルモノト看做ス

現在の處上海は無税であるが、事變前迄は所謂排日關稅とまで稱された位相當高率の輸入税が徴收されて居つたのであるが、今回中支政權も愈々確立されるに當り當然親日關稅に改訂さるべきは論をまたざる處にして現在當局の御意見も、北支の引下げ關稅率迄下ける譯には行かぬが、とにかく相當下ける。然かもなるべく内地からの製造品を輸入する方針であるとの言明を得た譯で、尙第二段の改訂としては北支並みにするか、或は北支を中支に引き寄せる事になるかは何ともいへないが將來は兩方とも同一の課稅率にする。又たとへ政權が別々であるからといつて、上海から北支へ再輸出する様な場合、二重の課稅になる様な事は絶體ない様にするとの言質を得た譯である。

然し乍ら改訂稅率の細目については参考になる意見をこちらへ、むしろ尋ねたいとの事で、この際内地の關係業者は相當具體的な發言の必要を感じたのである。

現地の日本人當業者の方々の意見も種々御尋ねしたが、輸入業者と雖もすでに直接或は間接乍ら密接に上海に於ける製造工場とは夫々關係をもつて仕事をやつて居られるので、關稅の問題につい

ては痛しかゆしの事になるのであるが、國策的見地から精々努力するとの御話しを得て相當感銘した譯である。

然し自分が滯滬中、或は内地から寄せられたる意見も滿洲なみにせよとか、北支なみにせよとか或は現行率の半分にせよとか種々御意見を接受したが、夫々前述の關稅率表に示すが如く細目に至つては必ずしも同一ではない、たゞ自分としては、とにかく關稅率は安くして貰ふ事は無論でもあり是非改訂して貰ひたい。

又内地にては最近殆んどスフ糸毛糸、スフ糸毛織物になつて、輸出は純毛の毛織物でも差支へはないが、スフ入製品が是非支那へドシ／＼進展する様關稅政策にも織込んで裁く様極力強調して置いた。

此際一日も早く吾内地の關係業者は中支の關稅問題について公平妥當なる意見を取繼め進言するの要ありと深く信ずる次第である。

今回の事變を契機に外國人商館は大部分退却するの餘儀なき状態になる事は當然であるといふ事を申添へたい。

中支に於ける紡織業

株式會社 服部商店 松井賢次郎

一、緒言

上海は古くから、内地人の觀光地として、支那の内一番よく紹介されてゐる土地である。日本最古の開港場、長崎には「東京へ行くのは仲々容易でないが、上海ならば行つて見ても良い」と云ふ若い人々が多い程、内地の延長として考へられてゐるが、この距離を益々短縮せしめたものは、在華日本紡織の發達に外ならない。

その上海に於ける紡織が、今回の事變に依つて、戦禍を被つたのであるから、實際に於て如何なる状態になつたかを知るのは、主たる興味ある點であつたが何分短期間のことでもあり、在滬中僅かに一日、蘇州に行く機會を得たのみで充分の視察も出來ず見聞も不自由勝ちの軍事占領地のことでもある爲め正鵠を得て居らぬ點も多々あることと思ふ。

二、棉花事情

支那はアメリカ、印度に亞ぐ世界第三位の大棉産國である、棉花は主として中部、及び北部を貫

流する揚子江、及び黄河の流域に産する。近年支那の紡織業が、この豊富な自國棉花を有する上に國民政府に依る極端な内國産業保護の制度に守られて、益々發展の域を進め、之が又従つて棉花の栽培を助長し、相互に因果關係を爲して改良、増殖が行はれたのである。

今揚子江の貫流する、所謂中支に於ける棉産地を省別に見るに、江蘇、湖北が最も多く、北支の山東及び河北の二省と共に、この四省だけで全産額の大半を占めてゐる。

中華棉業統計會調査 (單位植付反別千畝、收穫高千擔)

省別	一九三五年		一九三六年		一九三七年(豫想)	
	反別	收穫高	反別	收穫高	反別	收穫高
江蘇	10,258	1,978	10,401	2,425	10,936	2,625
湖北	4,568	927	8,883	2,668	11,566	3,470
計	14,826	2,905	19,284	5,093	22,502	6,095
全支	35,018	8,142	56,210	14,468	66,893	17,044
比率	42% ^三	35% ^五	34% ^三	35% ^二	33% ^六	35% ^七

右の如く一九三七年度は大豊作年度たる前年と略同様を豫想されてゐるが、これは國民政府の積極的植棉政策と昨年度の農産大豊作に基く奥地農村の好景氣を反映して棉作面積が著しく擴大した

爲めである、併し乍ら今次の戰禍に依つて實收高が如何なる影響を受けるかは豫斷を許されない。

支那棉は大體、インド棉に類似する短纖維で毛筋は八分三乃至四分三吋しかないが、地方に依つては米棉に匹敵する良質のものもある、支那棉の名稱は、多く産地名をそのまま、用ひたものが多いが、其産地區が殆ど全國に亘つてゐる關係上、種類も極めて複雑である。最近は日支兩國の獎勵に依り六―七割まで米棉を産するに至つたが、未だアメリカの米棉に較べると稍々劣つてゐる、注目すべきは、これ等米棉の一エーカー當り産額が二二二封度とアメリカのそれと大差なく、然も生産費はアメリカより概して安いことである。

三、棉業事情

華商紗廠聯合會發表の一九三七年度紡績一覽表に依れば現在の在華紡織は左の表に依りその概況を知るを得る。

一、工場數	148工場
一、紡機	5,102,796錠
一、織機	58,439臺
一、棉花消費高	9,087,060擔
一、綿糸生産高	11,038,336俵

支那の綿業發達史は大體左の四期に區分することが出来る。

- (1) 創業期 (光緒十六年—同三十年) (一八九〇—一九〇四)
- (2) 漸進期 (光緒三十一年—民國三年) (一九〇五—一九一四)
- (3) 發展期 (民國四年—一〇年) (一九一五—一九二二)
- (4) 整頓期 (民國十一年以後) (一九三三年以後)

支那に於て紡績業の萌芽を見たのは一八九〇年であつて李鴻章が起した上海の織布局と稱する一紡績工場の創設に初まる、日清戦争が終結し、馬關條約の締結に依り、支那は外國商人に對し上海に紡績工場を設立するの權限を與へたが、日本紡績は逸早くこの權利を行使し、上海楊樹浦ヤンツポに東華公司を設立したのであるが、之と同時にイギリスもアメリカも紡績を開設したのである。斯くて華洋兩紡績の競争裡に、在華紡績はその創業の苦難時代を送つたが、一九〇五年に英支合辦の紡績が設立されてより、十年間に新設及増設の紡績工場は十七個所の多きに達し、斯業は日と共に旺盛化したのである。従つて漸次日本紡績、對イギリス紡績の角逐が漸く顯著となりつゝ、あつた。

支那に於ける各紡績が躍進したのは、歐洲大戰の勃發を機機とし、革命的變化を生じた。即ちその最大原因は、世界紡績業の牛耳を執つてゐたイギリスが、歐洲大戰に依り生産力を甚しく減殺し

たことである、従つて綿製品の市場昂騰を來し、戦争の飛沫を受けなかつた支那綿糸のみが獨り、漁夫の立場に立つて、利を收める状態を現出した。この時代に創設された工場數は、新設三十一と云ふ異例を示してゐるが、隣接國日本もこの機會を巧みに利用して健實なる地盤を築いたのは言を俟たない、即ち支那綿糸の發展期は、亦同時に在華日本紡績の發展期であつた云へるのである。

整頓期とは一九二二年頃よりを指して云ひ得ることと思ふ。即ち大戰好景氣を終えて、市場が一段と沈滞し、弱體會社が解消し、資本系統の整備等今日の綿業に至る迄の整頓工作が進められた時期である、この期に於て日本紡績が一段と進出したのは、他に各種の事情が存在するも、主因は即ち日本内地綿製品に禁止的高關稅を課せられるよりは、支那本國に紡績を設立するに如かずと云ふ點にあつたのである。

昭和十一年末に於ける在華日本人紡績工場及其紡機、織機數を掲げると左の通りである。

名	紡機數	織機數
大 康 紗 廠	一一、六〇鍾	一、三六臺
同 興 紗 廠	九八、〇〇鍾	一、四二臺
公 大 公 司	九四、〇〇鍾	二、四二臺
内 外 綿 紗 廠	二八〇、五三鍾	三、八〇臺

日華紗廠	二六、八九鐘	七六臺
上海紡織有限公司	二〇六、五三鐘	三、一七臺
東華紗廠	四、二〇鐘	—
豐田紗廠	一〇三、五八鐘	一、三八臺
裕豐紗廠	一三五、〇八鐘	二、九六臺
計	九社 三十三工場 一、三八、〇五鐘	一七、二九八臺

(在華日本紡績同業會調査、昭和十二年一月ニ依ル)

一九三七年七月蘆溝橋事件に端を發したる支那事變の爲め、既に新聞紙上にて續々と報導されたる如く、或ひは支那側の不法爆撃に依り、或ひは敵機の空爆、浦東又は市政府方面よりの砲撃に依り相當の被害を被りたる工場あり、現在に於ては着々復興手段を講ぜられつゝ、あるも、尙労働者の復歸意の如くならず。詳細なる被害状態は不詳なるも、邦人紡のみにも紡機十八萬鐘、織機三千五百臺は全く使用不能に陥りたりと云ひ、修理を要する損傷機械、灰燼に歸したる貨物の數は莫大なるものなれども、支那側に於ても其被害は甚大にて、今回の事變を楔機として、在華紡績業には一大革命の生ずるは必然にて、益々邦人の進出を必要とする如く思はる。

現在(昭和十三年三月十日)に於ては、日本紡績の復興は、事變前の約二割五分乃至三割と云は

れ、交通の不便、支那人労働者復歸の制限、夜間操業不能の場所もある等の理由にて、其復興も意の如くならず、労働者のみは事變前の五萬人に比し、四萬人足らずの復歸を見たるも、其半數は不熟練工にて其、成績は今後の教育指導に俟たざるを得ずして、現状の能率は、極度に低下せりと云ふ。

又他面、支那人經營の紡績は如何と云ふに統稅局接收後、對華商廠徵稅開始せるに伴ひ、華商廠聯合會を二月十五日愛多亞路會所に對策協議を行ひたるが、上海安全地帯内の作業開始せる紗廠は左の如く發表ありたり。

一、申新第二廠	六三、八四八鐘
二、夕第九廠	九三、六六鐘
三、永安第三廠	六三、一八四鐘
四、統益紗廠	六七、七八鐘
五、鴻章紗廠	三〇、九六鐘
六、新裕第一廠	二五、六〇〇鐘
七、新裕第二廠	二七、三八〇鐘
八、勤豐紗廠	二、八〇五鐘
計	三七五、一三七鐘

然し乍ら之等支那人紡績の製品綿糸の主要市場は、長江一帯並に江、浙、奥地、南支方面なれども、現在その交通杜絶せる爲め注文は全然なく、滞貨の換金に迫はる、状態に在り。

四、綿布市場としての中支

支那人の人口は古くより四億と稱せられてゐるが、其の大部分は貧困な爲め、綿布は常衣とされ需要多く、其消費高は莫大な量に達し、東洋屈指の綿製品市場たること勿論である、然し乍ら、近年は農民疲弊の深刻化に依る國內購買力の激減、自國綿糸の發達、日本品排斥、國民政府の輸入防遏策等に依り、輸入額は甚だしい減少振りを示してゐる。

一九三二年の上海事變、北支政變等に依る外國貿易一般の萎縮、並に滿洲國獨立の爲めの急激なる減少等、ここ數年間の支那の綿布輸入高は激減歩調を示してゐる。此主因は國內購買力の低下が第一を爲すことは明かなれ共、この外日貨排斥、國內紡績の進出、人絹の代用等も見逃し得ざる原因であらう。

一九三六年に入りて、支那農産物の豊作に加ふるに、世界的農産物の價格騰貴、政情の比較的安定、等の好材料に恵まれ、數年來の萎縮傾向とは反對に頗る好調を示して來たのであるが、其の最高潮に突如として上海事變が勃發したのである。全支那貿易額の五六%を占める上海港の一九三七

年度七月迄の對外貿易額を見るに

	一一七月	對前年同期比較割合%
輸 入	四四〇、五九五	三九、〇%
輸 出	三〇一、八九六	四八、五%
合 計	七四二、四九一	四三、七%

従つて綿糸布もこの割合に應じて目覺しき成約を見たのである。

輸入綿布の種類は、未晒綿布、晒又は染綿布、捺染綿布、糸染其他の雜綿布等各種に分れ居るも其第一位は未晒綿布にして晒又は染綿布之に次ぐ。

なほ日本の貿易月報に依れば、中支の一九三六年の日本綿布對支輸出量は左の如し。

	七五 (單位一千方碼)
白 木 綿	一三三
綾 木 綿	四六五
綿フランネル	一三三
生金巾及生粗布	一、四三五
更 紗	三
天 竺 布	七
其 他	二六、八八五

日本綿糸布の中支進出につきましては、將來幾多の問題を生ずることと思ふが、今回の關稅改正も既に投資されたる在華日本紡績業の萎退を來すが如き新關稅は想像出來難く、日本内地を工業の根據とし、支那は原料の供給國たると同時に、内地製造綿糸布の消費地たらしむべく、根本方針に基き多少の製品分配を生ぜしむるが如き新關稅の發表せられんことを切に希望する次第なり。

(昭和十三年三月廿一日稿)

中支に於ける莫大小

水野 潔 商店 水野 野 潔
 岩田 嘉七 商店 岩田 嘉七

上海としては、大正十年頃迄はメリメス製品の一般類が相當の數を日本及歐米から輸入しておりましたが、紡績の發展は自然其消費工業を誘導して、元地製造が低廉勞銀と比較的やり易い家内工業に芽生へ關稅城壁に拍車を加へ追進進歩して昨今は殆んど外國から輸入はなくなり、反對に天津大連、南洋、香港、方面への輸出に乗出し事變前迄は日本内地の製品と競争してながのの成績を上て居りました。

尤も此の製産の機械は工場の大半が日本製機械であります、中にも獨逸、チェッコ、米國邊の優秀な機械を設備してある資本二百萬圓の大會社を始として、大小工場數は約四、五百あるとの事です。今回の事變に依つて其大部分は、破壊又は破産等に會ひ復興工作に相當の時日を要する事と思ひます。

上海調査の見地から此のメリヤスに就て見聞の一端を申述べて見たいと思ひます。
 先づメリヤス類の内譯として四類に分割します。

- イ、綿製 肌着
- ロ、毛製 肌着
- ハ、手袋 類
- ニ、靴 下 類

第一順として綿製肌着は肌着の製造よりも生地製造販賣が一番多額で、中にも「ゴータメリヤス會社」の如きは資本金貳百萬圓を投じ、機械の設備は模範的にして「トンプキン」「臺丸」「吊機械」の優秀機械數百臺あり、其の製品たるや、なか／＼優秀で主に生地販賣を目的として居る様です、其の他二十萬、三十萬と云ふ小會社も有り、裁縫、加工もやつて居る様です、然して若干

の南洋、香港、方面又は奥地に販賣しております。此等の製造會社の製品は凡て租界の商人に特約制度で販賣して居る様です、生地需要は裏毛よりも天笠物多し、一體支那人は重に生地を「ヤール」値で買ひ、之を自宅で裁縫するのが相當あるとの事です、シャツ類は袖付等出来る丈縫目の少いのを希望する爲め「マチ」入の仕立方は殆どありません、即ち裁違ひの裁方です。

第二として、毛製肌着、即ち毛メリヤスと云ふシャツ類は其加工が面倒なる事と毛糸、原糸の關係で進歩とか云ふ迄は行つておりません、需要も綿製程の困難ではありません、一部高級人士向なるを以て多量製産として見るべき數ではありませんが、時代的から見て毛メリヤスの内地から輸出は望みあると思ひます。

第三として、手袋、毛製綿製共相當家内工業として製産もあり、其製品も日本製に比し遜色はありません。

第四、靴下類、上海に行つて一番良く目に付く事です、其の使用量は内地の足袋の如きもの故、其發達の歴史は一番古く或る會社の如きは日本にもない様な優秀機械を設備して居たそうです、本自動、半自動、手廻等も附近の郡部方面にまで擴がり居り、製造の簡單から發達は物凄く、上海からの輸出は仲々の數でありました、上海製靴下には、滿洲、天津方面でも、日本商人の最も恐れら

れたる格安値段と優秀に獨歩しておりました、然し高級品は微少で中級下級物多く、綿もの、ガスのものは望み薄なるも、絹製の輸出、高級品は多少の望みあると見受られます。

支那人五人に就て見るに、メリヤスの肌着を着用して居る者は二人もありませんでした、此の五人は綾木綿の仕立シャツを使用して居りました。此點から見ましてもメリヤス肌着使用は確に行届いて居らぬと思ひました、何かの方法で使用増加を計れば結構と思ひます。

以上は支那側を見ての批評ですが、一方虹口方面に在住する内地人を見ますと、七、八軒の可なり大きい小賣業者（デパート、呉服屋）に研究して見ますと、彼等は内地人専門の小賣で、重に大阪、東京で仕入れて、内地其儘の販賣方式です、何分、三三萬の内地人相手ですから其消費量は少量であります。

要するにメリヤス一般から見て、上海今回の事變で製造機關の破壊やら倒産で、産力中止状態で復興するには少くも數年の月日を要すると思ふ昨今ですから、今年の夏物、並に冬物等は相當の輸出可能と思ひます。

現に調査に出張した時に、支那側への輸入商の一、二軒より現物の注文がありました、不幸にして其用意のなかつた事と現在の綿系統制下では何とも方法のないのを残念に報告しました。又虹

口方面の内地小賣屋も右同様でした、營業の方法如何で支那人向と云ひ、内地人向ひ、必ず相當の成績を挙げ得ると思ひます、それは過去に於ても見る通り餘り事務的商賣は多い様に思ひましたから、即ち先物契約が多いから商賣は比較的斷續的ですから、小賣屋の購買心の誘致が遅い、従つて需要者の購買力に迄及びませんから、現在の上海、破壊せられたる上海に此際奮起して現地に店舗を設け、現品を以て卸の即賣を開始するなれば絶對の成績を挙げ得る事を確信しました。

中支、特に上海方面に於ける衛生陶器に就いて

日東貿易株式會社 鈴木 英 一

破壊の後には建設を伴ふのは必然でありますから、建築材料、従つて衛生陶器等も、必ず將來多量に需要される事は、一應誰れしも考へる事であります。

現地を視察調査する迄は、前の上海事變後の需給状態から考へて、衛生陶器等も既に需要されてゐるのではないかと、かすか乍ら期待を持つてゐたのですが、上海上陸第一步、目に映じた、今度の事變に依る破壊のあまりに物すごとく、想像以上だつた事は、まだ一般には、衛生陶器、タイルど

ころの騒ぎではないとの印象を得たのです。事實、英、米、獨、支那人の店を十軒許り歩いて見た結果、得た所は各商店共に、多量のストックを持つてゐるのみならず、其のストックが殆んば動かないと云ふ事でした。

事變が始まるや、大多數の輸入商、取扱商等は事變の影響に依る、支那貨の下落を見込して、ポンドや米弗に變へて所有してゐるから、一般にこれ等の商人は財政的には、あまり大した影響を受けてゐなく、事變落着後の衛生陶器、タイル等の需要を豫想して、かなり英、米、獨等の品物を購入し、ストックしてゐます。其の爲今の所、日本品を購入して、ストックする意志は見受けられませんが、彼等は、上海地方に於ける銀行利子が比較的の高い爲、ストックを所有してゐる上に更に購入する事は餘程考へる様です。

上海市場に於ける、衛生陶器に關しては、統計の依るべきものがなく、上海市場への輸入額、量等を數字的に示す事は出来ません。此の報告も實際に、各國人、特に英、米、獨、支那人の業者と接觸してゐる中に聞いた事、感じた事に依り、或は製品を見た事に依り、現在の狀勢、將來の趨勢を判斷したものです。

上記の英、米、獨、支那人等の業者が、英、米、獨等の製品は前述の様に、かなりストックして

るにもかゝらず、日本品を殆んど所有してゐないと云ふ事は、從來、日本製の衛生陶器の大部分が、日本人の手を通して、日本人方面及び一部支那人方面に賣られてゐたが、將來は努力如何、方法に依り、外國品を驅逐してかなり進出の餘地のある事を示してゐます。

尤も日本品を殆んどストックしてゐない事の理由の一つとしては、事變後外國人、支那人等は直接に衛生陶器のみならず、其の他のすべての日本品を我が上海總領事館其の他の許可なくしては輸入出来なかつた爲であります。しかし此の問題は、既に新政府が誕生した事ですし、間もなく新關稅が發表され事變前の如く自由に輸入出来る事になり、解決すると思ひます。

次に日本の衛生陶器類の取扱業者に就いて一言すれば、日本の某々工場等はそれ／＼上海に代理店を有し、日本人方面にかなり賣り込んでゐる様ですが、其の他には専門的に衛生陶器、タイル等を取扱つてゐる日本人は殆んどなく、綿製品も取扱へば、其の他の雜貨類も取扱ふと云ふ如くで、衛生陶器、タイルは片手間に取扱つてゐる現状であります。勿論、一般建築請負と同時に、建築材料、衛生陶器、タイル等を取扱つてゐる日本人もありますが、目下の所、上海在留のこれ等の業者は支那人、外國人と比較して財政的に恵まれてゐない爲、實際問題としては、仲々取引し難い點があります。これに反して、支那人、外國人中には専門的の業者が多く、而も財政的に恵まれ、取引

は信用狀を發行してすると云ふ連中が多い爲、未だ上海に代理店等を有せざる、日本の製造家、輸出業者は、かゝる連中と取引すれば金融上に非常に樂な所があり、これ等の支那人、外國人との取引を行はざるを得なくなるわけです。此處に思ひを及ぼす時、我が國も、もつと財政的、金融的に進出する必要があると思ひます。然らざれば、根強い勢力を有する支那人、外國人の業者と競争は出来ません。

しかし、今回日本が多大の犠牲を拂つて、上海に中支に聖戰を起す事を餘儀なくされ、今日の結果を見るに至つたからには、決して日本の製造家、輸出業者は、日本に居てこれ等外國人、支那人と取引する如き消極的方法に依らず、積極的に進出し、上海に、中支に確固たる經濟的地盤を開拓しなくてはならないと思ひます。即ち我々業者は人的にも進出しなくてはならないのです。

然らば何時頃から業者は進出すべきの問題になりますが、此の問題は明確には答へかねます。前の上海事變後には、間もなくかなり衛生陶器の需要がありました。が、今度の事變はスケールに於ても、日本の態度に於ても、前の事變とは同一視する事は出来ませんし、日本政府、新政府の今後の中支、上海方面に對する政策如何が、建設方面、従つて衛生陶器方面の需給に大なる影響があるわけ、日本並に新政府の政策が分明するまでは、支那人、外國人の手持の衛生陶器類の荷動きも殆

んどないでせうし、日本の業者が進出しても、今直ちに充分な商賣は期待出来ないうでせう。しかし支那人、外國人の業者と競争し、これ等の連中に打ち勝たんと欲すれば、現地に於て相當のストックを持つ事は最も必要な事である。今から進出し、準備しても決して早過ぎる事はないと思ひます。私の現地調査の結果、特に感じた事は衛生陶器類は値段が安ければ、必ず賣れると云ふ品物ではない事です。即ち其の理由として、次の二つを擧げる事が出来ます。第一の理由としては抗日意識が潜在的にまだかなり強い事があります。外の品物同様、衛生陶器類を需要するものは、結局人口の大半を占むる支那人であるが、衛生陶器類の使用される建築をする人々は、現在に於ては支那人中でも所謂金持階級であります。大體金持階級には比較的インテリが多く、インテリ階級が反日思想の根原を成してゐる爲、日本製の衛生陶器類が、英、米、獨等のそれに比較して、値段に於て半分以下であるにもか、はらず、日本品があまり使用されない状態にあるのは抗日意識が重要な役割を演じてゐます。此の事は建築技師の大多數が英、米、獨人であり、彼等は自國品を用ふる事を種々なる理由から好む事に依つて、或は従來の英國租界方面の政策に依つて（例へば検査に手加減をする）拍車をかけられてゐます。

或る業者は、従來日本製の衛生陶器は日本人以外には日本品だと云ふ事を分らぬ様にして賣つて

ゐると云つてゐました。事實この事は他の商品に於てもしばしば見られました。例へば、統計に依れば、上海に輸入されてゐる一般陶磁器の九十パーセントは日本品であるにもかかはらず、市場に於ける日本品の如何に少いかに何人も驚かれるでせう。

第二は衛生陶器類を使用する部分は建築全體から見れば、ほんの一部分しかに當らぬ事が其の理由を成してゐます。即ち建築全體の費用から見れば、衛生陶器類の全額は如何に高價なものを使用しても、ほんの一部分しかに當らぬからである。これが爲、建築主は衛生陶器類の使用に際して、衛生陶器類に對する知識のない事も原因して、建築技師にすべて一任する傾向が多い。而して建築技師は自己の最も取扱ひ易い關係にある衛生陶器類を用ひんとし、前述の如く英、米、獨人の手に依つて、大多數の建築が行はれてゐる上海方面では、英、米、獨等の品物が多數に用ひられてゐるのは自然の成行であります。

此の點を考へる時、私は衛生陶器類の値段を引下げ安價に賣る必要はない、寧ろ値段を更に二割や三割引上げて、賣れる時が來れば必ず日本製の衛生陶器類も更に多量に賣れると云はざるを得ないのです。

人、或は云ふかも分りません。上海に輸入されてゐる陶磁器の九十パーセント以上が日本から輸

入されてゐる状態では（此のパーセンテージは昨年一月から八月迄の統計に依る）一般陶磁器は積極的に努力しても、結局日本製品の同士打になる、それと同様に衛生陶器類も亦、日本製品同士の競争になりはせぬかと。此の考へは一應尤もだと思はれる。少くとも衛生陶器、タイル等以外の一般陶磁器に關する限り確かに其の通りである。

しかし、衛生陶器に關する限り私は「ノー」と答へざるを得ない。即ち英、米、獨、支那人の専門業者を訪問し、彼等の殆んど全部がストックを所有し、而も其のストックが英、米、獨品なる事を實際見て來た私には、まだ、衛生陶器類は外國品を驅逐し、進出の餘地がある様に感じました。尙上記の専門業者を歩いてゐる中に目に付いた事は、彼等が外國製瑠璃の洗面器、便器等のストックを有してゐた事である。技術上、バスタブの如き大型にして、形の單純なるものを陶器で作成すれば非常に高價になるにもか、はらず、外觀、耐久力等は瑠璃製と殆んど甲乙がないから、我が國に於ても瑠璃製のものの方が非常に多く使用され、これが爲我が國の衛生陶器工場で本格的に陶器のバスタブを製造してゐる工場は殆んどありません。しかし洗面器、便器の如く小形にして比較的形の單純ならざるものは、瑠璃製は陶器製のものより寧ろ高價になり、たゞ輸送中其他に破損の憂ひがないのみである。かゝる瑠璃製の洗面器、便器、流し等が英、米、獨等より多量に上海市場

に輸入され、陶器製のものより遙かに高價に賣られてゐます。しかし是等は早晚陶器製に依つて必ず代られる運命にあるものであります。現在はまだ値段が安いもの必ずしも賣れると云ふわけにはいきませんが……。あれを思ひ、これを考へる時、上海方面に於ける衛生陶器類の將來は期して待つべきものがあります。

然らば我が國の衛生陶器類を、より上海方面に進出せしむる方法如何？、恒久的根本的方法としては、支那人間の抗日意識を除去せしむる事にありますが、長年培はれた抗日意識は一朝一夕に排除する事は出来ません。次の方法としては資本を進出せしめて多量のストックを持つと同時に優秀なる建築技師を派遣して外國品と競争し、これを驅逐せしむる事が考へられます。しかし最も實際的な簡便な方法としては、機を見るに敏なる商人—特に外國人、支那人の業者を積極的に利用する事であります。即ち現在では大體衛生陶器類を使用せる工事は建築技師に一任するのが普通となつてゐますから、積極的に外國人、支那人の業者に日本品を取扱ふ事の關稅其の他の點に於て如何に有利なるかを知らしめ、彼等をして然るべく建築技師方面と連絡せしむる事であります。結局に於ては此處にも努力の必要がある譯です。

一般に支那人の衛生状態は全く幼稚の域を免れません。例へば私は上海南京路にある某大時計店

並に江西路の某書店で便所を借りましたが、驚いた事に兩者共、其の邊數軒が共同で一つの便所を有する事でした。また或る時はすぐ近くに小便所があり、而もそれが空いてゐるにもか、はらず溝の中へ用を足してゐるのを目撃しました。便所の少いのは支那式の所謂「モーション」なるチエンバ―ポットに似たものを使用してゐる爲かも分りませんが、兎に角上海の目抜き所に於て上述の如くです、況んや田舎に於ける衛生状態に於てをやです。衛生陶器類に關心を有せざる人々も、一般支那人の衛生思想の幼稚な事に一驚を喫せられるでせう。かゝる状態の中支に於て衛生思想が發達し、個々に大小便所を、或は更に一步進んで洗面所、バスルーム等を設けるに至らんか、衛生陶器類の需要は實に莫大なものとなるでせう。即ち現在では所謂金持階級―抗日階級が衛生陶器類を使用し、其の建設の際には技師に一任する傾向が多く、高價な外國品が品質は日本品と殆んど同等なるにもかかはらず、より多く使用されてゐますが、一般大衆に衛生思想が發達したる場合には、必然的により安價な物を望むに至るべく、日本製衛生陶器の需要の増大は驚くべきものがあるに違ひありません。

若し上海を中心とする中支貿易を地域的にのみ考へ、上海の背後地に於ける日本軍の占領地域が事變前日本品が進出してゐるた地方にまで擴大するに非ざれば、事變前と同等の貿易は望めないと考え

へてゐる人がありとすれば、私は此の考へ方は皮相的な觀察ではないかと思ひます。尤も何人と雖も現在の占領地域内で事變前と同等な貿易が出來ると云ふ事は考へないでせうが、財的に、人的にどしどし日本が中支に進出し、從來外國人、支那人の行ひ來りし貿易中に割り込めば、追々事變前に行はれた貿易に接近し更に新政府の良政策に依つて人民の購買力が事變前より増大したとすれば更に増加する事になります。

既に述べた如く、上海、中支に於ける衛生陶器類のみに關する統計資料無く、たゞ私が業者を訪問して見聞し、調査せし事のみを基礎として此の報告書を書きましたが、短時日の滞在でしたし、邦人方面の業者とは殆んど接しませんでしたから、一方的考察になつたかも知りませんが此の點御了承下さい。

結論として繰り返し申します。上海、中支に於ける我が國の衛生陶器類は非常に有望であるが、外國品を驅逐せんには、他の日本品の進出に於けると同様に、財的、人的兩方面の積極的進出の必要があると。

中支に於ける掛置時計に就て

愛知時計電機
株式會社瑞穂工場

佐 分 清 次

一、序

千古の色を湛えた大揚子江流域に於ける國際都市として、且又世界的貿易港としての上海及政治經濟的に要位を占むる杭州とを結ぶ三角形は正しく大支那の心臟部を占めてゐる。

此處には支那の有する工業部門の大部分と、財政に金融に交通機關に、その凡べての重要な中樞を占めてゐるのである。加之支那の有する無限の資限と巨大なる人口とは古くより先進資本主義國の魅惑的對照となつて、或ひは絶好の投資に、或ひは大なる商品の消化市場としてその進出を競ひ來つたのである。然る處滿洲事變の勃發以後は遂年その貿易額も萎縮し來つたが、今次の同國有史以來の大戦を契機として凡べての事情は更新せられ、再吟味せらるべき時機は到來したのである。茲に於て吾々はこの戦前戦後に於ける中支經濟事情に就き、その回顧と展望を課せられたのであるが、吾々の滞在は僅々九日餘の上海市内に限られたるが爲め自ら上海を中心としての觀測であり、然かも迅速なる變化の情勢下の事とて有り得べき多分の誤認と盡し得ざる憾みとに對しては何分の

御寛恕を御願ひする次第である。

上海の今日は昨日の經驗を以ては到底その明日を語る事が出來得ない。

二、事變前の狀況

扱て茲に所謂掛置時計と稱するは朱塗、木地塗或ひは黒漆塗に金色の飾金具をつけた、くどくどしい支那特有の好みに似つかはしい種類のものが大多數であつて、これが名古屋特産として既に日露戦役前より彼地に向けられたのであるから、如何にその歴史は古く如何に時計工業の重要な需要先であつたかが察知出來得るであらう。支那人にとつては時計は何よりの裝飾品であり、且又嫁入道具の必携品として加へられてゐるのであるから、あの巨大なる人口を擁する支那は、時計に限らず何品にとつても一の魅惑ある市場に相違ないのである。然る處滿洲事變後は極端なる排日運動と高率關稅（註1）の制約に依つて同地方向の積荷數字は唯激減の一途を辿つた眞に憂ふべき狀況を持続し來つたのである。乍然この間吾々は單なる傍觀的態度を執り來つたのではなく、却つて新市場の開拓と特に滿洲市場への進出を企圖し着々とその歩を占め來つたのであつた。

（註1）時計に對する稅率は從價にて完成品は三割、部分品二割であるが完成品には實際上尙五分餘の附加稅が課せらるる狀態であつた。

一方この間、上海に於ては時計に就て如何に爲され來つたか。流石重要工業地帯だけあつて既に小規模ながら次の如き四工場の成立をみたのであつた。即ち

昌明電器公司 成都路六六一
上海鑄廠 孟德蘭路
德安時鐘製造廠 塘山路一〇七一街四一號
中南鑄廠 虹口

而して之等組織規模等に就ては詳細資料を得るに至らなかつたが、昌明は完成品としての製作設備を有し簡單なる蓄音機の製作をも爲し得るものであり、其他は組立工場の程度にて生産能力は日産平均各二〇打位ならんとの事である(乍然その數字は誇張ある様に思はれる)。而してこの生産數量と安價なる武器とを以て能く同地方の需要に投じ本邦品阻止の一因を爲し來つたのである。然らば右組立工場は部分品を何れたり供給され來つたか。又斯る状況の下に輸入状態は如何であつたか。茲に上海昭和十二年度に於ける掛置時計並に部分品の輸入統計國別數字を一瞥すれば、

日本 三六、三〇 (上海弗)
獨逸 八八、九五

米 國	三三、〇一〇
瑞 西	五、六六三
英 國	二、三三三
其 他	一、一〇五

(右數は Shanghai monthly Returns of Foreign Trade The Maritime Custom China Dec. 1937 により轉載せるものであり、數字は凡べて海關金單位を以て示されてあつたが同誌の註により同年平均レト一單位に就き二・二五六弗を以て換算せるものである)

右の如く本邦品に次いで獨米の順となれるも、本邦品の數字は乍遺憾全部完成品ではあり得ないその内譯明細數字を知る事は出來ないけれ共、同地有力業者の言に依ればその約半數餘は部分品ならんとする事である。由來當地に於ける日本時計工業組合に於ては完成品に非らざれば輸出し得ざる旨の規約あるにも不拘、依然として部分品―特に器械に就ての―が密かに流出してゐるのである。又獨逸品は運賃關係もあつて、その殆んどが部分品―主として高級器械―であり、結局之等組立工場にては右輸入品と一方天津方面よりは僅少なる wharf duty (百圓に就き二、三圓との事) のみ課せらるゝ故、邦人米田工場等より盛んに器械部分品が移入せられて此處に完成せらるゝ事となるのである。而して之等輸入品のうち主として丸形掛時計、目醒時計、小型ビー置の類は上海市内に消

化され(註2)上海工場に於ける製作品、特に馬置各種、サロン置の類は農村向として積出され遠く河北、河南、四川各方面に向けらるゝのである。

(註2) 市内向日醒、小型ビー置類の目、獨、米其他の割合は信すべき時計商の言に依れば左の如き率を以て示される。無論輸入に當つては完成品は少数であつて殆んど部分的である。又此種品は上海工場では製作出来得ない。

	目 醒	小 型 ビー置
日	70%	50%
獨	20%	30%
米其他	10%	20%

尙目貫商店街の時計店を視察せるに、獨逸品には矢張り著名なる「ユングハンス」「マウテ」が多く、米國品は能く知られたる「ビッグベン」マークが最も注目を惹いてゐた。又此種品は吉田號服部洋行、宮澤洋行等に依つてその大部分が取扱はれてゐる模様であつて、之等輸入業者は同地卸店との間に六十日、卸店と小賣店との間に九十日の期限付決済が行はるゝを通例としてゐる。

三、事變後の状況と見透

扱て事變と共に輸入は杜絶し國內間供給の途は絶たれ、無論操業中止を餘儀無くされたが、昌明上海の二工場は事變に依る被害は殆んどなく、徳安、中南の二工場は損害輕微なれ共、何分支那人職工の復歸困難なる爲め當分の間操業再開は不可能の状態である。而して之の機會に於て本邦製時計の進出如何との問題に就ては乍遺憾如何しても早急にその途を得る事は不可能である。何しても事變による被害は彼等の自ら招きたる犠牲とは言ひながら、工場地帯被害状態にても實に慘憺たるものであり、上海附近にて約五〇%、蘇州川東北に於て約六〇%、閩北、揚子浦に於ては實に九〇%餘と推定せらるゝ、よりみても察知出来得るであらう。又當然その後に来るものとしこの失業者乞食等は續出し、之等市内にて七萬乃至八萬と算へられ避難民收容所にては實に十三萬人と稱せらるゝ有様である。農村は本年の收穫を失ひ、奥地との交通機關中絶の有様にて、その連絡に途なく、假令この途開けたる曉に於ても住民の復歸に相當の時日を要するは勿論であり、之等實現には尠く共茲二、三年は全然見込み無きものとみられてゐる。あまつさへそれ以後に於ける購買力の復歸と日用品ながら、第二第三義的地位に置かるゝ時計に對する需要への喚起は未だより以上の期間を保留せらるゝ事であらう。一方前記四工場の再起は之又時期の問題なるも操業開始の節は依然として日本品進出の一障害たるを失はないであらう。然らば茲に残る最後の鍵は關稅問題であるが、今や

新政權の生誕を前に改訂準備中であつて、これが決定に迄は幾多の難問題を減ずるものであるが、結局は北支のそれと關聯的に落着をみる事となるであらう。時計に關する限り吾人が北支に於て懇請せる如く從來率より低下せらるゝは尤より完成品、部分品共同率を以て律せらるゝか極めて僅少の差を以て定められん事を絶對的に必要とするものである。之には從來輸入品が多數部分品を以て占められ、又國內移入の途もあつて彼地組立工場が成立してゐるが、斯くする事に依り部分品流入の阻止と彼等の再起に致命的障害を與へ、一面本邦完成品の進出を容易ならしめんとの方途に外ならない。乍然右四工場程度の程度にては同國關稅の全面的立場よりしては飽迄保護せらるべき程の必要は認められないものであるから、この吾人の希望は容れらるゝものと信ぜらる。然の上は無論完成品のみ輸出の規約を嚴守すべきであり、極端なる價格の競争と不合理なる價格に囚はれたる品質の低落は業者の等しく最も戒心すべき重要事である。

四、結 び

北支と共に今や中支の空は明朗に明け初めた。建設への慌だしき息使ひは新しき太陽のもとに喜びあふれてゐる。蓋し今事變の、結局とする處は日支の共存共榮であり、彼國の劃期的更生をもたらすものであつて、茲に日支貿易の復活と本邦經濟の向上と、飛躍的進展は等しく熱望せらるゝ處である。

今や皇軍の暖かき手に依り占領地區の治安は維持せられ、宣撫班の活躍により教化、救恤、施療等が爲され、各地方に自治委員會も組織せられ、新しき政權に就かしめんとする等、明朗化工作は着々と進捗してゐるのである。吾が居留民は勇躍して續々現地に大多數復歸して新しき興奮と共に活動が約束されてゐる。激減した入港の積荷は二月で既に平時の六割に達した程の復舊振りを示してゐる。問題の關稅は親日への本來の姿に改訂せられんとしてゐる。

斯くて根強き排日と部分品流入により助成された國內工場生産と、不當高率の關稅等々に阻まれた時計も深まりゆく親日觀念と業者の自覺による部分品流入の阻止と、邦品進出を目標に改訂せられんとする新關稅率とに依つて好轉の途開けんとしてゐる。新政權出現の曉は政治、經濟、金融は安定し關稅制度の確立をみる事となり、彼地交通機關の復歸と購買力恢復の曉は本邦品は堰を切つた奔流となつてその進出を競ふ事であらう。

ギリシャ神話にある不死鳥—フィニックスは、さまざまの香料を焚いてその佳き香の中に身を託し最後の息を吐きながら死んでゆくのであるが、それ自體は滅するのではなく、その身體から一羽の若鳥が生れ出て、その親鳥の代りに生きてゆくのである。

悠久實に幾千年、歴史と傳統を誇つた大支那は今未曾有の大試練に逢着したけれ共、破壊は單に物象の毀損ではなく、より高められた綜合への前提であつて、戰禍の中より正しく一羽の若鳥が生れ出んとしてゐる。

その再起は單なる過去への復歸ではなく、その傳統をつぎ、然かもより高められた新しきフィニックスの生誕に外ならないのである。(昭和十三年三月二十五日稿)

中支に於ける樂器の生産状態 及び事變後の變化

帝國發明社 近藤 榮

上海に於ける樂器の製造は皆無と稱すべきで、殆ど歐米商品の獨占市場となつて居る。僅かに部分品を歐米より輸入して、ピアノ、オルガンを組立て居る程度、ハーモニカの工場として戰前小規模に製造されて居たと云はれてゐるが、風説に等しき微々たるものであつた。尤も蓄音器方面に於いては、レコードの「プレス」或は蓄音器の製造(主として「モーター及び重要附屬品」を日本及び歐米より輸入して組立に相當の設備をして居たとかが、日支事變によつて殆ど壊滅され見る可

きものは殆どなかつた。

中支より北支、滿洲への移輸出状態

樂器に於ては上海に専門の輸出入貿易商なき爲、有力な小賣商店の直接輸入及び一部雜貨商の手を経て各國より輸入されて居る。従て長江筋又は奥地へは多少移出さるる事はあるも、北支或は滿洲方面への移輸出は殆ど見られない。殊更地元製産品の見る可きものなき爲ではあるまいか。

然し大正琴或は蓄音器方面に於ては、交通の便、又商業の中心地である上海より南支、北支へ相當廣範圍に亘つて移出さるゝものと思はれる。

中支に於ける需給状況

上海市内の邦人の樂器店は、主として日本製品を取扱つて居るが、日貨排斥に依つて戰前は業績香ばしからず僅かに居留邦人のみを相手する小規模の商店に過ぎず、事變によつて被害を受け目下舊状態に復す可く努力中にて將來に可成の期待を掛けて居るのは注目すべきである。次に英佛租界の外人又は支那商店はデパートを加へて十餘軒有り、直接的被害は僅少であるが事變によつて賣行きは窒息状態と聞く。

邦人商店以外の店は、その取扱ひ商品の全部が歐米品のみにて、勿論從來の排日思想の影響にも

よるが容易に日本商品の進出を許さない。

第一に外國商品の多年に亘る強固なる地盤を見逃す譯にはゆかぬが、元來樂器の製造に於いては歐米に尙一日の長があり、支那市場へ積極的に販路を擴張するには、幾多の困難が豫想される。

多年の排日貨にも不拘、蓄音器の上海方面への輸出が相當好成績を示して居るのは、日本商品が外國品に比して極めて安價なる爲、支那大衆に迎合したるものと云はれやう。

樂器は其の點、中層階級以上の愛好品として、一般大衆的にトボシき事も考慮しなければならぬ。その内最も手輕な青、少年向き樂器としては、ハーモニカ、手風琴の如きは殆ど獨乙のMホーナー會社製品が幅を利して居る。

先年日本市場より國産品によつて驅逐された、Mホーナー會社製品は東洋の販路を支那に求めたるともいふ可く驚異的發展を示して居る。樂器輸入種別は小賣商店の陳列品から觀察するに、獨乙よりピアノ、オルガン及び此れ等の諸材料、絃樂器及び絃、ハーモニカ、手風琴等。米國よりジャズ類の絃樂器及び絃及び管樂器、ピアノ類、佛國より樂隊樂器及びジャズ樂器、チエツコより絃樂器類及び其の附屬品等が主となつて居る。

縣産品の販路擴張方策

未だ中支に於いては交戦状態にある爲、樂器、蓄音器の如き平和時代向きの娛樂商品の進出は時期尙早と云はねばならない。新政府の親日の提携、軍部及び政府のあらゆる部門より宣撫、排日思想の根絶政策に依つて順次取引は回復され、新市場への進出は容易になるものと豫想さるゝも、前述の通り戦後の疲弊は實に甚だしく購買力最も減退せる爲、時期の至達を俟たねばならぬ。

又支那に於ける一般民衆の文化の程度は、日本内地に比較の出來ぬ程低級である事は言を俟たないところであるが、又樂器の流行の如きも、日本では昨今の如きギター音楽が流行して居るからと云つて、支那にそれを需めることも不可能である。

内地に於いては目下戦時體制下の現今、ダンス音楽は殆ど見受けないが、上海においては、英、佛租界ではそれ程影響を受けていない。ジャズ樂器としては米國製が相當あり、何れの小賣店のウインドにも吾物顔ににぎわして居る。

樂器類の輸出は最近の原料高で外國品と對抗する爲には非常な犠牲を忍ばねばならぬが、更に今後一層、品質の改善に努力して外國製品と堂々とその優秀品に於いて競争しなければならぬ。

我々業者も内地市場のみを目的とせず、協力一致して歐米品と比肩すべき商品を先づ手近かな支那市場よりその第一歩を踏み出す可きである。

中支方面に於いて、外國品を相當の程度驅逐するまでには長日月を要するものと考へらるゝが、現地市場が平定する迄我々業者も大いに研究して置く必要がある。

今後の取引について

前述の通り外國品ばかりの所へ進出する爲、相當の犠牲は忍ばねばならぬが、原則としては必ず荷爲替付の事、そして堅實主義に進出が將來に對し好い結果を得れると思ふ。 以上

中支の文房具

舟橋商會 舟橋金造

上海需給狀況

事變前まで獨、英、米品五〇パーセント、日本品五〇パーセント位の比率で需給され、特に事變突發一、二年前から抗日の爲に特に日本品排斥せられ、憂慮すべき状態であつた。

輸入狀況

日本品は大阪、東京製品が主にて、其内大阪製品が特に多く、内地よりは大阪華商の手にて八〇

パーセントは輸出された。日本品の主なるもの一紙製品、鉛筆、萬年筆、インキ、スタンプ臺等で輸出年額三十萬圓内外。

競争狀況

本邦品は下級品が多く、品質よりも安價な品多く、外國品は其爲相當な壓迫を受けて居た。然し高級な事務用品一タイプライター、ナンバリング、ホツチキス等は獨、英、米品が獨專的優位にあり。

北支滿洲への移輸出狀況

五、六年前まで若干の輸出ありたるも、滿洲國獨立以來、逐次輸出は減少し現在では數字を擧げる程の輸出入なし。

取扱商人の動靜

萬年筆、インキ等若干は事變直前まで製造販賣されつゝありしも、事變にて工場、店舗共燒失され、現在吳淞路、文路、北四川路等に四、五軒の卸兼小賣店により販賣され、事變後は蘇州河を起點として、共同租界、開北一帶は上記の四、五軒の商店が獨占的の立場となり非常な活況を呈し、數年間抗日で甚しい苦境状態に悩まされたるも、事變直後から支那商店の閉鎖により俄然好況を呈

し、殊に軍部方面の大量納品にて従來の手持在庫品を一掃し品切れの爲に、長崎邊りの手近な同業者の在庫品までも小賣値段に等しい價格で仕入れる有様で、軍部納入は急を要する爲に大阪、東京より客車便にて長崎まで取寄せ、長崎より船にて上海へ運んだり等して非常に忙殺されつゝあり。

今後の見透し

文房具、紙製品等、特に軍部納品の將來性ある物は、上海に在庫品を準備して置くか代理店に便宜な方法で在庫品を相當豊富に蓄積させて軍部の注文を受ける様にすれば前途極めて有望である。高級事務用品は内地からの關稅が今少し緩和され、ば獨占的に輸出出来る事と思ふ。

上海戦後の漆器荒物の商況

岩田商店國産部 岩 田 銀 重

戦前流石豪華を誇りし英、佛租界の商工業も戦後の跡を受け購買力減退し、各商品も相當の滞貨あるものの如く、私共の營業品は日用雜貨なるが爲め現品を上海にストックして商談すれば支那人

方面にも相當の商談が出来得ると思ふ。目下の處、臺所用品及日用雜貨と雖も、支那人或は外人相手の先物契約は不可能の有様である。上海居留の日本商人は、食糧品及日用雜貨品が第一の需要品で、私共の臺所用品、日用雜貨取扱商人は軍隊方面の購入多く、尙復興の爲め各品薄を告げ購買力激増し賣込商人を歓迎すると云ふ現状にて、私は見本の一部を持参したるのみなりしもカタログに依り相當の商談を纏めたるも、歸國の期限に關係ある爲め充分の商談を收め得ず次回を約して歸國の途に就いた。

上海に於ける日本商品の動きと要望

今後新政府の樹立の下に治安維持確保せられ、支那人歸還したる曉は一般商品は勿論、日用雜貨品方面に於ても相當急激なる購買力を増し、尙上海を起點として南洋及印度支那方面にも華商の手に依り相當輸出復活を見る事と思ふ。私が英、佛租界の華商を二日間に涉り廻商するに、私共の製造扱品としては前述の通り、上海にストック品あれば商談を進め度き尙相當あるも、現在としてストックの關係と見本の一部なりし爲め残念ながらカタログに依り商談を進めしのみ、先物契約は出来ざる爲め其の方面の商談は不調に終る。

上海商人の取引上に就て要望する處、名古屋港積は運賃及便船の關係上特に大阪、神戸港積を要

望し居る。實情は大阪、神戸は社外船の運賃低率と便船の出港回数等の關係上、非常に有利なる點から切に大阪積を望み居る點から、吾が名古屋商人の中支進出發展を期する上から是非、社外船の名古屋港寄港と運賃對向値下げ實現するに非ざれば發展至難と、之れが對策を講ずるの急務を痛感す。

南京の商況

南京は水陸の便に恵まれ消費地の感あり、軍御用商は相當活躍を示し居るも其他は飲食店、旅館の一部程度にして戰禍日尙淺く着々復興の途にある。

南京の將來

中支に於て上海に次ぐの大都にして、消費地として有望、今後奥地にも相當購買力の進出可能、充分揚子江沿岸一帯は工場地として又相當期待し得らるゝと思ふ。

三月十八日午前七時、吾等一行五名、南京停車場より上海に歸還の途に就くも、私は一行より別れて單獨にて鎮江に下車、皇軍部隊を慰問し午後一時の便船にて揚子江を横斷、揚州に向ふ。上陸地點より揚州迄約五里、午後三時目的地に着、川並本部隊を直ちに慰問、それより各部隊を歴訪、心からなる慰問を述べ各將兵各位の勞苦を愴ふ。私が單獨で鎮江並に揚州の慰問の目的は平素親し

い將兵各位が多數此の地に駐屯せられ居る關係からである。遠く離れて、戰地で各將兵が私の姿を見て萬歳々々を唱へて迎へて呉れました事は、親子の情にも優り感慨無量。私の終世忘るゝ事の出來ない喜びであります。

揚州は中支第三の大都にして人口約百萬と唱へられ、此の地は戰禍に見舞はれなかつた爲め各建造物の破壊被害少く、住民も亦和やかな氣分に満ちて居たかの様に思はれる。

南京と同じく消費地で特産物として米の産地、今後揚州に販路擴張進出するも相當の見込みあると思ふ。揚州に來り川並部隊に種々御厄介になつた事を感謝する次第である。

三月十九日午後一時、揚州を辭し鎮江に三時再び歸來、〇〇部隊に御厄介になり一泊す。鎮江は揚子江の河近にあり水陸共に至便、此の地にかの有名なる金山寺と稱する弘法大師の修業せられたる名刹である。尙かの「月落ちて鳥鳴いても」の有名なる味露寺の名刹も亦此の地にあり、兩寺とも揚子江に高く聳えて風光絶佳なる土地である。

三月三十日午前十時、鎮江を辭して上海に歸路に就く。吾等一行十九名は十九日上海出發歸國の途に就かれしも、私は尙上海の經濟調査の必要ある爲め二十四日迄滞在しました。

上海、南京間の地質は總體に粘土で、山は少く従つて内地で見ることが如く隧道なく沃土にして施肥

せずして收穫に適し、天然の河池多く、日本内地の西濃の地形に相似て、河は泥深く至る處帆船を認め自然の天恵をうけて居る土地柄である。農産物は米を第一として麥、棉、桑園多く、上海より南京に至る沿道各所に製絲工場を見受けらる。米は非常に改收せられ、昔の如き南京米でなく、今は水田でしかも良質の米の收穫を見てゐる、麥は平蒔でたゞ耕作せず、然も蒔放しで收穫が出来る棉は米に次ぐの主要物産である、桑園は日本内地と殆んど相異なし、山嶽地帯は近年殖林を奨励してゐるを見受けらる。

上海弗貨の近況

國民政府の通貨統制も中銀が上海に於ける爲替統制賣を放棄して以來、底知れぬ不安状態を出現支幣に對する信用全く無く、之れに代つて圓貨が歡迎せられ圓の威力が中支に風靡する時期が到來したのである。

三月廿日には弗貨と圓貨が「トントン」になり市場の人氣行先き不安を唱へ居る、二十二日には十弗に對する圓貨が九圓五十錢となり、上海市場商取引は勿論、金融關係は非常に不安を來して居る、二十三日には圓貨九圓迄弗貨十弗に至り日本系の銀行關係は弗の預金を受けざる有様に至り金融界に異狀を來した譯である、越えて廿四日豫定の日程を無恙終へて正午上海を出帆、雄躍歸國の

途に就きました。

今回の行程に際し關係各位の寄せられたる深甚なる御厚配に對し衷心感謝致す次第であります。

上海に於ける子供乗物

子供乗物商會 虫 鹿 芝 一

愛知縣東亞輸出組合主催、縣市及び商工會議所後援の上海經濟調査團に参加し、春だと言ふのにまだ寒かつた、冬服で間に合つたと言ふ始末。上海へ着けば、上海の人の話では三十年來春の三月に雪が降ると言ふ様な事は無いと、如何にも戦後の清め雪かと思はるゝ感が有つた。

今度の支那事變に如何に皇軍將士が苦戦し、我々日本人の東亞進出を促進する機を造つて呉れたか、吾々日本人として此の際是非共將來の支那否上海方面の事情を知つて置く必要が有ると思ふ。其れでは私が見た現在及び將來の中支那と云へば大きな話で有るが、先づ第一に商業都市上海から話を續ける。虹口方面の日本商人は事變前殆ど支那人相手の小賣商が多かつたが、事變後は卸商となり、又は軍關係の仕事をやつて居る。其の内でも特に目につくには軍人さん相手の商賣で相當な

賣行を示してゐる。自轉車の如きも事變後昨年暮から本年初めに掛けて軍部が現地購入で相當の數量を納入させたから、一時的にもせよ賣切れと言ふ様な話があつた。今日では居留民も相當戻つて居るから市内でも新品自轉車の横行が見られる、それでは小賣値段はと言へば安物が五十圓位ひから普通物が六十五圓位ひ、上物は八十圓位ひと言ふ相場で小賣されて居る、事變前の自轉車屋は専門卸店二軒、小賣商が五軒位ひで有つたが最近では復興を見込んで小賣商が四軒開店してゐる、何れも修繕に新品組立に相當多忙を極めて居るから同業者同志の競争もほつ／＼初まつた様である。其れでは英租界及び佛租界は何うかと言へば、之は又外國租界は戦争が無かつた爲、租界は先づ治安が保たれて居るから自轉車の如きも平常通り營業もして居る、此の方面では自轉車の賣行きは市内小賣屋、支那人の仕事が少い爲事變前よりも悪いであらう、然らば卸屋はと云へば、お多分にもれず中支全般に戦争の影響で殆どストックを持ち、事變前日本の原價の安い當時から買込んだ品物を澤山持つて先づ困つて居ると見てよい。

子供乗物は私が特に氣を付けて充分調査した。今迄に卸商として極めて安物の地方向が上海卸自轉車商で大阪方面より少量輸出されて居て、市内玩具店及び雜貨店では餘り賣つて居ない。百貨店は皆子供乗物の賣場を造り相當の數量を陳列して居るが、英米製の様に見せて、皆支那人製、上海

製である、何れも支那人がすきそうな色取りで、事變前は相當賣行を示し「クリスマス」前は一日に數百臺の賣行きを示したと云はれ、如何に支那人が英米思想に捉はれて居るか解る。春は相當の賣行きが有る。何しろ事變で支那製産者、全部製産不能に陥り此の處當分は製造はゼロと見て差つかえ無い、將來性は有る。何しろ支那人も子供の愛には變りなく、子供と女には有る程度の無理をしても買つて與へる思想であるから、治安でも中支方面恢復されて呉れ、ば賣れると考へる。今日の處では喰ふと云ふ事のみで、まだ／＼子供の玩具迄には手がとどかないと思はれる。では支那製の子供乗物の製造方法であるが、第一車輪用のゴムは空氣入タイヤ等は税金の關係で、上海製「ソリット」タイヤは日本品、車體は日本製、小物類も同じく日本品と日支合辦車が多い。自轉車の如きも租界支那人の販賣して居る物は先づ子供乗物の組立で、話した様に日支合作で、素人が見れば外國人の如し、専門家が見れば日本品が混つて居て之も日支合辦である。若し私の申述べた左記の意見に多少なり共御協賛下さいました方々に上海人輪界の各位を御紹介致します。

日本人	大輪洋行。	長島洋行。	堀井洋行。
支那人	同昌車行。	泰昌車行。	得利車行。
			潤大車行。